

ふるさと加東の歴史再発見

—令和新時代の幕開け—

◆郷土史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」より

—神と仏と人が出会う里 加東—

◆議員活動ブログ「百聞百見」より

—平成30年9月～令和元年5月議会活動報告—



朝光寺鬼踊り



秋津百石踊り



上三草磨崖仏



黒谷柱まつり



上鴨川住吉神社神事舞



佐保神社秋祭り上組屋台

ふるさと加東の歴史再発見

— 令和新時代の幕開け —

◆郷土史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」より
— 神と仏と人が出会う里 加東 —

◆議員活動ブログ「百聞百見」より
— 平成30年9月～令和元年5月議会活動報告 —



朝光寺鬼踊り



秋津百石踊り



上三草磨崖仏



黒谷柱まつり



上鴨川住吉神社神事舞



佐保神社秋祭り上組屋台

目次

I 神と仏と人の出会う里—加東 ……………1

—郷土史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」掲載の祭りなど

上鴨川住吉神社神事舞、秋津百石踊り、朝光寺鬼追踊り、黒谷柱まつり、五峰山光明寺花まつり法要、東光寺大日祭、東福寺護摩焚、河高八幡神社厄除祭、清水寺で鴨川桜まつり、上三草磨崖仏、上三草の板碑、家原の石棺仏、河高八幡山上の石棺仏、吉井の里を救った竜神岩、吉馬の雨乞石笠石さん、曾我の北向き観音、東条湖水天宮、加古川鮎漁解禁—水神社、佐保神社秋祭、春日神社秋祭り、牧野住吉神社秋祭り、高岡稲荷神社秋祭り、天神一之宮神社秋祭り、木梨神社秋祭り宵宮、佐保神社湯祭、立明明神、佐保神社西の鳥居、御大神宮さん、上田の天神祭、松沢八幡神社子ども相撲、新町愛宕神社夏祭り子ども相撲、社一区祇園さん子ども相撲、長谷の祇園祭、上田大芋神社獅子舞奉納、天神八朔祭佳地堂で踊り奉納、天神一之宮神社再建300年稚児行列、稲尾の虫送り、藤田地区の大とんど、百旗のお地藏さん、山国観音堂で盆踊り、下滝野の土地蔵尊、新町の地藏盆、田町の定門地藏尊

II 平成30年9月～令和元年5月の議員活動記録 ……………71

—議員活動ブログ「百聞百見」掲載の県政・活動記録など

—〔資料〕平成30年12月議会本会議での代表質問

—平成30年9月～令和元年5月の議員活動記録一覧

まえがき

この「県政資料」は、私の議員活動ブログ「百聞百見」、歴史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」に投稿してきた記事の中から、テーマに沿って、選び、まとめたものです。

第Ⅵ集は、平成から令和の御代替わりを記念し、「神と仏と人が出会う里ー加東」と題して、主として、ふるさと加東の祭りや信仰を取り上げてみました。

平成31年4月30日、天皇陛下がご退位され、翌5月1日、皇太子殿下が第126代天皇にご即位されて、元号が令和に改められました。実に光格天皇以来、202年ぶりのご譲位によって新時代が始まったのでした。昨年、兵庫県は、設置150年を祝うとともに歴史を振り返りながら、新しい兵庫県づくりを模索し、「すこやか兵庫」をめざして平成31年度の第一歩を踏み出したばかりでした。その一月後、令和元年と御代が替わり、まさに国家的な記念すべき新時代の幕開けを迎えることになりました。

今年は、兵庫、北播磨、加東を新時代「令和のまほろば」とすべく、第一歩の年としたいと思います。

平成30年度後半（平成30年9月～令和元年5月）の活動記録から主なものを議員活動ブログ「百聞百見」から抜粋しました。また、30年12月議会での代表質問の内容も報告しています。この小冊子が、わが加東の宝を見直す資料の一つとして活用していただければ幸いです。

令和元年7月吉日

兵庫県議会議員

藤 本 百 男



〔神戸美鈴さん書〕

郷土史ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」より

神と仏と人の出会う里—加東

1. 上鴨川住吉神社で中世さながらに神事舞

2013年10月09日



5日夜、加東市上鴨川の住吉神社では秋祭の宵宮の行事が行われました。毎年10月4、5日にわたり祭礼が行われてきましたが、今は10月の第一土日に行われています。

5日は宵宮。境内では、長床での儀式、神巡り、拝殿での神主、

祢宜の舞などの神事が次々と執り行われました。電灯の明かりがあるのですが、装束や床に敷かれた菰、石の上の薪の火などの仕立てはまさに中世さながらの素朴さが伝えられています。境内では、地上に立てられた太い股木に禪姿の男たちがかけ声をかけながら柴をたてかけていきます。火がつけられると勢いよく燃え上がり、夜空に火の粉が高く舞い上がっています。

やがて、中世の武士のような装束で、鶏の兜と面をつけたリオンサンの舞が始まりました。笛と太鼓の単調なリズムで、御幣をつけた木の鉾を持って踊り始めます。境内では待ちかねたようにカメラマンがシャッターを押し始めました。

この神事舞は、昭和38年（1963）に兵庫県の重要無形文化財に、そして、45年には国の無形文化財、52年国の重要無形民俗文化財に指定されている貴重な民俗芸能です。中世から宮座とともに守り伝えられてきた上鴨川住吉神社の祭礼ですが、少子高齢化が進み、その維持継承についてのご苦労も多く、祭礼の日も変えざるを得なかったと聞いています。



上鴨川住吉神社の本殿は国の重要文化財に指定されています。正和5年(1316)に創建され、室町時代の明応2年(1493)に再建されています。昭和45年(1970)に大規模な解体修理が行われました。

※本殿は平成16年2月から12月にかけて檜皮葺き屋根の葺き替えと柱などの塗り替え保存修理工事が行われました。

2. 秋津百石踊りー秋津住吉神社に奉納

2016年04月30日



「昭和の日」の4月29日（金）、加東市秋津（常田）の住吉神社境内で、この地に古くから伝わる雨乞い踊りの百石踊りが奉納されました。

秋津百石踊は、「早魃の時には住吉神社の神前で踊って雨乞いをせよ」という神功皇后の言葉があったと伝えられている住吉神社の神事です。パンフレットの解説によれば、実際は室町末期から桃山初期の頃に雨乞い踊りとして始まったものだろうとされ、この踊りを一度催すと、百石分の経費を必要とすることから百石踊りと云われているそうです。もとは住吉神社の氏子村が参加していたそうですが、今では秋津の西戸（さいど）地区保存会だけが伝えています。

昭和47年に兵庫県の重要無形文化財に指定され、平成6年の日照りの年に雨乞い祈願で奉納されています。その後、東条とどろき荘で披露され、これを契機に、踊り保存継承の必要性などから、毎年日を決めて披露しようということになり、4月29日に奉納することになっています。

今年も3月から保存会の練習が始まり、今日を迎えました。練習の成果か、前日



までは雨。今日は曇りでしたが、時折りまぶしい日が差しました。しかし、冷たい風が吹いて、境内に揚げられた鯉のぼりが大きく泳いでいました。境内や拝殿では氏子村の代表らが神事を行いました。昨年から行われている湯立神事も行われました。

境内には、早くから多くの人が集まり、踊りの始まりを待っていました。11時、本殿と能舞台の間の石畳の中央に太鼓が置かれ、いよいよ踊りが始まりました。

太鼓の独特のリズム、踊り手の問答形式の掛け合いなど、少しコミカルな感じの踊りに思わず体が動いてしまいました。やがて、リズムは早くなり、踊りも激しくなり、頂点に達したところで幕を閉じました。

雨乞い踊りと聞いていましたが、昔は池の底で踊ったりしたそうです。また、一説には、恵みの雨が降ったあと、神様への感謝を捧げるために踊られたという伝えもあると聞きました。

人口減少、少子高齢社会が進行する中で、こうした地域の貴重な伝統芸能の維持継承はますます困難になってきます。しかし、そうした状況を乗り越えて大切に守り続けておられる保存会の皆さんに敬意と感謝の気持ちでいっぱいです。西戸地区は28戸の小さな地区ですが、村総出でこの踊りを守っていますと保存会の会長さんが話しておられました。

ふるさと加東の、そして兵庫の大切な宝。みんなでこの百石踊りのファンになって応援していきたいと思います。ちなみに私は東条とどろき荘で初めて見て以来、完全にファンになってしまっています。

〔古老の話〕

百石踊りの奉納に先だって、午前10時から大喜多宮司さん、

氏子村代表、西戸踊り保存会の皆さんが神事に臨みました。本殿の東の一角、本殿内、そして境内の伊勢神宮遙拝所を参拝。続いて、小宮前で湯立ち神事が行われました。この神事は今年初めて行われたものです。

今は五穀豊穰を願って毎年奉納されるようになりましたが、元々は雨乞い踊りです。今年91歳になる地元西戸地区の古老によれば、昭和32年に地区で寄り合いがあり、その席で当時の年寄りたちが百石踊りの地唄を歌いはじめ、大いに盛り上がったそうです。そこで、当時始まったばかりの有線放送局（東条町）からテープレコーダーを持って来させて録音し、それを放送で流したところ、反響が大きく、百石踊り復元のきっかけになったということでした。早魃のときに雨乞いの踊りとして踊られていたために、この踊りを継承していくことは難しく、今では西戸地区だけとなっています。

現在では、東条ダム（鴨川ダム）が築かれ、用水路網を通して、加東市、小野市域のため池、田圃に水が送られています。台地にも水が送られ、土地が拓かれました。しかし、この地域は全国的にも降水量が少なく、昔から川に堰を築き、水路をつくって田に水を引く、あるいは池を築き、水を溜めて田に水を引く、そうした血のにじむような努力が積み重ねられてきた歴史があります。水争いの歴史も伝えられています。そうした地域の環境の中で生きてきた先人の生き方、すなわち文化を伝え、教えてくれているものの一つが百石踊りです。

東条川がすぐ近くを流れています。ダムと用水路、ため池、田圃、そうしたものを軸に営まれる地域の祭りや人々の生活をひっくるめて、疏水文化とよんでいます。まさに伝統の百石踊りは

東条川用水疏水文化を代表する歴史的な文化遺産です。

3. 新緑光るなか、朝光寺—伝統の鬼踊り法会

2015年05月06日



5月5日（火）、国宝朝光寺（加東市畑）で伝統の鬼踊り法会が行われました。朝光寺には国宝の本堂、国指定重要無形文化財の鐘楼、そして加東市指定文化財の多宝塔が境内にそろう、まさに宝の庫そのものです。

今年はこどもの日にふさわしく、空は青く晴れわたり、朝光寺はまぶしいほどの新緑の光に包まれていました。空気も爽やかでおいしい空気を胸一杯に吸い込んでしまいます。

境内には多くの方が訪れ、加東市観光ボランティアの皆さんが多宝塔の前で説明をしておられました。本堂の正面には仮設舞台が設けられ、その周囲には早くから多くのカメラマンが場所取りをして鬼踊りの始まりを待ちかまえています。

午後1時、本堂で大般若経転読法要が始まりました。檀家の女

性による御詠歌の歌声と鉦の音、僧侶による転読の大音声が堂内に響きわたります。

いよいよ舞台上で鬼踊りが始まりました。まず翁が舞い、次に鬼が登場します。鬼は4匹。翁は法道仙人にこの地を紹介した住吉の神様、鬼は顔や姿こそ恐ろしいのですが仏の化身だそうです。松明、剣、斧、錫を持ち、鐘の音に合わせて単調ですが、時に力強く地面を踏みたて、飛び上がりながら踊ります。鬼の顔は色が違うだけでなく、表情も豊かで楽しめました。

踊りは至極単調で、五穀豊穡、疫病退散などの願いが込められています。この踊りの起源はよく分かっていないようですが、鎌倉時代か室町時代ではないかといわれています。

地元の畑地区の保存会の人によって踊りが継承されていますが、若い人の姿も見え、しっかりと伝統が受け継がれていました。

境内には国宝の本堂をはじめ、国重要文化財の鐘楼、そして多宝塔、山門、さらにはつくばねの滝もあり、境内の神社も再建され、銅板の屋根や白木の柱が雨に濡れた新緑に映えていました。

4. 黒谷のヤマ—若宮八幡神社柱まつり

2008年08月17日

8月16日の夜、加東市黒谷（旧東条町）の若宮八幡神社の境内で開かれた盆踊りに参加しました。

昼間の大雨で開催を心配していましたが、境内は老若男女でにぎわっていました。



境内の地面は少しぬかるんでいるところもありましたが、Tシャツ姿の若者の姿も多く、上手下手の区別なく踊りの輪に連なっていました。聞いた話では毎年大阪からの若者がこの祭りに参加しているということで、都市と農村の自然な交流の形ができていることに驚きました。踊りの合間の余興ビンゴゲームでもTシャツの賞品を提供するぐらいとけ込んでいました。

さて、この黒谷地区では8月16日に「柱まつり」が行われ、「ヤマ」とよばれる松の木を軸にしてつくられた大きな木の柱を燃やす行事が盆踊りのあとにあるということで、楽しみにしてきました。

10時過ぎに神主さんと黒谷地区の役員さんらが神社の拝殿、本殿で神事を行い、松明に火がつけられました。その火を八幡神社を少し東に下ったところにある民家の庭の前のような場所につくられた「ヤマ」まで歩いて運び、役員さんによって根本の部分に点火されました。いったん雨に濡れているのでなかなか炎が上がらずしばらく煙が立ち上っていました。「ヤマ」を囲んだ人々からは「さあ、つけよ！」とかけ声もかかります。

しばらくして、炎が立ち上り始めました。火の粉も舞い上がります。「ヤマ」は8月7日に当番の人々が山から伐り出して、今日まで乾燥させておいたものを組んでつくったものです。松の木のでっぺんには御幣がつけられています。炎が大きくなり近くには居れないほどの熱が伝わってきました。「ボン！」という大きな爆発音が数回響きました。竹が爆発したのです。なかなか御幣にまで火がつかず、地区のお年寄りの気をもませていました。

この「柱まつり」について、地元の方からいろいろ教えていただきました。全国に黒谷という名の村が四ヶ所ほどあり、このような火まつりをしているということです。京都の大文字の送り

火に関わりのある地域に黒谷というところがあるらしく、東条の黒谷も鴨川の清水寺に近く、西門（さいもん）という字名があるように清水寺に関係も深く、16日の火まつりという共通点がある、といった話でした。この「柱まつり」の歴史的な由緒などはよく分からないということでしたが、お盆の精霊送りの行事の一つだろうということです。また、「柱松」とよばれる行事が各地にあるらしく、お盆の精霊送り、豊作祈願、疫病退散など人々の願いが込められた伝統行事であることに間違いがないでしょう。



「小さい頃からこのヤマの火を見て育ってきたんや」というお年寄りの言葉にあるように地域の伝統行事を大切に継承していこうという熱い思いが伝わってきました。

5. 播磨高野の五峰山光明寺本堂で花まつり法要

2014年05月05日



5月3日（土）、新緑がまぶしい五峰山光明寺で花まつり法要

が営まれ、多くの方が訪れました。五峰山には4ヶ寺の塔頭寺院があり、それぞれの寺院で甘茶の接待や寺宝の公開などが行われ、訪れた人々はお釈迦様に甘茶をかけて祈りました。

昨年から花はじめの法要を山頂の光明寺本堂でも行うようになり、この一年間に亡くなられた方の家族や縁者が出席しました。檀家総代の方が今日の花まつりの意義や歴史を簡単に説明されましたが、元は「花まつり」は4月8日に行われていました。しかし、太陽暦の普及する中、昭和17年から5月8日開催に変更され、さらに社会状況の変化に対応して5月3日に行われるようになった、ということです。

〔駐車場から本堂まで〕

中腹の駐車場から急坂を歩いて登り、最初の寺院が多門院。毘沙門堂にお参りし、お釈迦様に甘茶をかけ、そのあと甘茶をいただきました。足の疲れと喉の渇きを甘茶が癒してくれます。

さらに坂を登って、遍照院へ。ここでは、国の重要文化財に指定されている「銅造如来坐像」が公開され、その姿を間近に拝することができました。この仏像は昭和55年（1980）に遍照院の蔵で発見され、翌年、国の重要文化財に指定されたものです。高さ24.2センチメートル、重さは6キログラムの銅造りで、平安時代中期の作とされています。

次は大慈院。大慈院では、日本に一つしかない善導大師の自画像があります。善導大師は7世紀の唐の高僧で、生涯に3幅の自画像を描き、その一幅が当時唐に留学していた僧によって日本に伝えられ、光明寺に納められたと伝えられています。あとの2幅は、インドと唐の長安の光明寺に納められたそうです。

一番上は花蔵院。境内の苔、白壁の塀、緑の若葉が美しい寺院

です。花蔵院を過ぎると、山門が目の前に現れます。光明寺の境内には神社や常行堂があり、さらに階段を上ると本堂に着きます。

数年前から花はじめの法要を山頂のこの本堂で行うようになり、この一年間に亡くなられた方の家族や縁者が出席しました。

いつもは、山上は静寂と緑に包まれ、読経の声と虚無僧の吹く尺八の音が響き、心が安まるのですが、今日は黒い雲が流れ、激しい風の音が轟いていました。本堂のさらに裏には光明寺合戦の本陣跡になっており、南北朝時代の戦乱の舞台があります。

6. 上久米東光寺で大日祭

2011年02月13日



2月11日(金)、建国記念の日は、加東市の東西で伝統の祭りが行われました。今日は上久米の東光寺で行われた大日如来祭を紹介します。

大日祭は「大日さん」「大日ったん」とよばれて昔から人々に親しまれてきました。かつては参道に植木や露店が立ち並び、多くの人出で賑わったという話をよく聞きます。今年もそんな昔の賑わいを懐かしみながら祭を楽しむ参詣の人々でした。

社町の広報に掲載された大日さんの紹介文を掲載します。

「郷土の探究」(8)「広報やしろ」第10号(昭和35年3月5日発行)

社町にも北播三大祭の一つとかぞえられるものに、上久米部落

にある東光寺の恒例祭とされている「大日如来祭」がある。昔から牛馬の守り仏として有名で毎年二月二十八日には播州一円の農家が参拝し、境内せましと思わせる。この日北播一帯の青年有志大相撲が展開されるとともに参道に列をなす植木をはじめ農機具などの多くの露店は、まさに社町のなかでの最大の祭りでもあり、北播三大祭の一つでもある。

本堂の正面には牛の草鞋がたくさん吊してありました。もう牛を飼っている農家はありませんが、往時の賑わいを伝えてくれます。



祭の楽しみは寺の前の田圃で行われる護摩焚と火渡りの行事です。山伏問答から始まり、

四方へ矢が放たれ結界が結ばれます。本堂で採火された火がつけられるともうもうと煙があがり、強い風にあおられて炎が燃え上がります。火が小さくなると、護摩壇が崩され、火渡りの道がこしらえられます。その頃になると、多くの参拝者が田の中に素足になって並び始めます。孫の手を引いたお祖父さん、子どもさんと一緒の若いお父さん、警備の消防団員など、山伏さんに背中は何やら指で字を書き添えてから一気に渡ります。まだ火がところどころ出ているのですが熱くないのです。今年もこうして無事に火渡りを終えることができました。

(2014年) 毎年この日は寒い。寒くなければならないように寒

くなる。

今年も白いものが散らつきましたが、護摩焚きの頃になると冷たい強風が吹いて、もうもうと立ち上る煙がまるで龍が天に昇るように渦を巻き、方向を回転しました。

火渡りでは、今年も無病息災を願って、まだ火がいこるなかを多くの人が素足になって渡っていきました。もちろん私も渡りました。これで8回目です（写真下）。

今日の祭りの次第は次のとおりです。

東光寺大日法会

一、午後一時

大般若経転読

一、午後二時

大護摩

一、午後三時

餅配り



日照山東光寺 護摩供養次第

一、法螺 三声

一、山伏問答

一、法弓作法

一、法剣作法

一、法斧作法

一、願文

一、点火

一、導師作法

一、古札供養

一、火生三昧（火渡り） 以上

7. 大深山東福寺で護摩焚

2008年12月08日



12月7日（日）、加東市松沢の東福寺で護摩焚が行われました。

午後一時過ぎから護摩焚き、火渡りの行事が行われるということでしたが、私は同じ時刻に別の会場での行事があり、残念ながら護摩焚きを見ることはできませんでした。

昼前に参拝すると、地元松沢の皆さんが参拝者にぜんざい、関東煮、抹茶のお接待をして下さい、心も体もほかほかと温まりました。また、早めに参拝された方々や地元の方々からお寺や護摩焚きのお話を聞くこともできました。

東福寺は大深山（おふかさん）と呼ばれ昔から有名なお寺で、松沢の西の大深谷にあります。昼前でしたが山から冷たい空気が降りてくるという感じで、日が当たり始めたのが11時過ぎだったということでした。谷筋の一本の道は嬉野へ、そして山国へと

通じていて、そういえば、山国の東の道標に「大深山」という文字が刻まれていたことを思い出しました。

境内には山門、本堂のほか、福寿堂などがあり、本堂の前に護摩焚きの準備がされていました。福寿堂内には西国三十三番の霊場巡りができるようになっていましたが、元は山門から一列に並んでいたということでした。本堂の山側は岩壁が高く切り立っていて、細い滝が落ちていました。

護摩焚きの時間が近づくとつれ、参拝者が続々と増えてきました。来年は行事が重ならないようにと祈りながら寺の坂道を下りました。

大深谷にある東福寺は元は多くの塔頭寺院がある大きな寺であったようです。今の寺はその一つであったということです。開基は法道仙人とも行基菩薩とも伝わっています。本堂は古くは室町時代に建立されたことが判っていますが、現在のものは嘉永年間（19世紀半ば）に再建されたものだそうです。

御本尊の十一面観音は行基菩薩一刀三礼の作と伝えられ、60年に一度御開帳されます。護摩焚きを待つ間、本堂正面脇に立てられた解説板を読みました。

大深谷（おぶかのたき）と呼ばれている滝は本堂に向かって右の山から落ちている滝で、水量は水がしたたり落ちる程度です。地元の方に水源は？と尋ねると山から湧いてきたものでしょう、ということでした。昔は冬になると氷柱（つらら）が下がり、それをわらに包んで持って帰った、とも話されていました。

伝承では、今から1125年前の仁和4年（888）に東福寺が消失した時に御本尊が滝壺に入ってその後上がってこられた、ということ。そこで、この滝の水は万病を治す効果があると伝え

られているようです。参拝の方が「いぼが取れるんです」と体験を話して下さいました。仁和4年は仁和寺建立の年で、その前年には仁和地震と呼ばれている大地震、今その発生が危惧されている東海・東南海・南海地震です。大阪湾に巨大津波が押し寄せたという記録があるそうです。

8. 河高八幡神社の厄除け祭り

2013年02月14日

2月11日（月）、加東市河高では八幡神社で厄除け祭りが行われました。県立播磨中央公園の中にあるこの八幡さんには毎年参拝していますが、今年もそのようすを紹介します。



河高八幡神社は、今から約470年前の天文4年の創立とされており、「厄除けの靈驗頗る顕著」なお宮さんとして知られています。厄除けのお祭りが毎年1月19日に行われ、この日には旧加東郡や加西、多可郡から多くの方が参詣し賑わってきました。近年は2月11日に行われています。

この厄除祭では、地元出身の成功者や厄年の人たちが神社のある山の頂の祠のある大岩の前でお金（硬貨）や菓子、餅などをまき、それを子どもたちが拾うという行事が行われることでも知られています。神社本殿から山頂へと整備された道をのぼると、巨岩の前の広場には法被姿の子どもたちが群れています。そこへ袋やお盆にお餅などを持った人たちが現れ、巨岩の上の祠にそれを

お供え、拜んだあと、子どもの方に向かって硬貨やお菓子をまきます。子どもたちは歓声をあげながらそれを拾って用意した自分の袋に入れていきます。周囲では子どもの親御さんや家族がその光景を微笑みながらみえています。



戦後の一時期、女の子も参加したようですが、今は地区の男の子だけが参加できるようになっています。この祭りを「奇祭」とよび、子どもがお金を拾うという行為を好ましくないなどという観点から

一部の批判があったことは確かで、かつて毎年新聞でそのようなコメントが付けられていました。しかし、このお祭りは厄除けの祭り、伝統文化、地域社会などの観点から見るとそのような表面的な見方だけの批判は的はずれといわざるを得ません。子ども達は拾ったお金を特別なお金として大切に使い方を考えたと聞きました。また、拾っている姿を見ていると、年長の者が年少の者に配慮しながら拾っている姿もありました。成功した人が地域に感謝の気持ちを示すというこうした姿勢をこの子ども達がまた継承していき、地域の維持発展につながることをと思います。

今年は天気もよく、おいしいうどんを食べ、「ぽかぽの湯」の温泉たまごを買って帰りました。

9. 清水寺で鴨川桜まつり

2009年04月20日



4月19日、新緑がまぶしい播州清水寺（加東市平木）で「桜まつり」が開かれました。

根本中堂西側の広場にはステージが設けられ、地元鴨川小学校の児童による和太鼓の演奏や御嶽太鼓の演奏などが

披露されていました。また、根本中堂東側ではお茶席も設けられ、社茶道協会の皆さんのお手前でお茶をいただきました。

講堂西側の本坊では、木彫仏像展も開催されていました。寺宝の「銅造菩薩立像」（県指定文化財）も間近に拝むことができましたが、仏師の宮沢博さんから仏像を彫るようになったきっかけをお聞きしてその機縁の不思議さに驚きました。宮沢さんは社町に進出した工場の工場長として造成された敷地を歩いていて足元にある小さな金銅仏を発見。その後鑑定してもらったところ鎌倉時代のもつわり、仏像の厨子を自分で作ったのが仏像を彫るきっかけになったということだった。その金銅仏も展示されていましたが、本当に小さな仏像でした。

清水寺には懐かしい思い出があります。まだ大塔があった頃、その大塔から瀬戸内海の光る海が見えたこと、草深い山道をかきわけて南朝忠臣赤松氏範の墓に案内してもらったこと、ボーイスカウトで講堂に宿泊した夜、空ではなく同じ高さで稲光を見たこと、夜の登山道で大きなヒキガエルに躓いたこと等々何とも懐かしい思い出になって今もよみがえってきます。

南朝忠臣、赤松氏範の墓

2006年10月12日



小学生時代に、「お話を聞く会」がありました。社小学校の木造校舎の二階の講堂で聞きましたが、その話はこんな内容だったと思います。

一山の麓の小さな村の一軒の家。雨の夜、はやく布団にもぐりこんで寝ていると、庭の方から、雨音に混じってガシャガシャという金物のすれあう音が聞こえてきます。そっと戸を開けてのぞいてみると、鎧武者が槍を杖がわりにして立っているではありませんか。おそろしくなって戸を閉め、布団にもぐりこんでふるえていますと、しばらくたつと音もなくなり、姿も消えてしまいました。そんなことがよく起こりました。ある日、勇気を出してその武者に話しかけてみると、こんなことを話すのです。

「我はこの山の上で戦いに敗れて死んだ者だ。一族の者みんな死んでしまって、誰も供養をしてくれない・・・」さっそく、この話を村人に話し供養をすることにしました。それから鎧武者は現れなかった、ということでした。

40年ほども前のことですから、あとから勝手に無意識に作り替えてしまっているかもしれません。しかし、妙によく覚えているのです。

さて、この話は清水寺で自刃した南朝の忠臣、赤松氏範（うじのり）とその一族郎党の話だったと思うのです。少なくとも私は

今日までそう信じこんできました。山とは御嶽山で、麓の村とは平木のことです。鎧武者は御嶽山清水寺で自刃した赤松方の武士でしょう。

墓は清水寺山頂の駐車場のそばにあります。自動車登山道がなかった頃は、寺から尾根にそって北の方に細い道を歩かねばなりませんでした。

実は、私は小学生の頃、一度この墓に行ったことがあります。以前、このブログで清水寺の大塔のことを書きましたが、寺に泊まったその日、小坊主さんの案内で背丈以上もある笹が生い茂った道をかき分けながらその墓まで行ったのです。尾根の先のところ、周囲は木々に囲まれた墓地がありました。中央に大きな墓が、そして、その傍らには一族郎党のものと思われる小さな墓が並んでいました。中央の墓は真ん中あたりに大きな割れ目があったように思います。これが、赤松氏範の墓だったのです。

赤松氏範は14世紀南北朝時代の人で、播磨の豪族、赤松円心の子です。赤松円心は、はじめ南朝方についていましたが、のちに北朝の足利方につきます。兄弟4人のうち、氏範一人が南朝について忠義を尽くしました。

足利義満が三代将軍となり、南朝の勢力はおとろえはじめました。氏範は1386年、最後の戦いに挑むべく、京の幕府を襲いましたが、幕府勢に押し返され、播磨の清水寺に立てこもりました。これを攻めたのは山名の軍勢でした。さらに山名勢が去ってからは細川勢が攻めました。氏範はよく戦いましたが、何せ味方は少数、幕府軍は大軍とあって、兵糧もなくなり、遂に覚悟を決めて、寺の北東の峯に一族郎党を集め、自刃をして果てたのです。これが、清水坂の合戦とよばれる戦いです。

赤松氏範。小学5年の頃から夢中になって読んだ少年少女向けの「太平記」。楠木正成や新田義貞といった南朝の忠臣の縦横無尽の活躍に心を躍らせていました。その南朝一筋に忠義を尽くした武将、赤松氏範が最後に戦ったのが清水寺だったということを知り、何か言いようのない興奮を覚えたことを憶えています。

写真は『加東郡の文化財』（加東郡教委編、昭44年刊）に掲載されている氏範の墓（碑）の写真です。私が小学生時代に見た姿に一番近い時期のものです。

清水寺の思い出

2006年09月23日



この写真を見て下さい。手前は御獄山の山頂にある清水寺の根本中堂です。その向こうの奥の階段の上に塔の屋根が写っています。これが清水寺の大塔です。今はもうありませんが、と

ても大きく立派な堂々とした塔でした。

私が社小学校の5年か6年生の頃でした（昭和40年か41年頃）。夕方から父と弟と一緒にバスで平木まで行き、暗くなってから清水寺に登りました。今のような自動車道はもちろんなく、懐中電灯で道を照らしながら歩いて登ったのです。

途中で蹴躓いて転けそうになりました。石に蹴躓いたのだと思って電灯で照らすと、なんと見たこともない大きなヒキガエルがいました。その晩は清水寺の宿坊に泊まりました。

翌朝、小坊主さんに案内してもらって、大塔に登りました。大塔の二階からの景色は今でも鮮明に覚えています。山並みのずうっと向こうに朝日にきらきら光る海、瀬戸内海が見えました。

境内の井戸のところまで行くと、井戸の木枠が壊れていました。「猪が落ちています」という小坊主さんの声におそろおそろ近づいて中をのぞき込むと、小さなウリ子が数匹死んでいました。親の姿はありません。猪は親が先頭に立ち、ウリ子がそのあとを一直線に走っていたのでしょう。親が井戸に落ちると次々とウリ子も井戸の中に転落していったのです。しかし、ジャンプ力のある親は井戸の木枠を壊しながら脱出していったのです。悲しいかな、ウリ子を助けることはできなかったのです。

清水寺の大塔は高野山金剛峯寺や根来寺の大塔とともに日本三大塔といわれていたそうです。清水寺は大正2年（1913）の全山大火事で堂塔伽藍ごとく焼けてしまいました。その後、次々と再建され、大塔も大正12年に再建されました。しかし、昭和40年（1965）に台風のために大きな被害を受け、さらに昭和48年には落雷を受けました。そして昭和50年には解体されました。

13. 上三草の磨崖仏—600年以上も昔から

2010年04月30日

28日（火）、加東市上三草の「三草ふれあい喫茶」に出かけました。県民交流広場事業で立ち上げられた「三草ふれあい広場」では、ふれあい喫茶をはじめ、マップ部会による地図づくりや交流部会による都市農村交流イベントの開催などさまざまな交流の場づくりが行われています。



コーヒーとケーキ、そして会話を楽しむ中で、上三草の旧街道沿いにある磨崖仏のことが話題になりました。古い磨崖仏があるということは聞いていましたが、実際に見たことはありませんでした。天気も上々、ふれあい喫茶からの帰りに磨崖仏を探して旧道を上ってみました。

上三草の家も途切れて、このまま行くと山口へと入っていくなと思いながらゆっくり車を走らせていると、左（西）側に山が張り出し、大きな岩が見えてきます。その岩の高いところ、仏像が彫られているのが目にとびこんできました。

仏像はそう大きくなく、仏像の下には小さな仏像が二体彫ってありました。道から見上げるほど高いところに彫ってあるので、きっと街道を往来する人はこの仏を見上げながら、手を合わせたことだろうと思いました。

帰宅して調べてみると、この磨崖仏は1375年に造られたものだそうです。今から600年以上前にこの仏が造られていたとは驚きです。銘文からそのことがわかったということでしたが、道からは銘文は判別できませんでした。

14. 上三草の板碑—室町時代から

2010年05月01日

昨日紹介した加東市上三草の旧街道沿いの磨崖仏のすぐ下に石板に仏像が彫られた板碑があります。磨崖仏といい、この板碑と



いい、何度もこの道を走っていても気がつかなかったとは。つくづく何も見ないでいたんだなあ、とため息が出てしまいます。

畳の4分の1ほどの大きさぐらいの石板に仏像が2体彫られています。『新修加東郡誌』によれば、その形、彫り方から室町時代初期のものと推定されています。14世紀ということですから、磨崖仏と同じく600

年以上昔のものということになります。

2体の仏像は、地蔵さまと阿弥陀さまで、「仮りに亡霊が死出の旅路に迷い、あるいは誤って地獄におちることがあっても、かならず地蔵が救い出し、弥陀の浄土へ引摺してくれるという地蔵振興を具体的に表現したもの」（『新修加東郡誌』）ということです。

この街道で行き倒れになった旅人の魂が迷わぬようにとの願いで造られたものではないでしょうか。すぐ右上の磨崖仏と一緒に600年以上も静かに行き交う人を見守っているんですね。

15. 家原の石棺仏

2011年10月21日

旧国道175号と社環状線が交差する加東市家原の赤岸交差点から西へ少し行ったところで車を止め、道路北側の階段を下りると、いかにも古い五輪塔と石板が目飛び込んできました。

これが家原の石棺仏か。予想していたよりも大きく存在感があ



りました。傍に「加東市指定文化財 平成22年3月31日指定 阿弥陀石棺仏」と書いた表示板が建てられていました。『新修加東郡誌』には、「凝灰岩製で、現高140センチ、幅73センチ、厚さ15センチ、古墳時代後期の長持石棺の蓋を利用」とあります。阿弥陀如来が彫られて

ており、室町時代末期に造られたものだろうとされていました。

古墳時代の石棺の蓋、そして室町時代末期……。あまりの古さに圧倒されます。石棺仏の前にはお供えがしてありました。今もなお、信仰の対象として「ここにある」という存在感にただただ圧倒されつづけました。

16. 河高八幡山上の石棺仏

2012年02月12日



2月11日建国記念の日。この日、加東市では2つの祭りが行われました。加東市河高の八幡神社の厄除けのお祭り。そして、上久米の東光寺の大日祭。河高の厄神さん、上久米の大日さん

と昔から親しまれてきたお祭りです。

河高の厄神さんでは、地元出身の成功した方や厄年の人たちが

お金（硬貨）をまき、それを子どもたちが拾うという行事が行われることでも知られています。

八幡神社から山上へ坂道を登っていくと、山頂には、むき出しになった大きな岩盤とその中央に注連縄が張られた巨大な岩が立っており、その頂上に小さな祠が安置されています。

その巨岩の脇の岩の下に四角の板状の石があり、小さな仏様が刻まれています。これが毘沙門天石棺仏です。古墳の石棺の一部に仏を刻んだものが石棺仏です。まるで岩を支えるように、また、岩の下で雨露を避けるように石棺仏が置かれています。

17. 吉井の里を救った竜神岩

2011年01月30日



加東市立東条西小学校の西方の山裾に住吉神社があります。神社に通じる車一台がやっと通れる細い道を進み、石鳥居の前まで来ると、その前に大きな岩がありました。さざれ石のような岩に見えます。

何だろうと後ろに回ると、石板にこの岩にまつわる話が刻まれていました。次の通りです。

竜神岩（雨乞い岩）

今から約二百年前わが吉井村が大かんばんつにあい、危急存亡のとき嶽の下の竜神岩に赤牛の生首を供へ村あげて雨乞いの大祈願をしたところ靈驗あらたかに現われ恵みの大雨沛然として吉井の里に降り来り生きとし生けるものみな生氣を取り戻しその秋は大

豊作となり村は救われたのである。その後幾星霜、歳ふるに従い、この岩の存在も村人より忘れ去られようとし、時、たまたま東条川の大改修にあたり今一度往時をしのび偉大な神恩に感謝すべく村人相はかり、この岩を鎮守の地に移し安置したのである。

昭和六十二 丁卯之春 岸本格 文

なるほど、この岩は吉井の里の大かんばつを救った雨乞いの岩だったのです。昭和62年（1987）から約200年前のことですから、江戸時代も後半、松平定信が寛政の改革を進めていた頃ということになります。それにしても赤牛の生首をお供えしたんですね。

※ちなみに「岸本格」の名は、私が社小学校に通っていた頃の校長先生の名前です。懐かしいお名前でした。

18. 吉馬の笠石さん

一田圃の中の不思議な雨乞い石

2011年02月01日



加東市吉馬の県道を走っていると、東の山側、道沿いの田圃の中にぽつねんと岩というか、石柱がたっているのが目に飛び込んできます。高さは2メートルぐらいでしょうか、人の背の

高さよりも少し大きく、自然石のように見えます。よくよく見ると、てっぺんにこんもりと凸状に突き出た部分があり、人の手が

加わっています。また、正面から見ると、肩の上に首があり、その上に凸があって、人のような、仏様のようにも見えます。

これが吉馬の笠石さんと呼ばれている雨乞いの石、地蔵さんなのです。昔から日照りの時にはこの石に笠の石をかぶせて雨乞いをする風習があると聞いていました。笠になる石はどこにあるのかと探してみると、田圃と道路の間に裏向きに置いてありました。真ん中に凹部分の彫り込みがあり、間違いなく笠の石です。

この笠石さんは田圃の中に置いてあるというのではなく、根元は地面の奥深く大きな岩盤になっているとも聞きました。不思議な雨乞い石ですね。

19. 曾我の北向き観音さん

2011年04月12日



今日は、加東市曾我の北向き観音さんを紹介します。

曾我地区は加東市の北辺、西脇市との境に位置します。最近、この曾我地区の歴史をまとめた冊子をいただきました。その中に「北向き観音」のエピソードが掲載されています。ちょうど天気の良い日にその県道を西脇方面に走っていて、ふと、この観音さんのことを思い出し、車を止めてお参りしました。

北向き観音さんについて、傍らに立てられている看板に手書きの説明がありました。漢字には読み仮名が丁寧にふってあります。その説明を紹介します。

観音菩薩地蔵の縁起

所在地 加東市曾我荒子

(県道西脇三田線、加東市と西脇市の境を接する山麓)

建立 安永8年8月(西暦1779年)

本尊御身丈 高さ83cm 幅42cm 厚さ28cm

施主 当村 西国同行9人

伝承 すべての難病にその靈験あらたかと謂われている。又昔は道標としても利用されていたらしく、台座に「右大ふか山 みき 左阿りま、大阪」とある。

(通称)・曾我北四石のお観音さん

・荒子のお観音さん

古より北向きの観音様は珍しくその靈験たるや絶大なるものがあると謂われています。近年そうした風潮に便乗するかの如く諸所に立派な北向き観音像が建立されているやに仄聞します。併しながら建立以来幾星霜の風雪に耐えた、素朴な当、北向き観音様を今尚信仰する近郷近在人らの手向けの香華が絶えることがない。

又、その昔ここに佐保神社の大鳥居が御社の真北にあったとか。その為彼岸の中日に鳥居の真上を太陽が通り調度お日様が鳥居をくぐって佐保神社にお参りする様に見えたとか伝えられています。

又毎年8月9日には4満6千と云ってこの日にお参りすると、4万6千回御参りしたのと同等の功德をもたらされると伝えられている。

更に8月17日は御観音さんの縁日で青年団が提灯を吊し地区挙げての盆踊りやら急拵えの舞台で浪曲大会やら万歳等も催されそれはそれは賑やかだったそう。

ところがこうした風習も第二次大戦半ば位までで時の戦時体制

の余波で廃れてしまった。

儂い人生せめて信仰に救いを求めるのは有意義なことと思います。商売繁盛、家内安全、病魔退散、又来世の幸せを願い敬虔な気持ちで御参りましょう。

曾我の四つ石—佐保神社の鳥居跡？

2011年04月13日

昨日紹介した加東市曾我の北向き観音さんの説明板に「昔、佐保神社の鳥居があった」という話がありました。

佐保神社は加東市社にある神社で、この北向き観音さんのある字荒子は佐保神社の北の方角、約4キロの位置にあたります。昔の距離でいうと一里になり、神社の一里四方に大鳥居が立っていたといわれている話に合う場所です。

神社の八丁四方にも鳥居が立てられ、その一つが加東市鳥居に今もあり、村の名前にもなっています。佐保神社に内外八基の鳥居が建てられたのは鎌倉時代のこと。尼將軍で知られる北条政子の寄進とされています。大社にはこうした例があると聞いていますが、鎌倉時代の初期の頃、佐保神社の八丁四方、一里四方に計八基の鳥居が建てられ、その跡がこの曾我の北向き観音さんの辺りという伝承に驚きました。

20. 東条湖水天宮で安全祈願—高瀬舟で湖上遊覧

2015年05月20日

19日（火）、加東市黒谷の東条湖上に浮かぶ岩場に祀られている水天宮の祭りが行われました。

水天宮はダム（堰堤）近くの湖上に突き出た岩場の上に社殿に



祀られています。昭和34年（1959）に建立されたもので、ダム建設によって湖底に沈んだ大小の神々を鎮めるとともに、涙をのんで立ち退かれた土井部落の人々への感謝、湖の安全と観光の発展を祈って水神様を祀ったのです。

岩場からは広い湖を見渡せ、ダム本体のすぐ近くにあり、ダムの向こうに広がる豊かな東条谷の田園、さらに六甲連山を遠望できるという絶好の場所にあり、その岩場に水天宮の社殿が建てられたのでした。桜の頃には岩場のある半島の公園で花見を楽しんだという話もできました。

観光協会、加東市、地元地区、観光施設関係者、そして元土井部落住民らが参列し厳かに神事が行われました。

神事後、グランド赤坂の高瀬舟に分乗して満水の東条湖を一周しました。東条湖はその形から「雲龍湖」という名にしようという話もあったとも聞いていますが、たしかに上空から見たその形は大きな頭と細長い胴体をもつ龍のようでもあります。また、東条湖には、東条湖八景とよばれる絶景の場所があり、それらは、水天宮、不動岩、妹背岩、屏風岩、五ヶ所溪谷、鞍馬峡、鷺の巣窟、蓬莱峡と名付けられ、湖上巡りの観光船で賑わいました。

今日は湖面を吹き渡る涼風を受けながら高瀬舟で湖の奥深くまで遊覧できました。屏風岩、鷺の巣の岸壁は湖面から見上げる巨大さで迫力がありました。また、大川瀬ダムからの導水路（隧道）

の吐出口も湖面から見ることができました。30分余りの短い時間でしたが、満水の湖から緑の美しい景色を満喫しました。

湖畔のグランド赤坂では、遊覧時間30分（大人1000円、小人500円、10名以上の団体割引900円）で高瀬舟が運航されています。天気の良い日にぜひ乗船してみてください。当日申込みでいけるそうです。

21. 加古川の川開き・鮎漁解禁—水神社で祈願

2016年05月02日



5月1日（日）、まぶしい日射しの下、加東市上滝野の名勝闘龍灘は普段より水量も多く、岩場に白い波しぶきが轟音をたてて光っていました。

全国で一番早く鮎漁が解禁となるこの日、多くの釣り人達が岩場に陣取って釣竿を差し出して、若鮎をねらって糸を垂れていました。今年も加古川漁協により揖保川の鮎が放流され、滝を上ろうとする鮎を釣り上げていました。



闘龍灘では、「笥漁」と呼ばれる伝統の鮎漁が行われていました。笥（樋）で滝の水を岩場に引いて、鮎の飛ぶ習性を利用した漁のことです。放流用の鮎が少し逃げて、

岩場の水溜まりで泳いでいるのを子供が網で捕っていました。

滝を見下ろす闘龍スクエアにある水神社では、毎年恒例の川開き神事が行われました。加東市観光協会が主催し、加東市、国土交通省、国会、県会、市会議員、地元区長、加古川漁協、観光ボランティアが参列し、地元上滝野の春日神社の長谷川宮司が祝詞をあげ、今年の豊漁と川の安全を祈願しました。その後、全員で若鮎を加古川に放流しました。

22. 佐保神社本宮 —瑞神門修復を祝い屋台の5台練り

2012年10月08日



7日(日)、佐保神社秋祭りの本宮。私の住んでいる加東市社には、上組(かみぐみ)、下組(しもぐみ)の2台の屋台が伝わっており、私は上組に属しています。その上組屋台倉には、8時過ぎから各町

内まとまって担ぎ手が揃いはじめ、9時に出発、町内の巡行が始まりました。

空は晴れ、日射しに屋台の飾りがまぶしく光っています。ドンデンドンの太鼓の響きに家々から人が出てきて迎えます。

10時頃、商店街で子供の屋台引き。11時前には神輿2台、



特別参加の東古瀬の屋台を含めて5台の屋台が一行に並んで田町筋を巡行し、そのまま道池通りから銀座通りへ。その光景はまさに壮観です。

昼食後、市街地南端の明治館前から順番に佐保神社へと向かい、午後1時から宮入りが始まりました。神輿、新町、上中、東古瀬、上組、下組の順番で瑞神門と大石灯籠の間を通過して境内に入り伊勢音頭に合わせて豪快に練ります。

ところが、いよいよ上組の宮入りというときに、俄に空が曇り冷たい北からの風が吹き始めたかと思うと雨が降り出したのです。太鼓屋台を濡らすわけにはいきません。急遽屋台に合羽を着せての宮入となりました。その後、5台が揃って境内に並んだときにはもう空は晴れていました。

今年特別参加の東古瀬の屋台の独特の屋台回しも披露されました(写真)。6年ぶりでしたが高速回転に歓声があがりました。境内ではこの他、大門地区の獅子舞、剣道大会も行われ、多くの人出で賑わいました。

午後3時を回って下向が始まり、拝殿前に5台が並び、一斉に伊勢音頭でその場練りが行われました。まさにクライマックスです。5台練りがおわり、新町から順に下向して、今年の佐保神社秋祭りも幕を閉じました。三階(地名)交差点では東古瀬、上組、下組の3台が挨拶をして見送りました。

倉に無事納めたのはもう5時を過ぎていました。こんなに遅くなったのは初めてのことですが、充実感、満足感に満たされた祭りの終わりでした。

昭和12年の佐保神社秋祭り

2006年07月21日



この写真には「昭和12年10月16日祭礼上組屋台」と書き込まれています。

昭和12年（1937）といえば、中国大陸での戦争が拡大していった時代ですが、佐保神社の祭礼はこの年も行われたんですね。

佐保神社の宮元である社の氏子は、「上組」と「下組」の二つの組を構成し、太鼓屋台を奉納しています。上組の区

域は、ほぼ現在の社一区、二区、三区になります。

写真には、中央に上組の屋台が、そしてあと二つの屋台も写っています。上組屋台であることは、飾りの鯨（しゃち）でわかります。屋台の前に勢揃いしているのは上組の役員さんや若い衆でしょう。前列左端に若き日の父、藤本豊治（のちに社町長）の姿が見えます。

この時代の佐保神社の秋祭では屋台の宮入とともに奉納相撲大会が盛大に行われていたようです。父の日記によれば、昭和9年10月16日の本宮の日は、雨がしとしと降ってきて、すでに出水や下組の屋台は出ているのに上組の屋台は10時頃になっても動こうとしていなかった、とあります。その後、法蓮寺で昼食、郡公会堂で休憩、午後1時前に宮入を、2時に無事終了したよう

です。相撲大会は河合が優勝、5時半に終了。翌17日に「花」を集めに行き、その日のうちに「帳破り」をし、皆で威勢よく酒を呑み、肉を食べて午後3時に解散した、とあります。昭和6年の日記にも



も同じようなパターンで祭礼から「帳破り」が行われていたことが記されています。昭和13年の日記では、相撲大会が近來にない大盛会だったようで、参加部落も加西郡（現加西市）、加東郡（現加東市と小野市域）から13組が出場したとあります。

私は昭和40年代に中学生時代を過ごしましたが、当時は、佐保神社境内の相撲場で加東郡中学校対抗相撲大会が開催されました。この日に向けて校内で相撲大会をし、選手を選んで練習を重ねて出場しました。当時は知りませんでした、伝統の行事だったんですね。今は相撲場はありません。そして相撲大会もなくなり、剣道大会が行われています。

老松と太鼓屋台

2006年08月16日

この郷土史ブログの第一回投稿原稿は6月13日、「塀が歴史を語る」でした。どんな話だったかというと、旧社町の中心部の社地区の市街地に「老松町」（おいまつちょう）という地名があり、その由来は、大きな松の木（老松）が通りに面して生えていたからだ、ということでした。今はその松はなく、八坂神社（祇園さん）の塀の一部が、松を伐ったあとをセメントで塗りかため、そ



の痕跡が残っているという話でした。

その時に、証拠となる写真の話も紹介したのですが、その後写真が一時行方不明になり、掲載できませんでした。ようやく発見

見。今日はこれを掲載することができます。

この写真は、佐保神社の秋祭の太鼓屋台の記念撮影のようです。昭和の初め頃のものと思われます。

さて、どこの村の太鼓なのでしょう。太鼓の特徴の一つ、飾りをみると、大きな海老が目をひきます。太鼓に詳しい人の話では、はっきりとしたことはわからないが、出水の太鼓ではないかということでした。どなたか、教えていただければうれしいのですが。

さて、場所は社一区、八坂神社の交差点の前のようです。写真右の道路が今の商店街を南北に走っている通りです。写真左の奥、柳の木が見えますが、持寶院の境内になります。

この写真の右に大きな松の木が写っているではありませんか。位置から見て、この松こそ、堀に痕跡を残している老松にちがいありません。相当大きな松だということがわかります。

人物の顔もはっきり写っています。また、拡大してみると、白い法被の襟には佐保神社の三階菱の御紋が描かれています。人物の中で、棒の上に乗っている蝶ネクタイの人物が気になりますね。そして、右から2人目の若者は若き日の父、藤本豊治です。

79年前の社上組太鼓屋台と判明

2011年09月22日

佐保神社（加東市社）の秋祭りが近づいてきました。昨日20日から上組太鼓保存会では乗子の子も達の練習が始まるはずでしたが、台風15号接近のために取りやめになってしまいました。

今年は10月8日宵宮、9日本宮と決まっています。これから毎晩、上組の太鼓倉では飾り付けと太鼓の練習が続きます。ドンデドン、ドンデドンの太鼓の音が響いてくるとだんだん心が騒いでいきます。

さて、太鼓といえば、今日アップしている写真（※前話に掲載）はこのブログでも紹介してきたものですが、はじめどこの太鼓屋台かよく分かりませんでした。その後、ブログを見た太鼓研究家の方から上組の太鼓だと教えていただきました。確かに撮影場所は現加東市社の一区の八坂神社の前であり、佐保神社の三階菱の印がついた法被を着た若い頃の父の姿もあるのですが、何せ飾りの海老は今の上組の太鼓の鯨とは違っているし、父以外の担ぎ手の顔に見覚えがない、ということでいろいろ疑問が残っていました。

そんなことも忘れていたのですが、祭が近づき、昔の太鼓屋台の飾り付けのようすを調べようと昭和7年（1932）の父の日記を読んでいると、10月2日の頁に次のような記述がありました。

太鼓をかつぐ用意にかかってしまふ。

午前十一時過ぎ出発。祇園神社前で記念撮影を終えて区長前、都亭の横、黒石の前で休憩して山氏神社入口で終る。

～中略～ 午後二時終了

これは山氏神社の祭に上組太鼓を出した時のものだと思いますが、「祇園神社前で記念撮影」という一節に、ああ、あの写真のことだと直感しました。昭和7年といえば父は23歳。青年時代の父の姿と符合します。約80年前の上組太鼓屋台の勇姿に見入ってしまいます。

23. 春日神社の秋祭り—勇壮な屋台練り上げ

2016年10月03日



2日(日)、加東市内各地で神社の秋祭りが行われました。

加東市上滝野の春日神社では、祭礼の儀式で氏子地区の中学1年生の女子が巫女姿で豊栄の舞を奉納し、舞殿では下滝野

地区の獅子神楽で子供達が囃子として演じるなど伝統の祭りを若者が盛り立てました。

そして、昼すぎには氏子地区の神輿が賑やかに宮入りし、境内を元気よく練りました。夏の日射しが戻ってきたような暑さの下、神輿の飾りがまぶしく光っています。

いよいよ上滝野地区の太鼓屋台の宮入りが始まりました。大正時代に神崎郡の大門村から買って担いで持って帰ってきたと



聞いています。北播磨の屋台太鼓の中でも特別大きな屋台で知られる上滝野の屋台。大勢の担ぎ手により境内を練り、差し上げが繰り返されました。その勇壮な姿に心躍る一時でした。

24. 牧野住吉神社屋台宮入

2011年10月06日



2日(日)、加東市牧野の住吉神社の秋祭りが行われました。朝から地区内を巡行した太鼓屋台が午後3時頃、神社の境内に宮入をしました。秋晴れの空の青さ、鎮守の杜

の緑の中に赤の蒲団張り、金色の綱、提灯、水引、飾りが映えます。

境内をゆったりとしたリズムで練り回るようすを地区の人が見守ります。太鼓を担ぐために関東に出ている私の同級生も帰ってきていました。久しぶりに担ぐ太鼓に少し興奮気味のようでした。

25. 高岡稲荷神社秋祭りの屋台巡行

2015年10月07日

4日(日)、加東市高岡地区では稲荷神社の秋祭りが行われ、秋晴れの空の下、まぶしい光に輝きながら、3台の屋台太鼓が地区内を巡行しました。

北西組、北東組、町組の3台の屋台太鼓がそろって地区内を巡行し、お花をいただいた家の前で差し上げが行われます。地区内の道路では、遠くに太鼓の音を聞きながら、太鼓がやってくるの



を待つ人があちこちに見られました。北西組の屋台は赤、北東組は青（黒に見える）、そして町

組は黄色と色による特徴があり、3台そろっての巡行は秋の実りの穂波に映えて一層あざやかでした。残念



ながら、今回は上滝野の春日神社に向かったので、稲荷神社への宮入りの勇壮な姿を見ることはできませんでした。次の機会の楽しみにしたいと思います。

26. 天神の一之宮神社秋祭り

2009年10月06日



4日（日）、加東市天神の一之宮神社の秋祭りが行われました。天神の市街を見下ろす山の中腹に一之宮があります。

地元の方の話では、その歴史は古く、素盞鳴尊が地方を巡見の折りにこの地で休憩された跡を祀ったことに由来し、椅鹿

寺の鎮守の社であったとも聞きました。

境内に立って拝殿を望むと、その背後には鬱蒼たる木々に覆われた杜が衝立のように広がり、山全体が神域のような感じを受けます。また、南側を望むと、谷間に広がる棚田が美しく見渡せました。地元の方は東条でも棚田があるのはこの谷だけではないか、と話しておられました。

氏は天神をはじめ東条地区の椅鹿谷、岩屋、岡本や黒谷、そして隣接の米田地区の廻り淵にもあると聞きました。午後2時頃、境内に各地区の子どもが担ぐ神輿が宮入し、そのあと、中学生の女子の巫女による舞が奉納されました。境内の能舞台では余興の準備もされ、綱渡りもあるということでしたが、舞の奉納を見て神社をあとにしました。

27. 木梨神社宵宮—豊饒の秋に感謝の祭り

2011年10月04日



10月1日(土)、加東市藤田の木梨神社の秋祭りの宵宮が行われました。午後7時を過ぎる頃から人々が境内に集まりはじめ、能舞台の前に敷かれたビニールシートの上に席を陣取ります。境内には地域の人

の手づくりの夜店が準備されています。ポップコーン、焼きそば、焼き鳥などの食べ物、射的コーナーや地元産山田錦でつくられる日本酒”獺祭”(だっさい)コーナーの甘酒などが振る舞われました。

木梨神社は藤田、木梨、下三草の3地区が氏子です。境内には地元藤田地区をはじめ、氏子地区の人や三草ふれあい広場のメンバーの皆さんの顔も見えました。舞台では獅子舞や子ども太鼓、演芸、餅まきなどが行われ、夜遅くまで豊かな実りの秋への感謝の祭りが続きました。

28. 佐保神社湯祭で湯立神事

2015年04月17日



4月16日(木)、雨が続いた4月前半でしたが、久しぶりに空は晴れ、明るい春の日が差し込みました。佐保神社(加東市社)の境内には八重桜も満開に近く、空の青と濃い桃色が日に映えて

ていました。

今日は、佐保神社の湯祭の日。冬が終わり、春を迎えて農作業も本格的に始まるこの時期に一年の五穀豊穡、無病息災を祈る春祭が行われますが、佐保神社では湯祭と呼ばれる祭りが古式にのっとり行われました。

午後1時少し前に境内に着くと、すでに参拝の人が境内や拝殿におられました。拝殿内では宮司さんと巫女さんが神事(神楽奉納)を斎行中でした。

拝殿前の境内には12基の釜が横一列に配置され、釜には湯が沸かされています。神社の古札納所に納められた古いお札などで火を焚き、沸かしたものです。

神楽奉納が終わり、いよいよ湯立神事が始まります。白装束の巫女さんが神棚に供えられたクマザサの束を両手に持ち、釜の前に進んで立つと、ササを湯の中に差し入れ、大きく腕を振ってササを振ります。すると、ササの葉について湯が周囲に飛び散ります。この動作を繰り返していきます。参拝者は前に進み出てその飛び散る湯を体に浴びようとします。この湯を浴びると、一年を無病息災で過ごせるといいう言い伝えがあらからです。私も湯を浴びました。何か、心身ともに浄められていくような感じを受けました。巫女さんは12の釜を順番に移動して湯を振りまいていきました。

釜の中を覗いてみると御供米さんと木の箸のようなものが入っていました。神事が終わると、クマザサが参拝者に配られました。宮司さんから、このササを玄関に飾っておくと家の厄除け、家族全員の無病息災が約束されると言われているということを知りました。

さっそく持ち帰り、家の玄関に飾りました。

産土の神である佐保神社の春祭、湯立神事に初めて参拝することができました。境内の西の小宮のところにもう一本、白い花の八重桜が咲いていました。まさに春爛漫の佐保神社でした。

29. 立明明神

2007年03月16日

加東市西垂水の集落から少し南に行ったところに小さな祠があります。圃場整備のために場所が変わり今の地に移された（昭和56年）と聞きましたが、元は西垂水の集落の東にありました。

この祠は立明明神（たちあかしみょうじん）といいます。この名の由来は、社の佐保神社の由来に深い関係があるのです。



佐保大明神は元は加西の鎌倉峰に天降って鎮座していたのですが、小部野（おべの：今の加東市野村）の住人で、鴨国造（かものくにのみやつこ：古代の北播磨にあった鴨

国の長官）の子孫である阿部三郎太夫（あべのさぶろうだゆう）が、神託によって佐保大明神を遷すべく、明神を背負い、鎮座の地をさがして一晩立ち明かしたところが、今の西垂水だったということなのです。

一晩立ち明し、夜が明けるころ、東方にうっそうと松がしげる丘が朝の光の中に浮かびあがった。三郎太夫はそこを遷座の地と決めたということなのです。

三郎太夫が加古川に竿をさして釣りをしていたところ、佐保大明神がその竿をつたって川を渡って東にうつってきたという話や洪水の時に竿の先にかかってきたとかいう言い伝えもあります。それで竿先大明神という話もあります。

確かに西垂水から東を望むと平坦な土地が広がっており、その向こうに社の台地が見えるという、言い伝えの通りの地形になっています。

30. 佐保神社西の鳥居

2007年03月17日

加東市鳥居地区の集落の西端に近い旧道脇に大きな石の鳥居が立っています（写真）。この石造鳥居が「鳥居」という地名の由来になったといわれています。



鎌倉時代、尼将軍といわれた北条政子は佐保神社の社殿を造営し、八丁四方、一里四方に計八基の檜木造の鳥居を建立したと伝えられています。その西八丁の鳥居が今の鳥居地区にあったとされているの

です。

石造鳥居は約200年前の文化六年（1809）に再建されたものです。ところで、八丁四方の鳥居の他の三ヶ所はどこなのでしょう。

東八丁の鳥居は社村のうちの鳥居町にあったとされています。しかし、今、鳥居町という地名はなく、不明です。南は松尾、北は上中にあったといわれています。

31. 御大神宮さん—田町の神様を祀り続ける

2009年07月26日



25日の夕方、佐保神社（加東市社）の境内の西側、小宮が並ぶその真ん中あたり、一つの祠の前に人が集まり、お祭りが始まります。

御大神宮さんの祭りです。私が住んでいる加東市社の田町筋の真ん中あたりの中田町（なかたまち）町内会がお祀りしています。毎年7月25日の夕方になると、町内の住人が集い御大

神宮さんにお参りをしして家内安全町内発展を祈ります。

かつて社で一番栄えた商店街だった田町筋ですが、今はそれも昔のこととなり、店も減って静かな住宅街に姿を変えつつあります。戸数も人口も減るばかりだった中田町町内会に今年は新たに居を構え住人となった人々を迎えて例年にない賑やかな祭となりました。また、町内の家に遊びに来ていた台湾、中国から兵教大の大学院に来ている院生の飛び入りもありました。

御大神宮さんについて少し由来を紹介します。、この小宮について、町内に住んでおられた故・服部千代子さんはこんな言い伝えを紹介しています。

江戸時代のはじめの頃、ある日、空から御幣がひらひらと舞い落ちてきたので、人々は「これは勿体ないことだ。おろそかにできない」と、お金を出し合って家の前に小さな祠を建てたそうです。小さいながらも玉垣で囲って立派なものだったといひます。その後、昭和のはじめになって、田町筋（県道）を清水行や三田行の定期バスが通ることになり、幅5メートルほどの道の真ん中あたりまではみ出していた祠を移転することになりました。当時の町内会長さんが佐保神社の宮司さんに相談を持ちかけたところ、佐保神社の境内に移すことになったのです。

服部さんの手記では、「遠い昔、江戸時代の初期だったかもしれません」と書いてあり、時期ははっきりして



いません。「空から御幣がひらひらと降ってきた」から思い浮かんでくるのが、お伊勢参りとの関係です。伊勢信仰は江戸時代に絶頂を迎えます。全国各地から人々はお伊勢参りの旅にでかけました。その信仰を広めるために各地にお札を配っています。元禄時代にはお札を各地に降らしたという記録もあるそうです。中田町に降ってきた御幣もそうしたものだのかもしれません。こうして田町筋につくられた御大神宮さんの祠が佐保神社の境内に遷されたわけです。もう一つ、御大神宮さんについて歴史を紹介します。

それは玉垣に刻まれた「加東米穀取引所」という字についてであります。

加東米穀取引所とは？これは明治中頃から大正初期まで田町にあった米の取引所の名前です。当時の米の取引といえば、大阪の堂島が知られていますが、兵庫県では、神戸や姫路、そして社の取引所で行われていたのです。田町通りはこの米穀取引所に集まる人たちで賑わったそうです。電信や電話が発達していなかった頃、大阪の米の相場を旗振りで知らせたというのです。大阪から神戸、そして志方の城山などを中継して、社の田町通りに建てられた櫓から望遠鏡でのぞいて値段の上下を知り、それを小僧さんが大声で知らせてまわった、といます。城山から社までは地図上で測ってみると、直線で約14キロほどです。本当に見えるのかを実験した方があり、結果は十分見えたそうです。

32. 上田の天神祭—子供達が祈禱を受ける

2014年07月26日

加東市上田地区で天神祭りが行われました。朝から地区内を子



供御輿が巡行し、夕方5時前には、子供達があらためて天満宮に集合しました。

天満宮は加東市上田の正覚院の境内にあり、菅原道真公の自画像をお祀りするお宮さんです。石鳥居のそばに「御

自画像天満宮」と刻まれた石柱が立っています。菅原道真公が九州太宰府に左遷されるときに書かれた自画像で、その後数奇な運命を辿ってこの上田の正覚院の境内に宮を建て祀られているということです。



5時になると、子供達は拜殿に並んで坐り、お坊さんが入ってこられるのを待ちます。やがて、正覚院住職をはじめ、教王院、神咒寺（東古瀬）、善龍院（社）の僧侶5人が入場し、祈祷が始まりました。境内に大般若経の転読の大音声は響く間、子供達は神妙な面持ちで静かに坐っていました。その間約40分。

お経が終わると、正覚院の片山弘文住職によるお祓いを受けました。その際、住職は菅原道真公のことを話され、続けて「よく勉強して賢くなるように。しかし、賢くなるだけではだめ。友達と仲良くすること。悪いことをしてはいけません」など大事なことを教えておられました。その様子を見ながら、これが本当の道徳であり、道徳の基盤になることだと思いました。郷土の身近な神仏の居ます神聖な空間で健やかな成長を祈る行事がこうして行

われ、子供達が大事に育てられる。上田地区の子供達は幸せだと感じました。

子供達はこれから秋祭りの獅子舞の練習に入るということでした。地域で、伝統行事を継承しながら成長していく素晴らしい姿を見ることができました。

33. 松沢の八幡神社—子供相撲

2012年09月18日



加東市松沢は東条川の中流域にあり、かつての中東条村の西部に位置しています。県道小野藍本線沿いに神社がありますが、これが八幡神社です。昨日はこの八幡様のお祭りが行われま

した。神事が終わったあと、境内では子供相撲が行われていました。お年寄りの話では、子供も少なくなって今は女の子も相撲をとる、ということでしたがそれほど同じ。私も小さい頃、母の実家のある松尾（加東市松尾）の八幡さんの子供相撲に出たことを覚えています。

境内の相撲場の近くの古そうな石灯籠には嘉永の文字が刻まれていました。山王神社の氏子だったそうですが、今は独立してこの八幡神社の氏子として祭りを継承していると教えていただきました。神社の周りの田圃は豊かに実った稲穂が色づきはじめ重そうに頭を垂れていました。

34. 北野の天神さん—伝統の奉納子ども相撲

2008年07月26日



7月25日(金)、加東市北野の北野天満宮の祭がありました。北野天満宮は旧国道175号線沿い、滝野大橋と中国自動車道滝野・社インターの中間点あたりにあります。道路をは

さんで向かいに東光寺がありますが、この道路ができるまでは天満宮と東光寺は一つの境内だったとのこと。ちょうど境内の真ん中を道路が貫き、今のよう配置になったということでした。

さて、朝から神事、御神輿の町内御巡行、そして、午後には子ども相撲と腕相撲などの楽しい催しが行われました。私は午後子ども相撲を見せてもらいましたが、驚いたことが2つ。まず子どもの多いことにびっくりしました。聞いたところでは小学生が110人ぐらいいるらしく、単学級の学校1校分にあたります。そしてもう一つは、男の子は全員まわしをしめて相撲をとるということです。東光寺会館では男の子がパンツも脱いでまわしをしめてもらいます。おしめをつけている小さな子もおしめをとってまわしをしめる、これが伝統なのだそうです。最近はまわしをしめることもほとんどなくなっていることやパンツの上からまわしをしめるといったことが多いなか、これが北野の天神さんの子ども相撲の伝統や、として大切に守っていこうとする姿勢に共感しました。東光寺の境内では女の子による腕相撲も行われていまし

た。

御神輿は天保8年（1837）につくられた古いものですが、修理されて見事な輝きを放っていました。かつては太鼓屋台もあったそうですが、昔から水陸交通の要衝として栄えてきた北野の元気さ、さらなる発展を今日のお祭りで実感しました。

34. 新町—愛宕神社の夏祭りで子供相撲を奉納

2009年07月25日



24日、加東市新町の愛宕神社では夏祭りが行われ、午後から子供相撲が奉納されました。

愛宕神社は新町の市街を見下ろす高台にあり、加古川の向こうには五峰山の雄大な山並みが望めます。

新町はその名の通り、新しくつくられた町で、慶長10年（1605）に領主（池田輝政）の命令で多井田と北野の一部を割いて河岸をつくったのが始まりです。ですからその歴史は404年とはっきりしている珍しい地区なのです。

大久保利政氏（前区長）の『新町の記録』によると、愛宕神社は寛文年間（1661～1673）に火の神である迦具土命を祭神として建立されたのがはじめだそうです。その場所は現在の位置ではなく、新町の河岸の岩盤の上であったとされ、今も岩盤には柱を立てた穴があります。私も滝野東小に勤務していた平成17年には地元の郷土史に詳しい尾縣齋さんから教えていただい

て柱穴を確かめました。

大久保氏は現在の地に移転された年は、寄進された燈籠の年代から1781年か、拝殿上棟の板書きから神社として完成したのは1809年と推測しています。1809年ということであれば、今年には実に移転200年の節目の年でもあるわけです。

20数人の小学生が集まり、皆パンツを脱いでまわしを締めてもらいます。私も飛び入りでまわしを締めさせていただきました。まわしを締めたのは、自分が中学生時代にまわしを締めて加東郡中学校相撲大会（佐保神社秋祭）に出場した時以来約40年ぶりのことでした。

境内には地区の老若男女が集い、孫や子どもたちの健やかな生長を祈って奉納相撲を楽しんでいました。まさにこうした風景の中に、地区の守り神を中心とした共同体のよき伝統的な姿があると確信させられたところです。

35. 社一区の祇園さんで子供相撲

2008年07月15日



「祇園さん」で親しまれている社一区（元町と一区で奉賛会がつくられています）の八坂神社の祭がありました。

7月7日から神社の境内には幟が立てられ、14日の午後4時から子供相撲が行われました。

4時前に触れ太鼓が町内を回りますと、学校を終えた子どもた

ちが集まり始めました。やがて30人ほどの子どもたちとお母さんたち、そして地区の役員さんらでいつの間にか境内はにぎやかになりました。

午過ぎに激しい雷雨があり、境内はちょうどよい湿り加減になりましたが、再び太陽が照ってくると蒸せ返るような暑さでじっとしていても汗が吹き出します。

境内で昔から商店街で商売を営んでおられるご老人にお話をうかがいました。自分も小さい頃からおじいさんに連れられてこの子ども相撲に来たこと、昔は男の子だけが相撲を取り、勝ち抜き戦もあって楽しみだったと懐かしそうに話して下さいました。今は女の子も取りますし、勝っても負けてもお金を貰えます。私自身は小さい頃に田町筋の地蔵さんで相撲を取った思い出があります。母の実家の松尾にも遠征して勝ち抜き相撲でたくさんお金を貰ったことを覚えています。

八坂神社には祀られているご祭神の名を書いた額が掲げられています。秋葉神社、天照皇大神宮、八坂神社、金比羅宮です。ご老人によれば、祇園さんは疫病の神様で、疫病が流行らないようにという願いでこの祇園さんの祭りが行われてきたということでした。狭い境内の奥に昔の玉垣が並べてありました。刻まれている寄進者の名を讀んでみると、遠く多可郡中村（現多可町中区中村）や加西郡の地名もありました。

相撲は約一時間で終わりました。子ども達は手に百円玉を数枚握って嬉しそうに帰っていきました。大人になっても夏の暑い日にこの祇園さんで相撲を取ったことは忘れないでしょう。

36. 長谷の祇園祭—夏の踊りが始まる

2011年07月11日



9日(土)、加東市長谷地区の大歳神社境内で祇園祭が行われました。祇園さんは毎年7月6日と決まっていたのですが、今年は雨になり9日に延期されたということでした。公民館、グラウンド

が同じ場所にあり、グラウンドには踊りのやぐらが建てられ、提灯が飾られ、加東市の夏の踊りの幕を開く一番早い踊りが行われます。この長谷の祇園さんから始まり、9月2日の天神地区八朔祭までの約2ヶ月の間、市内各地で夏まつり、盆踊りが続きます。

区長さんのお話では、今年は地区だけで行う初めての祭りということでした。これまで市内の各地区と交流を行っており、他地区からのお客さんも多かったようです。8時頃から踊りが始まり、消防団が開く店には子どもたちが集まり、賑わいが出てきました。一踊りした頃、境内では子ども相撲が行われました。地区の小学生男子だけがこの神事相撲に出ることが許されます。ただ、少子化で今年の取り手は5人。3回やっても全取組の数は10戦ぐらい。昔は子どもの多い地区だったということですが、ゆくゆくは女子の出場も考えなければ成り立たないなどの感想でした。そんな大人の心配をよそに、賞金をもらって嬉しそうな子ども達の笑顔にこちらの気持ちも和みます。

37. 上田の大芋神社の獅子舞奉納

2013年10月06日



6日(日)、午前7時30分から加東市上田の大芋神社では伝統の獅子舞の奉納が行われました。

大芋神社の祭では、断絶していた獅子舞の奉納を青年(消防団)有志に

よって復活させ、さらに次世代に継承させるべく子どもにも広げて練習を重ね、演目も増やしてきました。

拝殿前には左右一対の舞台となる敷物が敷かれ、青年と子どもと一緒に笛を吹いています。その前で、次々と演目が紹介され舞が奉納されました。中には、小学1年生が段ボール箱で作った獅子を使って舞うものもありました。最後の演目は国姓爺。青年、中学生、小学生ら全員が揃い、見事な舞を披露していました。境内には老若男女が舞を見物し、お母さんたちは子どもたちの晴れ姿をカメラにおさめるのに忙しそうでした。

一旦断絶した伝統の祭りを復活させ、さらにそれを次の世代に継承していこうとする取り組みに感銘を受けました。鎮守の杜で執り行われる祭事に地区の老若男女が集い、神々と先祖に感謝と村の繁栄を祈り、神祭りの手振りを子どもたちに伝えてゆく。素晴らしいことだと思いました。

きっと、上田の子どもたちは、将来どこに出てもこの祭りを誇りに思い、心の原風景として心豊かに生きていってくれると確信

しました。

演目は次の通りです。

- その一、荒神祓い
- その二、剣の舞
- その三、花掛かり
- その四、洞返り
- その五、四方舞
- その六、花掛かり
- その七、矢車
- その八、八島
- その九、洞返り
- その十、国姓爺



38. 天神八朔祭り—佳地堂で踊り奉納

2016年09月02日



9月1日（木）の夜、加東市天神で加東の夏を締めくくる天神八朔祭りが行われました。ここ数日の涼しさに比べると、昼間は少し暑さが戻っていましたが、午後7時前に天神の佳地のお堂へと急ぎました。

このお堂はお地蔵さまが祀られており、天神地区を疫病などから守ってきたと伝えられています。午後7時からこのお堂の前で供養の踊りが奉納されました。炭鉾節や加東よしよし音頭などを一通り踊って記念写真。

その後、踊りは近くの旧役場前の広場に設けられた会場で行われました。播州音頭に始まり、天神小唄など、ふるさと東条の踊りなどを楽しみました。

39. 天神一之宮神社再建300年の稚児行列

2014年05月06日



5月5日(月)、加東市天神の一之宮神社の再建300年を祝う行事が行われました。一之宮神社の歴史は古く、素盞鳴尊が地方を巡見の折りにこの地で休憩された跡を祀ったことに由来し、また、

椅鹿寺の鎮守の社であったとも言われています。

さて、今から300年前の正徳4年(1714)に一之宮神社は再建されました。地元の方の話では、拝殿の擬宝珠に記されていたということです。

小雨が降っていたので、門から境内のようすを眺めていました。ふと天井を見上げると、「安永七年拾月再興」と書かれた札木がありました。その場で地元の方がスマホで西暦年を調べてみると1778年。アメリカ独立の少しあとの頃です。その門の左右に武将姿の神像が安置されていました。

稚児行列は氏子村の子供達が参加しました。小雨の中、華やかな衣裳の上に透明合羽をかぶり、お父さんやお母さん、おじいさんおばあさんら家族と一緒に天神の市街を歩きました。坂を上っ

て一之宮神社に着くと、村毎に記念撮影を行いました。寝てしまう子、泣く子、しっかりカメラを見つめる子、どんな姿も可愛く見えました。

40. 稲尾の虫送り—実盛さんのご上洛

2011年07月04日



3日(日)夕方、加東市稲尾に向かう道の所々に白地に「稲尾の虫送り」と赤字で染め抜かれた幟がたてられていました。稲尾の鎮守である八幡神社の森に通じる道にも幟が立てられ、遠くから賑やかな声が聞こ

えてきます。

朱塗りの鳥居の立ち並ぶ参道のトンネルを抜けて八幡神社の境内に入ると、杜の木立に囲まれてぽっかりと広がる空間があり、すでに多くの人が集まり和気藹々とした雰囲気にもまれて、虫送りの行事が始まるのを待っていました。

3年前にもこの虫送りの行事に参加しましたが、この2年間は用事が重なり参加できなかったのが今日は楽しみにしていました。

稲尾地区では戦前の昭和初期まで行われていた「虫送り」の行事を復活し、地域おこしのきっかけにしようということで平成15年に取り組みが始まりました。地域の崩壊、地域力の衰退といった言葉で表現されるように、地域に元気がなくなり住民同士の関係も希薄になっているなか、地域の再生を伝統行事の復活と

いう地区住民の共同作業によって実現しようという試みだったと聞いています。今回で9回目。区長さんや地域の住民の皆さんのそうした思いを今日も実感することができました。今年はオープニングとして水龍会の太鼓が披露されました。八幡神社は加古川筋一揆の起点となった神社でもあり、太鼓の激しい響きを聴いていると特別なパワーを感じました。



神事に続いて、松明に火が付けれられ、虫送りが始まりました。先頭はわらで作られた「馬に乗った実盛（さねもり）人形」、これに「虫送り」「豊年祈願」などの言葉が書かれた幟、長い

竹の松明、そして一人ひとりが持つ短い松明、そして太鼓や鉦の鳴り物の列が揃うと神社を出発し、もう暗くなった地区の田の中の道を歩きます。

「実盛さん」とは斉藤実盛のことで、戦いの最中に田の稲株に足をとられてころび、これが原因で敵にやられてしまったということで、その霊が田の虫となって被害をもたらすという言い伝えがあり、その実盛さんの名を呼びながら田の虫を松明の灯で誘い出して追い出すということです。ただ、「サネモリ」は実盛の名であるというほか、早苗、さなぼり、早乙女などの田に関係する「早」「サ」という音、言葉によるものという話も聞きました。わらでつくられた実盛人形は地区の方がこの人形に詳しい人から教えてもらって作ったそうですが、今年の人形は一層緻密に作られているように見えました。

虫送りの列は真っ暗になった稲尾地区をぐるっと回り、南の高

いところにある池の堤で終わりました。わらの実盛人形が火で燃やされ、虫とともに空に上がっていきました。「さねもりさんと上洛せい！」のかけ声とともに。

さねもり人形—稲尾

2011年07月05日



昨日紹介した加東市稲尾の虫送りの行事で、列の先頭を行ったのは「馬に乗ったさねもり（実盛）人形」でした。

細い縄で作られたさねもり人形は3年前に見たときより

も精緻というか、洗練されているように見えました。竹の上に飾られており、私たちは下から仰ぐように人形を見上げることになりますが、松明や幟を従えて行列の先頭をいくさねもり人形は、その掛け声の如く、まさに上洛する斉藤実盛を彷彿とさせます。

写真は八幡神社の拝殿前に置かれたさねもり人形と幟です。斉藤実盛は平安時代末期の武将で、元は源氏、のちに平氏に従って戦いましたが、木曾義仲追討のために加賀の国で戦っている際に、実盛が乗った馬が田の稲の切り株につまづいて倒れたために討ち取られてしまったということです。

江戸時代になって田の害虫は実盛がその怨念で虫になったという言い伝えが広がり、虫送りの行事となったということです。

12世紀末の武将の死を害虫駆除に結びつけて地域の行事として今も行うことができるのはやはり稲作が行われているからです。

41. 伝統行事—藤田地区の大とんど

2015年01月15日



14日(水)の夜、昨日のブログで紹介した加東市藤田地区のとんど大会が行われました。今年で35回目を迎える藤田地区の伝統行事です。地元の方が、元は子供会の行事だったが、当時の若

い親も35年経った今は老人会。そのままパワーを発揮してとんどの準備をやっていると、笑いながら話しておられました。今年のとんどは例年にましてボリュームがあるように見えました。各家の注連飾りが組まれたとんどに付けられています。私も我が家の飾りを付けさせてもらいました。

とんどが始まるまで、地区の皆さんによるぜんざいや焼き餅の接待も行われ、地区内外から訪れた人に振る舞われました。

午後6時30分、区長さんの挨拶があり合図でとんどに火が付けられました。ぱちぱちと音をたてながら、明るい炎が立ち、一気に燃え上がりました。広い田圃の真ん中で巨大なとんどが炎に包まれ、



火の粉が夜空高く舞い上がっていきます。見守る人々の口から歓声が上がりました。とんどは傾くことも倒れることもなく、勢いよく真っ直ぐに炎を立てながら燃えていきました。地元の方が「こ

ないきれいに燃えたのは珍しい。35回記念にふさわしい」と誇らしげに語っておられました。

火が落ち着き、炭がいこつてくると、長い竹の先に書き初めをつけて炎にかざします。火がつくと、「そら、振って！」と声がかかり、習字は燃えながら夜空に高く上がっていきます。また、用意された「へそ餅」をいこる火にかざして焼きます。これを食べれば一年を健康で過ごせる、というものです。まだ、火が熱くて近寄れませんが、竹の先に3つ串刺しにされた餅を焼き、焦げがついたら持ち帰りました。

いつも思うことは、こうした伝統行事を大切に守り続けていくことは、地区の人々の結び付きを強め、子供達が伝統文化を体験しながら継承していくことにつながっていくということです。準備にほぼ一日かかる、と話しておられましたが、その苦労も炎と人々の喜ぶ顔で吹き飛んでしまうことでしょうか。お父さんやおじいさんが子供の手をとって書き初めを火にかざす、その姿に家族のつながりを実感します。素晴らしいとんど大会でした。

42. 百旗のお地藏さん

2013年12月30日



加東市社の市街地の東、道池交差点の東に社の墓地の一つ、百旗墓地があります。

百旗（ひゃくはた、ひゃくはったい）という地名は源平合戦で知られる三草山合戦で平氏を奇襲し、敗走する兵を

追ってこの辺りまで来た義経軍は百本の旗を立てて陣を張ったという伝承に由来するとされています。

この百旗に地蔵さんがあります。社郵便局から墓地へ通じる狭い道路が旧国道372号に合流する手前の民家と民家の間にこの地蔵さんがあります。

百旗墓地の入口にあたる場所であり、旧京街道の社村と木梨村の村境で、社村の入口にあたります。衆生救済、社村の守護を祈って祀られたのでしょうか。

地蔵菩薩の台石には寛延四年と建立年が刻まれています。西暦1751年にあたりますから今から約260年前に建てられた古いものです。

願主は社邑、福田屋喜左衛門と刻まれています。当時、社には毎月6日(4, 9, 14, 19, 24, 29)に市がたてられ店を構える商家が出現していた(『新修加東郡誌』)とあり、福田屋喜左衛門もその一人だったのではないのでしょうか。

お地蔵さんには、小さな鏡餅がお供えしてありました。そしてお地蔵さんの向こうには滝野の五峰山がくっきりと見えました。

43. 伝統の盆踊りで新ふれあい音頭の披露 —山国観音堂

2010年08月19日

18日(水)、加東市山国の観音堂の境内で「やまくに盆踊り大会」が行われました。山国地区の役員さんをはじめ、老人会、女性会、子ども会、消防団など地区の各団体で構成される実行委員会の皆さんが、伝統行事として続いてきている盆踊りを盛り上げるために汗をかいて準備をされたとのことでした。



山国地区の盆踊りは観音堂の境内で新仏供養のために行われてきた地区伝統の行事です。近年は高台にある山国で打ち上げられる花火が遠くの地区からもよく見えることで知られるよう

になりました。今年も135発の花火が観音堂の上の夜空に花開き、多くの人を楽しませてくれました。

ところで、今年は「山国ふれあい音頭」が新しくつくられ、盆踊りで披露されました。山国地区の自然や歴史、産業、そして人々の願いが表現されています。音頭に合わせて踊りも披露されました。一緒に輪の中に入って見よう見まねで踊ってみました。歌手も地元の方とあって会場は大いに盛り上がりました。

やぐらの上で太鼓をたたくのは子ども会の子ども達。次々とやぐらにのぼって、練習した腕前を披露しました。この地区の将来を担う子ども達。大きくなってもこの踊りのことを忘れることはないでしょう。すべてが地区住民手作りの盆踊り。踊りに汗だくになりながら、心から楽しませてもらいました。

山国ふれあい音頭

作詞 石井貴代子

作曲 岸本真知子

歌手 友原幹雄・宮野浩子

ア、ソレ

一、水の恵みは 王子ヶ池に
昇る朝日を 水面にうつし
山田錦の穂はそだつ

ア、ヨイショ

ふれあい音頭で よい よい よいよ

ア、ソレ

山国よいとこ よい よい よいよ

二、信州諏訪の 蔵元と
まごころこめて さなえうえ
実りゆたかな 山国の

ア、ヨイショ

ふれあい音頭で よい よい よいよ

ア、ソレ

山国よいとこ よい よい よいよ

三、無病息災 願いをこめて
観音さんに 手を合わせ
老いもわかきも 輪になれば

ア、ヨイショ

ふれあい音頭で よい よい よいよ

ア、ソレ

山国よいとこ よい よい よいよ

四、緑ゆたかな 権現さんに

今年も豊作 願いつつ
力あわせて のぼりたて
ア、ヨイショ
ふれあい音頭で よい よい よいよ
ア、ソレ
山国よいとこ よい よい よいよ

44. 下滝野の土地蔵尊

2012年01月18日



加東市下滝野の公民館の山側に公園があります。地区の運動会や盆踊りが行われるの場になっていますが、北東の隅にお堂があります。これが土地蔵です。

お堂には12体の地蔵さんとお大師さんが祀られているとのことですが、お堂の中には、ねがい石とよばれる穴のあいた丸い石が納められていて、耳の不自由な人がよく聞こえる

ようにとお供えしたものとされているようです。また、子宝にめぐまれるようによい願いからとも言われているとのこと。

毎年8月24日の地蔵盆には、子ども達はお菓子をもらって楽しめます。夜は盆踊りで賑わいますが、この日は幼くして亡くなった子どもが父と母に会える日、お堂に祀られている子どもの霊が五峰山に登って愛宕さんで母親に、さらに上の役の行者の祠で父親に会うことができると伝えられているとのこと。

今は冬で、この日は天気もよくありませんでした。しかし、小さなお堂ですが、地域の歴史と伝統、人々の願いが積み重ねられてきた存在の大きさを感じました。

45. 加古川舟運のまち新町で盆踊り

2015年08月23日



23日(日)、加東市新町、吉馬の2地区で地蔵盆の盆踊りが行われました。澄んだ空気が広がり、空には半月が光っていました。涼風が吹く心地良い夜の広場には、やぐらを囲む踊りの輪ができ、加東

よしよし音頭や炭坑節、河内音頭など太鼓や鉦の音に合わせて多くの人が踊りを楽しみました。

新町は江戸時代のはじめ、約400年余前に加古川舟運の川港の町としてつくられた町です。播磨内陸の米が加古川の港に集められ高瀬舟で河口の高砂まで運ばれたのです。新町には今も大正時代のはじめまで使われた舟着場の跡が残っています。踊り会場は集落の中心にある交流会館前の広場。そこから少し北に歩いたところに旧加茂村の役場の建物があり、その裏に地蔵堂があります。地蔵堂の境内には、わが子の健やかな成長を祈って名前が入った多くの提灯が下げられていました。

46. 田町の定門地蔵尊—眼病の地蔵さん

2009年04月13日



加東市社の田町筋は西田町、中田町、東田町の三つの町内に分かれています。中と東の田町町内の境の路地に「定門地蔵」があります。今では東田町の皆さんが維持管理のお世話をされていますが、広く田町筋の住民の信仰を集めていた地蔵さんです。

「定門地蔵尊」には「眼なし地蔵さん」と呼ばれている眼のない仏

像が安置されており、眼病の治癒を祈る人が多いそうです。祖父もよくお参りをしていましたが、叔父が眼が悪かったからと聞いています。

この地蔵さんがいつ頃から祀られているのか由来はわかりませんが、門の石柱は昭和三年の建立と刻まれています。石柱の一本には「慈眼視衆生」、もう一本には「定門地蔵尊」と彫ってあります。「慈眼」とは観音様が衆生を救う慈しみの眼という意味らしいのですが、そうした仏教の言葉が刻まれています。

この「定門」は田町筋の小字名の「上門」に由来するものなのかよくわかりません。本町から道池に向かう田町筋は、西田町、上門となっており、上門の南北に北上門、南上門の小字名がついています。田町筋の東にあった道池の水門に関係のある字名ではないかという説に今は傾いています。

かつてこの地蔵さんの前の路地は子ども達の絶好の遊び場でした。

た。紙芝居のおじさんもここにやってきました。昭和30年代のよき時代の思い出を語りながら、花吹雪の下でおじさん達が花見をしていました。

平成30年度後半の議員活動

令和新時代の幕開け

1. 安倍首相が徳島市へ

2018年09月02日

9月1日（土）の午後、県議会議員有志と徳島市へ向かった。

兵庫県第九区自民党支部の淡路地区の党員の皆さんと一緒に徳島市を訪れた安倍晋三首相を迎えた。

安倍首相は笑顔で挨拶し、安倍首相を支える西村康稔内閣官房副長官・衆議院議員（九区支部長）は安倍首相の下での憲法改正の実現を訴えた。

短い時間ではあったが、総裁選を間近にして元気な安倍首相を間近に実感することができた。



2. 警察常任委管内調査—台風接近で1日で打ち切り

2018年09月04日

3日（月）から2日間の予定で警察常任委員会の東播淡路地区の管内調査が行われることになっていたが、明日4日に台風21号が近畿に上陸のおそれがあるため、2日目の調査は打ち切りと

なった。

1日目は県警本部で歩行者シュミレーターの実演を体験し、垂水署で神戸西署、三木署の合同調査を行った。午後は加古川警察署で明石署、高砂署の調査、西脇署で加西署の調査を行った。



2日目は淡路の3署、加東署と小野署の調査と緊急自動車総合センターを視察する予定だったが、明日は朝から公共交通機関が運行を止めたり、明石海峡大橋が通行止めとなるおそれがあることや、台風接近に備え、各警察署が災害対応体制をとることもあり、今回は1日だけで打ち切った。

1日目の調査では、交通事故の多くを占める高齢者が関係する事故、特に道路横断中の事故を防止するために開発された歩行者教育シュミレーションシステムを実地体験した。今年4月に導入されたもので、これまでのスタウト（高齢者交通安全教育）をさらに強化するもので、今後広く活用される予定だ。各警察署の調査でも高齢者が関係する交通事故は多く、スタウトを実施して事故防止に努めていることが報告された。また、調査では若手警察官の早期育成に力を注いでいたり、パトロールカードを活用して身近な相談にも細やかに対応することで犯罪抑止に役立っている事例などの報告もあった。

3. 井戸知事に重要政策提言

2018年09月06日

5日(水)、9時過ぎに登庁。9時40分から自民党県議団の政調理事会、10時から井戸知事に対して「31年度当初予算編成に対する重要政策提言」を行った。



県議団の執行部と7部会の正副部会長が出席し、各部会で絞りこんだ重要な施策、全部で45項目にわたって提言を行った。意見交換では、台風21号に関して、想定を超えた高潮被害をはじめ防災、減災対策、神戸ビーフ、受動喫煙防止条例など各部会からの意見が出された。終了後、県庁記者クラブで重要政策提言について記者発表を行った。

4. 行革特別委で意見開陳

2018年09月08日

7日(金)、朝から雨が降っている。今日は、10時から行財政構造改革特別委員会が開かれるので、少し早めに加東を出たが、神戸加東線の神戸市北区山田町の箕谷辺りで崖の木が倒れ除去作業のために片側交互通行となり渋滞。やっと通過したと思うと新神戸トンネル入口で再び事故車のために渋滞。委員会に間に合うかと焦ったが、9時40分頃には登庁できた。今、関空や北海道では大変な事態が起きているが、木が一本道路を塞いただけでも交通は混乱する。

10時から開かれた行革委員会では、各会派からポスト行革方

針に対する意見開陳を行った。私からは組織、職員配置、人材育成について意見を述べた。委員会では6月から行ってきた委員会の結果をまとめ、議長に報告する。また、井戸知事は、議会での意見を受け、9月議会にポスト行革の条例案を提出すると述べた。

政務調査会室で、専門職大学関連の説明や今月後半に予定している自民党と各種友好団体との意見交換会の打合せなどを行い、2時頃退庁した。

5. うれしのふるさと楽しみ隊で東条川疏水を紹介

2018年09月12日

11日（火）、加東市下久米の県立嬉野台生涯教育センターへ。

「うれしのふるさと楽しみ隊」の皆さんが、東条川疏水をテーマに学習と見学を計画され、午前の学習で、私が「東条川疏水ネ



ットワーク博物館の魅力ー北播磨にこんなすごいものがあったのかー」の題で講演をさせていただいた。皆さんは、午後、鴨川ダムや昭和池、曾根サイフォンなどを見学することだった。天気もよくきっと素晴らしい景色を楽しまれることだろう。

7. 9月議会開会 諸会議の一日

2018年09月26日

25日（火）、9時過ぎに登庁。今日は9月議会の開会日なので、朝から会議がびっしりと詰まっていた。まず、9時30分、自民党県議団の執行部会議。10時から議会運営委員会。10時30



分に自民党県議団総会。そして、11時に本会議が開かれた。第341回定例会。会期は9月25日から10月26日までの32日間。越田議員（川西市）の辞職、公安委員会の新任2名の紹介などの報告があったのち、議案が一括上程され、井戸知事が提案説明を行った。

12時20分から今日2回目の議員団総会が行われ、代表質問、一般質問の内容が各議員から発表され、質疑を行った。総会のはじめに、先の台風21号での高潮被害の実態を映像で視聴した後当局から報告を受けた。

13時30分から行財政構造改革特別委員会が開かれ、行革運営方針等について説明を受けた。終了後、幹事長副室で当局から元町山手地区再整備計画について説明を受けた。そのあと、文化振興議員連盟と団体の意見交換会に理事として出席した。すでに14時から行われており途中からの出席だったが、各団体からの活動や要望などを聞くことができた。15時30分から議会改革検証委員会に出席した。

政調会長室に戻り、請願の処理や代表質問、一般質問の調整などについて協議を行った。退庁したのは6時を回っていた。

8. 憲法改正実現兵庫県民大会

2018年09月30日

29日（土）午後、県庁東隣の県民会館内のけんみんホールで開催された「憲法改正実現兵庫県民大会」に出席した。

まず、「美しい日本の憲法をつくる兵庫県民の会」の第4回総会が行われ、続いて、伊藤哲夫氏（日本政策研究センター代表）が「今なぜ自衛隊の憲法明記なのか」の演題で基調講演を行った。



そのあと、谷公一衆議院議員（自民党兵庫県連会長）、片山大介参議院議員（日本維新の会）、山本敏信県議会議員（自民党兵庫県連副会長）、守屋隆司神戸市会議員ら、国会、県会、市会の代表が挨拶し、さらに女性、弁護士、防衛協会、国民投票連絡会議の代表らが意見表明に立ち、憲法改正に向け、国会での発議、国民投票での過半数獲得に向けた提言や活動状況、決意などを発表した。最後に決議文を採択し、全員で憲法改正の実現を誓ってガンバローコールを行った。

台風接近の悪い天候にもかかわらず、けんみんホールには県下各地から大勢の参加者があり、最後まで熱心に講演や提言に耳を傾けた。

9. 本会議一般質問、行革特別委

2018年10月04日

3日（水）、7時30分頃家を出て神戸に向かう。約1時間で県庁に。9時から議会運営委員会が開かれた。9時30分自民党議員団総会、10時に本会議が始まった。

一般質問の3日目。昼の休憩時に自民党県議団の総務幹事会、議員団総会が開かれた。また、豊岡市長の中貝宗治氏から専門職

大学の開設に向けた要望を受けた。

午後1時本会議再開。一般質問が終わったあと、決算特別委員会の委員22名が選任された。私もその一人。続いて、上程中の議案が委員会に付託され、一旦休憩。その間、行革特別委員会に付託された101号議案（行革条例案）審査のために委員会が開かれ原案通り可決すべきものと決まった。本会議が再開され委員会審査報告ののち、討論、表決が行われ、賛成多数で可決した。続いて請願2件が委員会付託され、今日の議事が終わった。

本会議終了後、早速決算特別委員会が開かれ、委員長、副委員長を選出し、運営要領を協議した。長い一日だったが、5時には終わり、ようやく一息ついた。

10. 警察常任委員会、行革特別委員会、 決算特別委員会、各会派政調会長会

2018年10月05日

4日（木）、10時30分から警察常任委員会が開かれ、付託議案審査を行った。警察施設のブロック塀対策、地震や豪雨、台風による警察施設や交通安全施設の修繕に関するものと暴力団排除条例の一部改正（強化地域を設定し、みかじめ料などを暴力団員と特定接客業の両者に罰則規定を設け禁止するもの）。全員賛成で可決された。

午後1時30分、行財政構造改革特別委員会が開かれ、付託された行革運営方針を審査し、当局説明、質疑のあと、表決が行われ、全員賛成で可決された。行革特別委員会は6月の設置以来、10回に及び審議を行ってきたが、これをもって任務を終えることになった。

午後3時30分、決算特別委員会が開かれ、財政状況について当局の説明を聴いた。

午後4時30分、今議会第1回目の各会派政務調査会長会が開かれ、基本計画条例関係、各会派発意見書案、座長試案などについて説明が行われた。

今日は、3つの委員会と各会派政調会長会が行われ、一日を県庁で過ごした。決算特別委員会の質問も考えなければならないが、時間ばかりが過ぎていく。

11. 本会議 補正予算や条例を可決

2018年10月06日



5日(金)、9時30分頃登庁。10時から議会運営委員会に出席。10時30分自民党議員団総会。そして、11時に本会議が開いた。



台風被害の緊急対策などの補正予算案や暴力団排除条例改正案など22件が上程され、常任委員会審査結果の委員長報告ののち、討論が行われた。

討論では、まず共産党が反対討論を行い、次に自民党県議団を代表して私が第112号議案「兵庫県行財政運営方針を定める件」について賛成討論に立っ

た。そのあと、無所属議員が反対、公明党、県民連合、維新が賛成討論を行った。表決では補正予算案、条例案などが可決された。

続いて、知事から教育長など同意人事案が提出され、可決された。次の本会議は10月26日。10日から決算特別委員会の審査が始まる。

本会議に引き続き、自民党県議団総会が行われ、「県庁再整備」について当局の説明を受けた。続いて、兵庫県土地改良議員連盟の総会が行われた。

12. 決算特別委員会（財政状況）で質問

2018年10月11日



10日（水）、9時過ぎには登庁。9時30分から決算特別委員会の審査が始まった。今日は財政状況の審査が行われ、一番最後の私を含めて7名が質した。私からは、「長期保有土地について」をはじめ3項目5問について質した。午後3時には終わり、夕方まで政調会長室で執務した。

13. 決算特別委の長い一日

2018年10月12日

11日（木）、9時30分、決算特別委員会が開かれ企画県民部の審査が始まった。今日は19人が質問に立った。防災や地域創生など県の重要な施策について各委員から29年度の実績、評価などについて質問が続いた。窓の外の景色は雨で白く煙っていた。

私は最後から2人目で、人口増対策、大学との連携による地域創生など5問について質した。すべて終わったのは午後6時30分だった。

14. 決算特別委員会、各会派政調会長会

2018年10月16日

15日(月)、8時40分頃登庁。さっそく昼の政調会長会の打合せ。9時から自民県議団執行部会議。9時30分から決算特別委員会が開かれた。

今日は産業労働部、公安委員会の審査が行われ、計19人が質問に立った。昼休憩時に今議会2回目の各会派政調会長会が行われ、各会派から提出された意見書案について態度表明、質疑が行われた。2件は合意がならず、あとの案は次回までの修文などをし、意見書案をまとめる。午後の休憩時に来客もあった。結局委員会が終わったのは午後6時を回っていた。今日は昼の弁当を食べる時間がなく、2回の休憩時に分けて食べるという忙しさだった。

15. 決算特別委で質問(農政環境)

2018年10月17日

16日(火)、9時30分から決算特別委員会の部局審査が行われた。今日は農政環境部の審査だ。12人が質問し、午後4時頃に終わった。私は最後から2人目に質問に立ち、鳥獣害対策イノシシ、ひょうご元気な「農」創造事業、酒米の品質向上とブランド力強化、内水面漁業活性化など4点について質した。

終了後、自民党県議団の政調理事会が行われ、総括審査の内容などについて協議した。その後も議会事務局や当局が次々と来室

し、退庁したのは午後6時前だった。

16. 決算特別委教育委員会審査で質問

2018年10月19日

18日(木)、今日も9時30分から決算特別委員会が開かれた。今日は教育委員会の審査が行われ、私を含めて12人が質問した。私は11番目に質問。「小中学生の体力・運動能力の向上について」、「魅力ある県立高校の学校づくりについて」、「伝統・文化に関する教育の推進について」、「家庭の教育力を高める取組について」、「幼児教育の質の向上について」の5問について質した。委員会が終了したのは午後4時。そのあと、政調会長室で執務し、5時過ぎに退庁した。

17. 決算特別委員会（総括審査）29年度決算を可決

2018年10月24日

23日(火)、今朝も朝の登校見守りに立ってから登庁。今日は10時から決算特別委員会が開かれ、総括審査が行われた。

まず自民党の幣原みや議員(芦屋市選挙区)が質問に立ち、「地域創生戦略の評価と次期戦略の策定方針について」をはじめ、9問について質した。続いて、公明の野口議員が質問。

昼の時間に今議会3回目の各党派政調会長が開かれた。まず、意見書案について、座長調整案を確認し、今定例会では、8件の意見書案を提案することが確認された。次に議会改革に係る検証項目について、議員提案政策条例関係、政策法務研修に関して、各党派から意見を聞いた。

午後1時から、決算特別委員会が再開され、県民連合の迎山議

員、維新の会の徳安議員が質問。続いて、表決が行われ可決した。

閉会にあたり、井戸知事は「未来の活力を生み出す、暮らしの質を高める、ダイナミックな交流・環流への取り組み、行革の推進」を挙げて「すこやか兵庫」の実現をめざすと述べた。

終了後、政務調査会長室で本会議関係の打ち合わせなどを行い、一日が終わった。

決算特別委員会は、10月3日に設置され、財政状況の説明から始まり、部局審査、総括審査と、計11回の長丁場だったが今日で任務を終え、26日の本会議で報告される。

18. 農業改良普及事業懇談会—北播磨の豊かな農を創造

2018年10月26日

25日（木）、加西市にある農業改良普及センターで行われた、北播磨地域普及事業推進懇談会に出席した。

毎年行われている普及所と管内の県会議員の懇談会で、普及員から各分野の活動状況



の発表を聞き、懇談するというもの。藤澤所長は冒頭の挨拶で、普及所制度ができて今年70年目、これからベテラン職員の退職が続くなか、若い世代に経験や技術の伝承が課題となると述べた。山田錦やプラチナぶどう、百日地鶏やいちじく、サンバママなど北播磨の特産物と商品化などについて懇談が行われた。

午後は小野市の農事組合法人「きすみの営農」を訪れ、代表者から経営や課題などの説明を受けた後、質疑が行われた。以前に

も調査で訪れたことがあり、女性オペレーターが活躍することでも知られる。2つの地域にまたがる営農組織として、地域の農業を守っているが、人材・後継者の確保や育成という課題もある。

午後4時から、事務所で加東土木事務所東播磨南北道対策室から進捗について説明を受けた。



ところで、注目のプロ野球のドラフト会議。社高校出身の辰己涼介（立命館大）、近本光司（大阪ガス・関西学院大）の2人の名前が挙がった。それぞれ楽天、阪神が交渉権を獲得した。嬉しいニュースだ。

19. 議員の「質問力UP」研修（政策法務研修で）

2018年10月30日

29日（月）、午後2時30分から、各党派政調会長会主催の議員研修である政策法務研修会が開かれた。この研修会は、6月18日開催予定だったが、大阪北部地震のために延期となっていたもの。

講師は龍谷大学の土山岐美枝教授。テーマは「質問力を高める」で、議会の役割論から始まり、一般質問について、その意義や質問づくりの要点などについて、事例を交えながら話され



た。議会があること、そして、一般質問が県民のしあわせに繋がるものであることを議員はもちろん、県民も認識を共有することが必要で、そのために議会自身がより積極的に発信していくことが重要だとも話された。90分の速射砲のような講演と20分の質疑応答。あっという間に過ぎた濃密な時間だった。

終了後、自民党県議団の文教部会が行われ、策定中の第3期ひょうご教育創造プランと副読本「五国の魅力物語」(仮称)の編集の進捗状況について説明を受けた。議員からはきびしい注文もあったが、兵庫の教育の基本計画なのでしっかり検討するのは当然だ。加東に帰るころには日も沈み、暗くなっていた。

20. 警察常任委員会、健康福祉部会

2018年10月31日

30日(火)、10時30分、警察常任委員会が開かれ、閉会中の調査事件として「テロ、大規模災害等諸対策の推進について」を調査した。私からはテロの水際作戦などについて質した。



午後1時30分から自民党県議団の健康福祉部会が開かれ、保健医療圏域の再編について説明を受け、質疑が行われた。2時30分、県庁加東クラブ関係の来客、打合せ。そのあと退庁した。写真は、常任委員会の庁内テレビ中継の写真。

21. 警察常任委員会の管内調査で西播磨へ

2018年11月02日

10月31日（水）、11月1日（木）の2日にわたり、警察常任委員会の管内調査で西播磨地区の警察署などを訪れ、調査を行った。



31日（水）は65歳の誕生日。

9時に県庁を出発し、まず長田署で長田、兵庫、須磨の3署の調査を行った。規模の大きな警察署で、管内にスタジアムなどの大規模な施設があったり、暴力団対策など、取り組み課題も多い。

次に須磨にあるグリーンアリーナ神戸で行われている平成30年度兵庫県警察剣道大会を観戦した。警察署の規模別に団体戦が繰り広げられ、選手の気合いや応援団の声援で熱気に満ちていた。会場には加東警察署の「伝之助」の応援旗も掲げられていた。

午後1時30分、小野市山田町にある緊急自動車訓練センターを視察した。全国有数の広い訓練場では、高い技術の習得をめざして、白バイ、ドローン、オフロードバイクなどの訓練が同時に行われていた。

3時15分、佐用警察署で、佐用、福崎、宍粟の3署の調査を行った。ここでは災害に対する警察の対応、住民の期待などについて質問した。住民に一番身近な存在である警察が、まず状況把握、安全な避難誘導など消防や自衛隊が来るまでの間の的確な対応が求められる。現在は事



前の気象情報の共有、泊まり込みなど県警本部との連携を行っているとのことだった。

1日(木)、9時10分、姫路市の飾磨署内の独身寮飾磨寮を見学した。老朽化しており、浴室や炊事、トイレも共同の、まるで昭和時代の学生寮にタイムスリップしたような感じだった。続いて、網干署で、網干、姫路、飾磨の3警察署の調査を行った。姫路市の治安を守る3署の調査では、大規模な秋祭りの警備や、暴力団対策などについて質疑があった。

午後1時、相生署で相生、たつの、赤穂の3署の調査を行った。ここでは、高齢者を狙った特殊詐欺対策について、質問した。午後3時30分、神戸市長田区の市立名倉小学校での県民との意見交換



会に臨んだ。学校、PTA、地域見守り、教育委員会の関係者が出席し、地域防犯、児童虐待、DVなど人身安全事案に関する質問や意見交換が行われた。

2日間にわたる管内調査で、今年度の管内調査(年4回各地)は終了した。広い県内の各警察署を訪れ、調査を行ってきたが、県民の安全を守るために日夜訓練や勤務に励んでおられる姿にあらためて敬意と感謝を捧げたい。同時に、県民に信頼され、期待される身近な兵庫県警としてさら努力を重ねていきたい。

22. 兵庫県連合自治会20周年式典 —地域の要としての自治会

2018年11月08日

7日(水)、午後1時、ポートアイランドにあるホテルで行われた兵庫県連合自治会創立50周年記念大会に出席した。



兵庫県政150周年記念事業として行われたもので、挨拶に立った井戸知事、松本県議会議長は50年にわたる連合自治会の活動の意義を高く評価するとともに、人口減少時代における地域のあり方に自治会が果たす役割の重要性について述べた。功労者への表彰が行われ、その中に加東市の方の姿もあった。よく知っている方々だった。

私も地元加東市社の町内会、区役員などを経験してきた。父親が早く亡くなったので、大学から帰って来るのを待っていた母親に代わって、町内会デビューした。以来、消防団、太鼓屋台の保存会、農会、PTA、子供会などの地域活動に参加してきた。町内会は会計、副会長、会長をそれぞれ2年務めるので計6年、区役員(副区長)も数年間務めた。消防団は11年。太鼓屋台保存会は現在も継続中だ。

長い間、そうした地域の自治活動を経験してよかったと思っている。世代を超えて地域の人々と付き合いながら、そうしたなかで、地域の歴史や伝統を承け継いだり、さまざまな地域の課題の解決や子供達の育成、農地の保全などに取り組んだりしてきたことは、今考えてみると、地域住民の一人として、回ってきた役目

をその時々を果たしてきただけなのだが、そうやって地域の歴史が代々継承されてきていることを実感する。議員になって、市内各地区を回るようになって、そうした思いはさらに深まっている。今、人口減少、少子高齢化によってそうした「地域」の存続が危ぶまれている。私も2度目の町内会役員が回ってきている。それでもここに住んで暮らしている以上、役目はしっかり果たしていこうと思う。

23. 県警白バイ大会

2018年11月11日

10日(土)、秋晴れの下、午後1時、小野市にある県警緊急自動車総合訓練センターで行われた第8回兵庫県警察白バイ安全運転競技大会に出席した。警察関係者の他、多くの一般参観者の前で、県下各署から19名が出場し、スラロームなど、日頃の訓練成果を披露した。広大な訓練場に設けられたコースを走行する白バイ隊員の高度な運転技術にあらためて感心した。この訓練場で行われるのは初めてのことで、全国有数の広さを誇る訓練場も白バイには狭く見えるほどだった。



24. 県庁加東クラブ総会—兵庫県と加東市の新たな絆

2018年11月12日

11日(日)、12時、加東市のホテルグリーンプラザ東条

湖で第3回兵庫県庁加東クラブ総会が開かれ、加東市ゆかりの県庁職員、北播磨県民局と加東市の幹部職員ら約50名が出席した。

総会では、岩根正会長（加東市副市長）が退任し、新会長に平野正幸氏（県代表監査委員）が、また、副会長に井上尊詩氏（広域防災センター次長）が就任した。私も顧問として挨拶。

続いて濱西喜生北播磨県民局長が挨拶した。森協忠之県立社高校校長の発声で乾杯をしたあと、和やかに懇談が続いた。途中、公務のために遅れて出席した安田正義加東市長も挨拶に立ち、

県と市との連携を深めていくことが大事と述べた。

総会のオープニングでは、地元加東市の「ふるさとみんわの会」のみなさんによる大型紙芝居が披露された。播州針の職祖小寺彦兵衛さんが苦勞して高知から釣針製造技術をもってふるさと下久米村に帰り伝えた物語「ひこべいさん」を観賞した。最後に全員で記念撮影を行い、兵庫県と加東市の新しい絆づくりを誓った。



25. 警察常任委員会の管外調査で関東地方へ

2018年11月17日

14（水）から16日（金）の3日間、警察常任委員会の管外調査が行われ、関東地方の県議会や警察施設などを訪れ調査した。

管外調査は年1回行われ、他の都道府県の取り組みなどを調査し、兵庫県の参考とするもの。今回の調査地と主な調査内容は次の通り。

14日（水）①ひたちなか警察署那珂湊警察センター：警察署の統合に伴い、治安維持と災害時の避難所機能を備えた施設と災害対応を調査。②安全運転中央研修所：全国の警察官ら専門職の運転者が講習を受ける研修所で、高度な安全運転技術講習のための施設や取り組みを調査。

15日（木）③警視庁人身安全関連事案対策本部：今年度の委員会の特定テーマである人身安全関連事案すなわち児童虐待やストーカー、DV事案対策に特化した警視庁の取り組みについて調査（東京都中央区勝ちどき）

④警察博物館：昨年4月にリニューアルした警視庁の警察史料の資料館を視察。兵庫県警にの史料保管、展示などの参考にする。⑤警視庁東日本災害警備訓練施設：東京都立



川市にある同施設で、あらゆる状況に対応できるよう工夫された訓練施設と一部訓練を視察した。

16日(金)⑥千葉県議会：千葉県における人身安全関連事案への取り組み、性犯罪・性暴力被害者のためのワンストップ支援センターの取り組みについて調査を行った。

3日間、好天に恵まれ、屋外における施設、訓練、体験なども順調に行われた。特に特定テーマの人身安全関連事案への取り組みについて、警視庁、千葉県の取り組みは参考になった。この管外調査をもって今年度の管内外調査は終わった。

26. 北播磨の食と農の祭典や収穫祭、市民安全大会など

2018年11月18日

17日(土)、9時30分、三木市のネスタリゾートで開催された北はりま「食」と「農」の祭典会場へ。北播磨各市町から多くのおいしいものブースや日本酒、東条川疏



水などの県関係のブースが軒を並べている。10時にはオープニング式典が行われた。濱西県民局長は山田錦、ぶどうなど北播磨を主産地とする豊かな農と食を楽しんでほしいと挨拶した。今日と明日の2日間開催される。

11時過ぎ、加西市にある県立農林水産技術総合センターへ。今日は公開デーで、県立農業大学校の収穫祭も同時に開催され、多くの人出で賑わった。野菜や果物、花卉類などの販売もあり、葉ボタンや立派な大根などを買った。農大では今年も肉うどんを

食べた。

午後2時、加東市滝野文化会館で行われた「安全安心まちづくり加東市民大会」に出席した。警察官、防犯や交通安全功労者の表彰、県暴追センターによる講演などが行われた。オープニングでは東条中学校吹奏楽部が演奏を披露。司会は社高校放送部の女子部員だった。講演内容も青少年と暴力団についてで、常任委員会でも若者が暴力団の構成員となる契機について話題になったこともあり、家庭教育が大事という県警OBの体験談は参考になった。

27. 警察常任委員会や12月議会の準備

2018年11月21日

20日(火)、9時過ぎに登庁。9時30分から開かれた議会改革検証委員会に出席した。議会改革の各検討項目についての報告が行われ、私からは各会派政調会長会での検討結果を報告した。

10時30分、警察常任委員会が開かれた。12月議会に提出予定議案の説明、閉会中の調査事件の調査が行われた。今日は「交通安全対策」について、警察本部の取り組みの報告、質疑が行われ、私からは「いわゆるあおり運転」の問題、「高齢者講習の現状」などを質した。

午後は政調会長室で執務。12月議会に請願を予定している団体の対応、議会事務局との打合せ、当局説明などが続いた。その合間をぬって代表質問の文案づくりも。

28. 楠公ゆかりの地探訪—自民党加東市支部移動研修で

2018年11月22日

21日(水)、自民党加東市支部の移動研修会が行われ、奈良

県の大神神社をはじめ、大阪府千早赤坂村など楠木正成公ゆかりの地を探訪した。

今回の移動研修は、今年2月の総会で湊川神社の垣田宮司から「楠公さんの生き方」についての講演を聴いたことをきっかけに楠公さんゆかりの地を巡り、その生い立ちや精神について学ぼうと企画された。



日本最古の大神神社、楠木氏の氏神でもある建水分神社、正成公誕生の地である道の駅千早赤坂村・資料館、下赤坂城址や棚田の風景などを巡った。建水分神社では神社祢宜から水分神社・南木神社の由緒やエピソードを聴かせていただいた。また、棚田では、城址とともに金剛山から引いた水路の話も知る機会を得、楠公さんが本拠とした南河内の自然や文化を体感することができた。好天に恵まれ、有意義な移動研修会になった。

29. 「新嘗祭」と「東条川疏水」

2018年11月24日

23日(金)は「勤労感謝の日」。新嘗祭が執り行われる祭日だ。玄関に国旗を掲げる。天気がよかったので、風にはためき日に照らされて輝く日の丸は美しかった。

教員だった時には、祝日の前に指導をしていた。祝日の趣旨や来歴を子供たちに教えていた。学習指導要領にも祝日の前にその趣旨を指導するようにとあったはず。戦後、国民の祝日を設けることになると、国民が最も望んだのは「紀元節」だった。誕生

日を祝う気持ちは人であろうと、国であろうと、その誕生と成長・発展を共に喜び祝いたいという自然な人情であろうと思う。紀元節の2月11日がふさわしいというのが国民の声だった。結局、「建国記念の日」という名称になったが、思いは「紀元節」という人も多いだろう。

23日は「東条川疏水の日」である。東条川疏水の水源である鴨川ダムが竣工した昭和26年11月23日を選んで、その記念日と定めたのである。今日は東条湖おもちゃ王国で記念イベントも開かれたようである。また、先日は疏水をゴムボートで下る体験も行われた。25日(日)には、東条川疏水ネットワーク博物館の記念シンポジウムが兵庫教育大学の子午線ホールで開催される。

日本は瑞穂の国であり、播磨はその中でも豊かな農業国である。そして、北播磨は世界に誇る日本酒の酒米の王様、山田錦の主産地として知られる。東条川疏水によって潤される流域の田では酒米山田錦が栽培されている。ダムとため池、これをつなぐ水路。ダムから流れ出た水は、水路を流れ、水道橋やサイフォンで谷を渡り、やがて田圃へと引かれていく。占領下、食糧増産のために鴨川の谷をせき止めコンクリートダムが建設された。ダム建設のためにふるさとを離れなければならなかった土井部落の人々のことを忘れてはならない。今も湖底には土井部落が沈んでおり、渇水の時にはその当時の田や家屋の跡を見ることができる。

今日は新嘗祭。その日が東条川疏水の日と定められたのは偶然ではないような気がする。そんなことを思う一日だった。

30. 北播磨ふるさとフェスタや文化祭など

2018年11月25日

24日（土）、今日は秋空が広がり、山々の紅葉が一段とまぶしく光っていた。

午前9時30分、加東市岡本の東条温泉ととどき荘で開かれた東条ミニ文化祭の開会式に出席した。5回目を数える東条地域づくり協議会が主催する文化祭で、舞台発表や作品展示、お茶席など地域の文化活動グループが参加して交流した。また、特別展示として、東条ゆかりの書家、上田桑鳩の作品や書道展も行われた。



午後1時15分、小野市うるおい交流館エクラで開催された北播磨ふるさとフェスタ（こころ豊かな美しい北播磨をめざす実践推進大会・北播磨地区自治会研究会）に出席した。オープニングでは地元小野市を中心に活躍するよさこい踊りグループの裏播州鬼ほおずき灯の躍動感あふれる踊りが披露された。表彰式では、自治賞をはじめこのとり賞、くすのき賞、のじぎく賞などが地域づくりに貢献された個人、団体に贈られた。また、ふるさと川柳コンテスト、列車内鉄道絵画展の入選者が表彰された。



31. 東条川疏水の日シンポジウム

2018年11月26日

25日（日）、朝、明石市へ。9時から県ソフトボール協会の30年度第3回常任理事会が行われ出席した。

午後1時過ぎに加東市にある兵庫教育大学へ。東条川疏水の日シンポジウムが同大学子午線ホールで開催された。記念日は23日だが、シンポジウムは今日になった。



開会式では主催者である北播磨県民局の濱西局長、ネットワーク博物館協議会の安田加東市長が挨拶し、続いて藤井ひさゆき衆議院議員と私が来賓として挨拶を行った。

シンポジストは、南埜猛兵庫教育大学大学院教授、橋本匡史東条湖おもちゃ王国総支配人、内田一徳神戸大学副学長・ネットワーク博物館名譽会長の3人で、新しい教育と東条川疏水、ネットワーク博物館の今後の進め方などについて、専門分野からの提言を行った。

32. 県議会サテライトゼミ行われる—大学生との対話

2018年11月27日

26日（月）、午後3時から県議会サテライトゼミが行われ出席した。県議会では大学のゼミを県議会で開き、大学生の発表、提案などを聞く機会を設けている。松本議長は挨拶の中で、こうした取り組みを行っている議会は他になく、議会にとって若い人

の意見を聞くいい機会となっていると意義を述べた。

今日は関西学院大学総合政策学部の清水ゼミの学生が発表を行い、出席した正副議長、関係常任委員会委員長、各党派政務会長との質疑を行った。



大学生の発表内容は、「学生のまちづくり～これからのあり方を考える～」、「子どもの成長を支える持続可能な住空間」、「照明と作業効率の関連性」、「体験型観光」で、県政の課題にもつながるテーマでもあり、議員からの質問が相次いだ。

ゼミが終わったあと、政調会長室で代表質問の準備。県庁を出たのは6時を過ぎていた。

33. 井戸知事に31年度予算編成申し入れ —自民党県議団で

2018年11月29日

28日（水）、9時過ぎには登庁。9時45分から自民党県議団の平成31年度予算編成に対する知事申し入れを行った。



9月に行った重要政策提言にもとづき、各部会で議論を重ね、277項目をまとめて提言した。31年度は、「兵庫2030年の展望」を踏まえ、「すこやか兵庫の実現」に向けた

第一歩の年でもあり、地域創生を確実に進めていかなければならない。新しい兵庫の時代をつくっていくための具体的な項目を各部会長が説明し、知事との意見交換を行った。若者、とくに若い女性の人口流出、河川の堆積土砂の撤去、地域創生交付金の交付、日本海津波防災インフラ整備計画の進捗と防災訓練のあり方等々具体的な課題についても意見が出た。

午後1時、県庁記者クラブで記者会見を行った。そのあとは政調会長室で執務。退庁したのは午後5時を回っていた。

34. 神戸で全国ため池フォーラム開催

2018年11月30日

29日（木）、午後2時、神戸新聞松方ホール（中央区）で開催された「2018ため池フォーラム in ひょうご」に同僚議員らと出席した。22回を数え、兵庫県で開催されるのは3回目となる。全



国1位の約38000のため池を有する兵庫県のため池保全の取り組みの紹介や実践事例の発表などが行われた。また、農水省から豪雨災害を踏まえたため池対策の発表もあり、農業用水のみならず自然環境や文化など多面的な機能を守り、活かし、次世代につないでいくため池の保全活動についての理解が深まった。写真は挨拶をする井戸知事。

午後4時、県庁にもどり再び執務。当局からの報告などを受け、5時過ぎに退庁。

36. 県政150周年連携事業—加東市で童謡唱歌まつり

2018年12月03日

2日(日)、午後1時からやしろ国際学習塾L. O. C. ホールで第4回加東市童謡唱歌まつりが開催された。私は町内会の葬儀があったので、少し遅れて参



加した。加東ライオンズクラブ、加東市商工会女性部、そして童謡唱歌を歌う会の3回登場した。挨拶もさせていただいたが、ライオンズクラブの場面で、登壇する時、躓いて危うく倒れるところをメンバーの支えで危機一髪助けられるというハプニングもあった。

この童謡唱歌まつりは4回目だが、県政150周年連携事業として行われたこともあり、市内23団体が参加して盛大に行われた。童謡唱歌、懐かしい昭和の歌など会場フロアで一緒に口ずさめる歌ばかりで、懐かしい風景や場面を共有できた、素晴らしい会だった。

37. 第342回定例県議会が開会、14日まで

2018年12月05日

4日(火)、9時30分登庁。10時から議会運営委員会に出席。10時30分から自民党県議団総会が行われ、代表者会議や議運の結果が報告された。

11時本会議場で第342回定例県議会が開かれた。会期は今日14日まで。諸般の報告に続いて、議案が上程され、井戸知事が提案説明を行った。明日、明後日は議案熟読のため休会し、7日に代表質問が行われる。提出議案は、職員の給与の改正に関する条例改正など2件、給与改定に伴う補正予算案等8件、その他芸文センターなど公の施設の指定管理者の指定など14件、専決処分承認案件など25件。

午後1時から今日2回目の自民党県議団総会が行われ、代表質問、一般質問の概要発表と協議、意見書案などを話し合った。午後2時30分から議会改革検証委員会が開かれ、これまで検討を重ねてきた議会改革に関する検証の報告書案をまとめた。

今日は請願の締め切り日でもあり、午後5時まで政調会長室で待機。退庁したのは午後5時30分頃だった。

39. 県議会で代表質問に登壇 —31年度予算編成など9問

2018年12月08日

7日（金）、9時前に登庁。9時から議会運営委員会。9時30分から自民党議員団総会が行われた。9時40分頃には傍聴団のバスも到着し、議会棟玄関で井戸知事と記念撮影。



10時本会議が開かれ、早速、質問が始まった。今日は各会派の代表質問が行われ、まず最初に私が自由民主党を代表して登壇

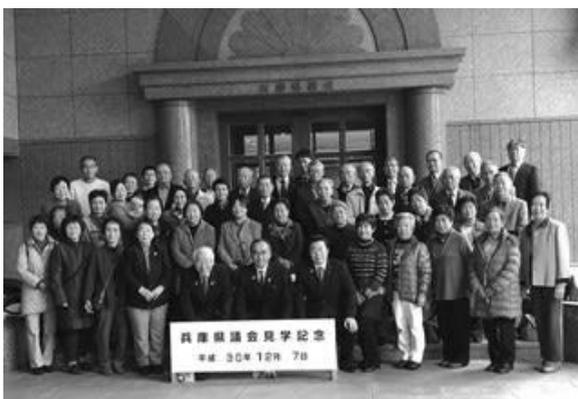
し、8項目9問について質した。質問項目は次の通り。

- 1 平成31年度の予算編成について
- 2 憲法改正について
- 3 県庁再整備について
- 4 適正な公文書管理の推進について
- 5 再生可能エネルギーの生活環境への影響最小化について
- 6 県土強靱化について
 - (1) 高潮対策の推進について
 - (2) 災害時のライフラインの確保について
- 7 幼児教育の推進体制の充実について
- 8 少子化を見据えた県立高校のあり方について



質問に対し、井戸知事、荒木副知事、西上教育長から、公文書管理条例の制定や、県庁再整備に向けた議会での協議、高潮対策、好ましくない開発への厳しい姿勢、幼児教育充実への検討、県立高校募集のあり方等の検討など、気合いの入った前向きな答弁があった。※巻末資料参照

親子傍聴ルームでは、次女夫婦と2ヶ月と10日余りの孫も傍聴した。後で感想を聞くと、周りに気兼ねすることなく傍聴できてよかった、との



ことだった。

傍聴団は議会傍聴後、湊川神社を参拝し、垣田宮司の講話を聴き、宝物殿の見学などを行った。

40. 会議一色の一日だった

2018年12月12日

11日（火）、7時過ぎに県庁へ向かう。8時30分には登庁。さっそく議会事務局と打ち合わせ。9時、議会運営委員会が開かれ、9時30分には自民議員団総会が行われた。

10時本会議が開かれ、一般質問の2日目が始まった。昼の休憩時に各会派政調会長会が開かれ、各会派発の意見書案について態度を表明し、協議を行った。そのあと、自民党議員団の総務幹事会、続いて本日2回目の議員団総会が行われた。これでは昼の弁当を食べる時間がないと思っていたが、10分ほどの間に食べる事ができた。

夕方、県庁近くの会場で水産振興議連と漁協代表者との意見交換会に出席した。海を持たない加東市の私と朝来市の安福議員が議連の一員としていつも出席している。豊かな山と豊かな里海は川でつながっているという認識で出席している。

41. 各会派政調会長会・与党連絡会・わくわくオーケストラ

2018年12月14日

13日（木）、9時30分登庁。すぐに議会事務局と打合せ。11時から各会派政調会長会が開かれ、今定例会での会派発議の意見書案、座長調整案について各会派の了承を確認し、7件の意見書を提案することにまとまった。

11時30分、自民幹事長室で当局説明を受ける。12時から、知事との与党連絡会に。31年度主要施策について井戸知事から説明を受け、意見交換を行った。

午後2時頃、西宮市にある県立芸術文化センターへ。県下の中学1年生を対象とする青少年芸術体験事業「わくわくオーケストラ」が行われ、今日は加東市立社中学校と滝野中学校の生徒が鑑賞に来ていたので、私も参加させてもらった。コベルコホールは中学生で一杯。プログラムは、ヘンデルの「氷上の音楽」、ドヴォルザークの「新世界」、スメタナの「わが祖国」の3曲だった。楽器の紹介や「ふるさと」の合唱などもあり、楽しいオーケストラ体験だった。

県庁に戻り、退庁する頃にはもう暗くなっていた。明日は今定例会の最終日。加東では赤穂義士祭が行われる。毎年12月14日は「特別な日」の感がある。

42. 警察常任委委員会 水土里のふるさとフォーラム

2018年12月19日

18日(火)、10時30分、警察常任委員会が開かれた。報告に続き、閉会中の継続調査事件として「住民に身近な地域警察活動の推進について」を調査した。説明に続き質疑が行われた。私からは、レディースサポート交番、若手警察官の実践講座について質問した。住民に最も近いところで活動する警察について、駐在所、



交番相談員等々の質問が相次いだ。

12時30分、県公館で開催された「水土里のふるさとフォーラム」に同僚議員等と出席した。オープニングで南あわじの人形浄瑠璃の「戎舞」が演じられた。戎様が酒を飲み、最後に大きな鯛を釣り上げるものでめでたい演目だった。式典では、井戸知事の挨拶に続き、みどり豊かなふるさと大賞が知事、委員長から各部門で素晴らしい成果を挙げたグループ、組織に贈られた。

43. 拉致舞台劇「めぐみへの誓い—奪還—」

2018年12月22日

21日（金）、午後、県庁から神戸市文化ホール（中央区）へ。2時から拉致問題啓発舞台劇「めぐみへの誓い—奪還—」の公演が行われ、同僚議員らと参加し観賞した。この公演は政府拉致問題対策本部、兵庫県、神戸市が主催し、劇団「夜想会」が上演した。

脚本・演出を手がけた野伏翔氏が上演前に拉致問題解決への思いを語った。また、挨拶に立った井戸知事は国民的課題という段階を超えている重大問題であり、早急な解決が必要だと強い決意を述べた。

劇は、昭和52年（1977）11月15日、部活を終えて帰宅中の横田めぐ



みさん（当時13歳）が北朝鮮の工作員らに拉致され、工作船に乗せられて北朝鮮へ連れていかれる場面から始まり、北朝鮮での洗脳教育や精神病院での同じ拉致された日本人との交流、父と母の夢を見る場面、北朝鮮国内での思想教育と強制労働や処刑場面など、拉致被害者が置かれている状況が演じられた。また、招待所での田口八重子（ウネ）さんが金賢姫（大韓航空機爆破犯）にスパイ工作を行う場面もあった。めぐみさんの両親、横田滋さん、早紀江さんのめぐみさんへの思いを軸に場面が展開し、最後は、「めぐみは生きている、かならず救い出す、取り戻す」との叫びで幕が閉じた。

フィナーレで出演者全員が「奪還」への思いを込めて歌った。田口八重子役の半井小絵さんの目に涙が光り、その思いが私達にも伝わってきた。写真は公演のチラシから。

明日は、同じ神戸文化ホールで蓮池薫さんの講演が予定されている。

44. 12月議会が閉会

2018年12月15日

14日（金）、10時から議会運営委員会に出席し、各会派政調会長会の座長として、基本計画条例に係る計画の協議結果、意見書案について報告。10時30分、自民党議員団総会、続いて、11時に本会議が開かれた。

本会議では、委員会審査結果の報告、討論、表決が行われ、職員給与等の条例改正案、補正予算案、公の施設の指定管理者の指定など25件が可決成立した。続いて、収用委員の同意人事案、議員提出の報酬等の条例改正案が上程され、可決。次に請願の審

査結果が報告され、討論、表決が行われ、委員長報告の通り5件が不採択。1件が継続審査となった。次に「障害者雇用施策の充実強化を求める意見書」など7件の意見書が可決された。

最後に松本議長、井戸知事が挨拶を行い、12月4日から行われた第342回定例県議会が閉会した。終了後、友好団体との意見交換会などが続いた。また、団体要望も受けるなど、夕方まで執務。夜は、神戸市内で自民党議員団の懇談会が行われた。

45. メリケンパークで県警年頭視閲式

2019年01月09日

平成31年1月8日（火）、9時過ぎに登庁し、政調会長室で事務整理。10時前にはメリケンパークへ。平成31年度兵庫県警察年頭視閲式が行われ、警察常任委員として出席した。



約500名の警察官が西川県警本部長の訓示、視閲を受けた。アトラクションとして、県警音楽隊のドリル演奏、白バイ隊のテクニカル走行が披露された。その高度な運転操作技術に見物の人々からも大きな拍手が送られた。最後に各隊の分裂後進が行われ式は締めくくられた。時折り冷たい風が吹いたものの穏やかな好天の下、素晴らしい視閲式だった。

40. 政調会—31年度予算について

2019年01月10日

9日（水）、10時前には登庁。10時から自民党政調会が始まった。

31年度予算要求、重要施策について各部局からの説明を受けて質問や意見を述べるもので、今日から3日間、自民党大会議室で行われる。今日は初日であり、森脇幹事長の挨拶に続き、午前中は、企画県民部、健康福祉部、午後は農政環境部、県土整備部の説明と質疑が行われた。終わったのは午後3時30分頃だった。

41. 加東市新春交歓会

2019年01月13日

12日（土）、加東市新春交歓会が加東市やしろ国際学習塾3階会議室で行われ出席した。実行委員会（商工会長、区長会長、観光協会会長）が主催し、関係者ら約200名が出席した。



藤井信孝実行委員長は挨拶で、加東市の素晴らしさについて述べ、また安田市長は外国人住民が約1250名に達していることを紹介しながら多文化共生についてふれた。交歓会には市議会議長、兵庫県選出衆参国會議員、県會議員、北播磨県民局長らが来賓として出席し、鏡開きを行った。写真は鏡割りとマスコットキャラクター加東伝の助くんの指揮で「勇躍かとう」を合唱。

42. 2月議会1ヶ月前の議運や防衛議連総会など

2019年01月17日

16日(水)、昼過ぎに登庁。さっそく当局からの説明を受ける。午後1時30分、1ヶ月前議会運営委員会。2時30分から自民党議員団総会に出席。2月議会への上程予定の議案や代表質問、一般質問者の確認、その他、当面の日程などを協議した。その後も自民党県連事務局との打ち合わせや当局説明などが続いた。

午後5時30分から神戸市内で行われた防衛議連総会・研修会に出席した。自衛隊幹部から日本を取り巻く国際情勢について、また県防災監から県の防災の取り組みについての報告が行われた。27年目を迎える防衛議連の取り組みを振り返りながら、自衛隊の応援、県民の安全を守る橋渡しの役割をさらに進めることの必要性を感じた。

明日は1.17。阪神淡路大震災から24年目を迎える。

43. 1.17ひょうご安全の日のつどい—決意新たに

2019年01月18日

1.17。阪神淡路大震災から24年目のこの日、朝7時過ぎに神戸市中央区の東遊園地へ。竹筒灯籠に灯されたロウソクの火に祈りを捧げる人、メディアのインタビューを受ける人等の姿があった。



震災体験の風化が言われるなか、「つなぐ」がテーマになっている。

8時前に登庁。静かな政調会長室で執務。11時頃、1.17

ひょうご安全の日のつどいの式典会場（H A T神戸人と防災みらいセンター）へ向かう。晴れているが冷たい風が吹くなか、最寄りの阪神電車岩屋駅から歩く人も多く見られた。また、つどい会場には自衛隊や警察、消防、各種団体や東北、熊本などの被災地からの参加団体のブースが並び、看護協会の看護師さんによる三角巾の使い方や气象台の方による津波の解説、栄養士さんによる災害時の簡単調理法といった参加者に対する説明や体験の場が提供されていた。式典が始まるまで、そうしたコーナーを見て回る事ができた。

11時50分から式が始まり、松本県議会議長の開会のことば、黙祷に続いて、井戸知事の挨拶、来賓の挨拶、小、中、高の代表によるメッセージ、なぎさ小学校児童の「しあわせ運べるように」の合唱、安全の日宣言、県立西宮高校音楽科生徒の献奏曲の演奏と出席者の献花が行われた。

河田恵昭氏が「安全の日宣言」を朗読。その中に「これらの連続災害が次の南海地震へ、国難へとつながるといふそのような不安がいまも続いている。単なる心配で終わればよいが」の一文があり、まさに今、私たちが覚悟をもって、主体性をもって、すなわち我が事として備えなければならないということなのだと思に銘じた。南海巨大地震は必ず起こるのであるから。

44. 警察常任委員会で特殊詐欺やDVなど調査

2019年01月19日

18日（金）、9時30分登庁。10時30分から警察常任委員会が開かれた。まず、31年度当初予算要求概要などが報告され、続いて、閉会中の調査事件として、「人身安全関連事案や特

殊詐欺犯罪の撲滅」に向けた取り組みについて調査を行った。

委員会の特定テーマでもある虐待やDVなど人身安全関連事案、一向に減らない特殊詐欺への取り組みについては、多くの委員から質問が出された。私からも特殊詐欺対策について質問した。その他、昇任試験執筆問題についての質問があった。

委員会終了後、特殊詐欺対策について、対策室から取り組みの具体事例の説明が行われた。デパート詐欺、フルーツ詐欺、使用していないカードすり替え詐欺など、新手の手口の紹介もあった。

午後3時、鴻池祥肇参議院議員の自民党と鴻池家の合同葬が神戸市内の寺院で行われた。葬儀委員長の麻生太郎副総裁・財務大臣の弔辞をはじめ、伊達忠一参議院議長、橋本聖子自民党参議院議員会長、井戸敏三県知事、後援者代表が鴻池議員との別れの言葉を送った。衆参国會議員、県議會議員、市町長ら2000人を超える多くの人々が参列し、鴻池議員を偲びながらお別れを行った。

45. 東条西小4年生が議場見学

2019年01月26日

25日（金）、今日は東条西小学校の4年生が県庁見学にやってきた。小学生は予定より早めに到着し、議場見学も時間的に少し長めに行われた。挨拶のあと、議会事務局職員から県議会クイズを交えながら詳しく説明を聞いた。児童から女性議員の割合や所属委員会？などの質問も出た。議場での説明を終え、議場裏2階にあ



る歴代議長、副議長の肖像写真が掲げられている部屋を見学。実は私も初めて入った部屋で、自分の写真にも初対面することになった。子供達に加東出身の石井武夫氏、中村敏明氏の2人の議長を紹介すると興味津々の面持ちで見ている。子供達は2号館最上階（13階）のみどり展望台で神戸の街並と港の風景を見ながらお弁当を食べ、県庁を後にした。午後は、人と防災みらい館を見学する。

46. 加東警察署術科始め式

2019年01月29日

28日（月）、10時過ぎには加東警察署へ。今日は平成31年度の術科始め式が行われた。冒頭、廣地署長が警察官にとっての術科訓練の重要性を述べ、来賓を代表して私が挨拶を申し上げた。



剣道、柔道の紅白戦に続いて、総合術科訓練として、交番での凶器を持った犯人への対応が披露された。交番の造り、机などの配置、署員の対応などについての説明が行われたあと、交番勤務の2人の署員が犯人に対応しながら凶器を持ちだして拳銃を奪おうとしたところをさすまたを使いながら素早く逮捕するまでを真に迫る演技で披露した。交番襲撃事件が続いているなか、こうした訓練は重要だ。最後に、県警逮捕術特練チームによる基本練習などのデモンストレーションが行われた。相手に致命傷を与えず、あごや肩などに打撃を与え、また、凶器に対応するなどの素早い

動きの型が披露された。その動きの速さ、正確さ、打撃の強さなど激しい動きに圧倒された。

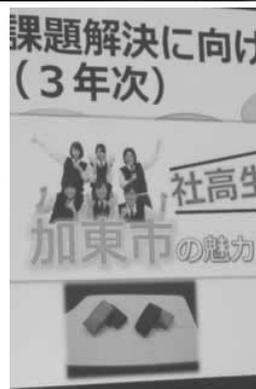
47. 社高校生活科学科発表会 女子高生のチャレンジ

2019年01月30日

29日(火)、12時15分、加東市の県立社高校へ。今日は生活科学科の課題研究発表会が行われた。同窓会長、評議員として出席するのが毎年の楽しみだ。創作弁当「海山美の早春彩り御膳」をいただいた。



1時15分から会議室で発表会が始まり、保護者、1,2年生を前に、3年生が取り組んできた課題研究の成果を発表した。年々レベルが高くなってきており、食の安全、災害時の食、6次産業化、被服、タングラムなどの創作と実演、学校給食献立作成、商品開発でチャレンジショップ、地方創生バスツアーなど実に多彩で内容の濃い、実践的な取り組みが発表された。



女子高校生が地域課題の解決を課題として知恵を絞り、加東市や関係者の協力を得ながら、企画を練り上げカタチにして実践する。まさに若い力が地域創生の牽引力になっている姿を見て胸が熱くなった。

48. 50年後の自分へのメッセージ—150周年事業

2019年01月31日



31日（木）、昼前に県庁2号館玄関前に設置されている「50年後の未来へのメッセージボード」に先日議場見学に来てくれた加東市立東条西小学校の児童が未来の自分に宛てて書いたハバタン絵札を児童に代わって取り付けた。50年後が楽しみだが、さすがに私は無理だろう。

49. 酒米試験地倉庫建て替え中

2019年02月07日

5日（火）、午後1時30分、加東市沢部にある兵庫県農林水産技術総合センター酒米試験地を訪れ、建築中の研修センター（仮称）を見学した。同センターの飯田次長はじめ職員の方から同試験地の歴史や山田錦誕生と藤川禎治初代主任について丁寧な説明を受けた。



酒米試験地は昭和3年（1928）に設置され、91年目。建て替えの作業倉庫も昭和3年に建てられたものだった。この試験地に保管されていた藤川禎治自筆の研究スケッチなど貴重な資

料もを見せていただいた。同センターは木造2階建てで、県産木材が100%使用されている。また、屋根瓦も淡路瓦で葺かれることになっており、兵庫県が誇る山田錦などの酒米の生産性や品質向上の研修拠点にふさわしい建物になるだろう。

6日(水)、10時過ぎに登庁。午後2時、県公館で行われた平成30年度地域安全まちづくりセミナーに出席した。

活動表彰に続いて、「犯罪から自分を守ろう」ポスターコンクールの表彰式が行われた。その中に加東市立社小学校5年生の児童が入っており、よく見ると、今朝も「おはよう」の挨拶で登校を見送った児童だった。おめでとう。



50. 2月議会1週間前議運や議員団総会など

2019年02月09日

8日(金)、今朝は9時前に登庁。9時過ぎに井戸知事に対して自民、公明、県民連合の3会派で幼児教育の無償化を見据え、保育料軽減など県の子育て支援の充実を求める要望を行った。

9時30分、2月議会1週間前議会運営委員会が開かれ、提出予定議案の説明、開会日の議場コンサートや議事順序、補正予算関係の質疑、代表質問と一般質問の会派順などを協議した。

午後1時30分から自民党議員団執行部で2月議会提出予定の31年度予算案、条例などの概要の説明を受けた。

2時30分からは自民党議員団の政調理事会が開かれ、代表質

問、一般質問予定者が質問概要を発表し、内容を検討した。3時30分からは自民党議員団総会。各会派代表者会議、議運の結果が報告されたあと、財政課長から2月議会提出議案の説明を受けたのち、予算特別委員会の予定者などを協議した。

5時から神戸市内で行われた自民党観光振興議連と兵庫県旅館ホテル生活衛生同業組合との意見交換会に出席した。朝から夜まで日程の詰まった一日だった。

51. 自民党加東支部総会・公開講演会「皇室と日本」

2019年02月10日

9日（土）、今日は、加東市社福祉センターで自民党加東市支部総会と公開講演会が行われた。

午後1時総会開会。支部長挨拶に続き、岩根加東市副市長が来賓祝辞。総会議事では、4月の統一地方選挙、7月の参議院議員選挙の必勝など、31年度活動方針などが決定された。



午後2時から公開文化講演会が開かれた。御代替わりの年となることを記念して、元宮内庁担当記者の椎谷哲夫氏が「皇室と日本—昭和から平成へ新しい御代へ」の演題で、昭和天皇や今上陛下、皇后陛下の知られざるエピソードなどを披露した。世界に類を見ない日本の天皇、皇室の存在と国民との深い関係を実感する内容だった。

会場には、党員ら約100名が参加し、講演後、椎谷氏の新著

『皇室入門』（幻冬舎新書）を買い求めるなど、関心の高さが感じられた。また、同僚議員の内藤兵衛県議会議員、加田裕之県議会議員はじめ、加東市、西脇市の市議会議員らの出席もあった。

52. 天皇陛下御在位30年を祝う兵庫県民のつどい

2019年02月12日

11日（月）、今日は建国記念の日、紀元節。朝から雪が舞い、その中を歩いた。忠魂碑、佐保神社、大師殿のコースだったが、特別な気分だった。玄関に国旗を掲げる。

午前は、河高八幡神社の厄除祭りへ。毎年寒いですが今年は雪景色の中だった。昼に上久米の東光寺の「大日ったん」大日如来祭りへ。まだ時間が早かったので、お参りして役員さんらにご挨拶申し上げた。



午後は神戸市へ。県庁の隣の県民会館で行われた天皇陛下御在位30年を祝う県民のつどいに出席した。すでに建国記念の日の式典が行われており、途中から参列した。東京では2月24日に式典が予定されているが、これに先立ち、兵庫県奉祝実行委員会が立ち上げられ、建国記念の日に行われたもの。

式典は午後2時から第一部「清興」～祈りの歌～涼恵さんによる歌から始まり、式典へと続いた。会長の家次恒氏（兵庫県商工会議所連合会会頭）が式辞を述べ、続いて井戸知事、久元神戸市長、谷公一自民党県連会長・衆議院議員が祝辞を述べた。続いて、

元本山第二小学校長の岩本しず子さんが「ひまわり」のエピソードを紹介、宣言文の朗読、聖寿萬歳へと続き式典が終わった。

第二部は、皇學館大学教授の松浦光修氏が「天皇陛下の大御心と祈り」と題して講演を行った。「皇室の祈り」について、歴代、今上陛下の祈りを多くのエピソードを紹介しながら話された。その中で紹介された硫黄島、皇居奉仕団と皇后陛下の祈り・御歌についてのエピソードには深く感銘を受けた。

第三部のパレードにも参加した。県民会館から三宮、生田神社のコースを参加者が日の丸の旗を振りながら長い列をつくって行進した。先頭には錦の御旗ならぬ幟が立ち、神職の皆さん、参列者が並び、天皇陛下御在位30年おめでとうございますの声をあげながらの行進だった。学生時代に昭和天皇の御在位50年を奉祝しての大パレードに参加した時のことを思い出した。終点の生田神社で聖寿萬歳をして散会した。



寒い雪の建国記念の日だったが心の中は感謝と奉祝の気持ちで満たされていた。

53. 第343回定例県議会開会—議場コンサートも

2019年02月16日

2月15日（金）、朝早く県庁に向かう。8時30分登庁。9時から議会運営委員会。提出予定議案、議事順序、決議案などを協議した。

9時30分から自民党議員団総会が開かれ、今日の補正予算案に対する質疑などについて協議。10時から議場で恒例の芸文センター管弦楽団によるコンサートが開かれ、傍聴席も満席のなか、チャイコフスキーやベートーヴェンなど3曲が演奏され、全員で「故郷」を合唱した。



11時、第343回定例県議会が開会。31年度予算、条例などが一括上程され、井戸知事の提案趣旨説明が行われた。休憩に入り、その間に自民党県議団の2回目の総会が開かれ、代表質問と一般質問予定者の発表と協議を行った。

午後、会議再開。30年度緊急対策補正予算案が上程され、知事説明に続いて、質疑が行われた。わが自民党からは筆頭副政調会長の浜田知昭議員（洲本市）が登壇した。質疑が終わり、議案は委員会に付託され委員会審査が行われた。休憩再開ののち、委員長報告、討論に続き表決が行われ賛成多数で可決された。次に樽谷彰人議員に対する辞職勧告決議案が可決された。

本会議終了後、教育委員会などからの説明を受けるなどし、午後5時30分頃には退庁。その足で、元町商店街で開かれていた北播磨の日本酒元町バルへ。すでに多くの人が日本酒やおつまみを楽しんでいた。（写真）加東市からは神結酒造が出店。10日の蔵まつりに続いて山田錦の日本酒をいただいた。

54. 北播磨地域夢会議 高齢者大学 社のおにわ亭

2019年02月17日

16日(土)、9時過ぎに東条コスミックホールへ。加東市高齢者大学の閉講式が行われ、ご挨拶を申し上げた。兵庫教育大学の福田学長の講話や各教室の発表などが行われた。



社の市街地では、「社のおにわ亭」第3弾が開かれ、上月邸、増田人形店を会場にさまざまな店が開かれ、音楽演奏が行われるなど、好天の下、多くの人を訪れた。この催しは商店街の古民家や空店舗などを活用し賑わいを取り戻そうという商店連合会の取り組みで、兵庫県150周年連携事業として行われた。

午後3時前、加西市にある県立フラワーセンター内の会場で北播磨地域夢会議が開かれ、金澤和夫副知事出席のもと、北播磨の地域づくりグループや播磨農高、社高校などの実践発表、全体意見交換が行われた。会場にはふるさと北播磨の写真コンテスト入賞作品も展示された。

55. 憲法改正をテーマに一日政調会—下村博文氏ら講演

2019年02月26日

25日(月)、9時過ぎに登庁し、9時30分から執行部会議。10時本会議が開かれ、一般質問が始まった。今日の一番手はわが自民党の村岡真夕子議員(三木市)。「山田錦の振興について」をはじめ6問について質した。続いて、野口裕議員(公明)が登

壇。親子傍聴室にはお孫さんを連れてご家族の傍聴姿があった。午後も質問が続き、最後に着物姿のわが自民党副幹事長の北浜みどり議員（神戸市灘区）が登壇し、「障害者の就労支援について」をはじめ、5問について質した。

本会議終了後、すぐに県庁向かいの県民会館へ移動。自民党県議団と自民党県連の共催で行う一日政調会「憲法改正の実現を進める講演会」の準備にあたった。

午後5時開会。会場には、県選出国會議員、県会・神戸市會議員をはじめ、県内各市町から首長、議會議長、議員、友好団体、一般の参加者ら約300名の参加者があった。

国歌斉唱に始まり、安倍首相のメッセージ、谷公一県連会長・衆議院議員、私、藤本百男自民党議団政調会長の主催者挨拶に続いて、講演が行われた。

まず、下村博文自民党憲法改正推進本部長・衆議院議員が登壇。天皇陛下御在位30年祝賀式典の話題から、自民党が提出している憲法改正案の4項目について自民党本部作成の啓発パンフを資料に解説しながら、憲法改正の発議、国民投票に向けた動きを促進する必要性を述べた。

続いて、憲法学の立場から百地章国士館大学特任教授・「正論」



執筆者が登壇。主に緊急事態条項、自衛隊の憲法明記について、現憲法にその条項がないことの問題点、明記することの効果などについて解説し、国会は国民の権利、すなわち憲法改正権の行使を保障するためにも発議に向けて役割を果たすべきと締めくくった。

自民党は全選挙区に憲法改正の国民投票に向けた組織を立ち上げ、幅広く憲法改正を進める国民運動を展開している。国会での発議に向けた論議を進め、発議を行い、国民が憲法改正について自らの判断で投票することが、立憲主義、民主主義を強化することになる、という百地先生の言葉が耳に残った。

56. 本会議一般質問、予算特別委員会の委員長に

2019年02月27日

26日(火)、いつもより早い8時30分には登庁。9時、議会運営委員会。9時30分から自民党議員団総会。そして、10時から本会議が開かれた。

今日は一般質問の最終日。午前、午後とも質問が続き、最後はわが自民党の野間洋志議員(三田市)が登壇し、4期16年の県議生活最後となる質問に立ち、「参画と協働という理念の一層の県民への浸透について」をはじめ5問について質した。

一般質問が終わり、予算特別委員会が設置され、私を含めて21名の委員が選出された。補正予算案などの議案が常任委員会に付託された。

本会議終了後、予算特別委員会が開かれ、私が委員長に、副委員長に北条やすつぐ議員(公明)が選出された。続いて、各会派政調会長会が開かれ、各会派発議の意見書案、座長提出の意見書案の趣旨説明が行われた。

その後も政調会長室で執務。明日の常任委員会、予算委員会の準備など、打合せを行った。結局、退庁したのは午後6時30分を回っていた。議員団の控室では、予算委員会の質問準備のために残っている議員の姿があった。明日は常任委員会、予算特別委員会が開かれる。

57. 常任委員会で付託議案審査、予算特別委員会

2019年02月28日

27日（水）、9時過ぎに登庁。議会事務局や同僚議員と打合せなどを行う。10時30分から全常任委員会が開かれ、付託議案審査が行われた。警察常任委員会は30年度補正予算案（警察関係）を全員賛成で可決すべきとした。終了後は政調会長室で執務。議案や請願審査が多い健康福祉常任委員会は午後1時頃まで審査が続いていた。

午後1時から各会派発議の意見書案について検討を行った。午後2時、予算特別委員会が開かれ、平成31年度の財政状況及び兵庫県行財政運営方針変更議案についての説明が行われた。この委員会から7階大会議室での委員会が始まり、委員長席で議事進行を行った。

終了後も政調会長室で意見書案の検討の続きを行った。午後4時30分頃退庁し加東事務所へ。

明日は早や2月の終わり。社高校の卒業式が行われるが、残念ながら本会議のためには出席できない。卒業生の新しい人生舞台への飛翔を祝いたい。

58. 予算特別委員会で財政状況審査

2019年03月02日

3月1日（金）、9時に登庁。9時30分から予算特別委員会が開かれた。今日は財政状況の審査が行われ、上田良介議員（自民：美方郡）をトップバッターに、午前3人、午後は5人が質問に立った。

昼休憩時に理事会を開き、パネル使用などについて協議した。終了したのは午後3時20分過ぎ。政調会長室でしばらく執務して退庁した。

明日2日（土）は後援会本部事務所の事務所開きが行われる。加東に戻ると、事務所内の準備が進められていた。緑地白抜きの「まほろばwith」の看板が夕日に照らされていた。

59. 予算特別委員会部局審査（企画県民部）

2019年03月05日

4日（月）、8時30分過ぎに登庁。9時から自民党県議団執行部会。9時30分から予算特別委員会が開かれた。今日は部局審査の第一日目で、午前、午後で20人が質問に立った。終わったのは午後5時30分過ぎ。終了後、政調会長室で議会事務局との打ち合わせを行い、退庁したのは午後6時30分頃だった。

今日の質問では、防災に関する質問が相次いだ。防災訓練のあり方、住民の防災意識、特に避難行動についての課題が指摘された。8年目の3.11が近づき、また、去年の西日本豪雨の教訓から避難が重要な課題とされている。地震発生後10分程度で到達するという日本海地震の津波と避難についての質問では、「津波でんでんこ」を実践することが大事なこととだと思った。

60. 予算特別委員会、各党派政調会長会

2019年03月06日

5日（火）、今日も予算特別委員会が開かれ、一日を県庁で過ごした。

今日は、部局審査の2日目。健康福祉部と病院局の審査が行われた。19人が質問に立ち、終わったのは午後6時だった。

昼休憩時に予算委員会の理事会、続いて、各党派政調会長会が開かれ、会派発議の意見書案に対する態度表明、協議が行われた。自民党、共産党提出の各2案のうち、各1案について合意が成らず、意見書案として提出は行わないことになった。あとの案は座長預かりとし、次回までに案文を整える。

今日の予算委員会では、トップバッターの上田良介委員が冒頭の挨拶の中で、ワールドマスターズゲームズへの出場を宣言し驚かせたことに触発され、続いて質問に立った委員の中にも出場宣言があるなど盛り上がりを見せた。井戸知事が水泳での出場を宣言していることがきっかけか。最後の質問者の原吉三委員は、広報委員として参加すると締めくくった。

61. 東条で県政報告会

東条湖おもちゃ王国が子供ら招く

2019年03月10日

9日（土）、9時30分、加東市滝野文化会館（下滝野）で行われた30年度加東市スポーツ表彰式に出席しお祝いを申し上げた。全日本ベンチプレス選手権大会63kg級M3女子で優勝した林久子さんをはじめ、個人や団体など156名が受賞した。

11時には東条湖畔にある東条湖おもちゃ王国へ。18回目の

「東条湖おもちゃ王国の休日」が行われ、開会式で挨拶を申し上げた。この催しは、県内の児童養護施設などの子供を招待し、一日をおもちゃ王国で楽しんでもらおうというもので、今年は約800名が参加した。地元加東市のボランティアなどにも支えられ、子供達はビンゴゲームやカレーライス、乗り物を楽しんだ。



12時過ぎにはみのりJA東条支店へ。3階の大会議場をお借りして、県政報告会を行った。2時から開会し、約70名の方が出席された。三木副会長の挨拶



に続いて私から県政報告、村岡真夕子県議会議員、岸本加東市区長会長から励ましの言葉をいただいた。報告では、特産山田錦の生産振興や県道整備、東条川疏水ネットワーク博物館の取り組みなど、東条地域の活力アップについて思いを述べた。

夕方まで事務所で事務整理などを行った。夜は「童謡唱歌を楽しむ会」のお楽しみ会に参加。会員ではあるが、発表会などには参加しているものの、例会は今年も最後のお楽しみ会だけになった。約60名の参加者が23曲を歌って楽しい一時を過ごした。神戸との往復の車中でも童謡唱歌を聴いている。

62. 加東ライオンズクラブで清掃奉仕活動

2019年03月11日

10日(日)、朝からどんより曇っていた。9時前に加東市役所駐車場へ。今日は加東ライオンズクラブとボーイスカウトが一緒に行く清掃奉仕活動の日だった。

数班に分かれて国道や県道沿いに歩いてポイ捨てされた



ゴミを拾う。私は国道372号の加東大橋東詰辺りから旧175号の松尾交差点まで、歩道や道路脇の田圃、溝に落ちているゴミを拾った。車で走っていると美しく見える道路だが、歩いてみると、たばこの吸い殻、プラスチック容器、菓子累の袋、空き缶など実に多くのゴミが落ちている。一緒に歩いたボーイも溝の中のゴミまでしっかり拾っていた。途中から雨が落ちてきたが活動は続行し、各班が拾ってきたゴミを分類し、まとめて作業が完了した。

楽しみは活動のあとのカレーライス。会員、ボーイ指導者の手作りカレーを子供のようにおかわりをする。

午後は加古郡稲美町へ。同僚県議の岡つよし議員の県政報告会に出席し来賓としてご挨拶を申し上げた。会場には多くの支持者の皆さんが駆けつけ、岡議員の県政報告を熱心に聴いておられた。稲美町への道は加古川市立平岡東小学校に勤めていた時代の通勤路。懐かしい景色が続いていた。

63. 予算特別委員会（総括審査と表決）

2019年03月14日

13日（水）、9時過ぎには登庁。議事課、調査課と打ち合わせなどを行う。10時、予算特別委員会が開かれ、井戸知事らが出席し、総括審査が行われた。まず自民党の北



浜みどり委員が質疑に立ち、31年度の財政運営についてをはじめ9問を質した。続いて、各会派を代表しての質疑が続いた。質疑が終わり、共産党から予算編成替え動議が提出された。動議に対する質疑と議案態度表明が自民党はじめ各会派から行われた。続いて表決が行われ、まず共産党の予算編成替え動議が共産党以外の全員が反対し否決された。続いて、予算案、行財政運営指針の変更案など24件が可決された。

2月26日に特別委員会が設置されて以来、財政状況、部局別審査を続けてきたが、本日をもって閉会することができた。閉会は午後4時前だった。

昼休憩時に各会派政調会長会が開かれ、合意できた8件の意見書案を提出することになった。

64. 自民党と各種友好団体との意見交換会

2019年03月15日

14日（木）、今日は自民党県議団と各種友好団体との政策要望に関する意見交換会が行われた。これは自民党県議団が続けているもので、昨年9月に友好団体から受けた県行政に関する政策

要望について、31年度の県の施策や予算等への反映等について報告するとともに意見交換を行った。

今回は71団体が参加し、14、15日の2日間にわたって行われ、1日目の今日は、午前10時から午後4時30分まで、3会場に分かれて32団体と自民党県議団の各部会の政策委員ら関係議員が報告と意見交換を行った。

終了後、明日の予算特別委員会の理事会について議事課と打合せを行った。夜は後援会事務所で役員会に出席した。

ところで、13日、予算特別委員会の総括審査が行われていた午後、突然グラッと揺れた。地震だった。審議は止めずに続行したが、和歌山、四国方面で震度3か4という速報メモが入った。鳥取地震の時も県庁7階の大会議室で審議中だった。ぐらっときた瞬間に南海地震！？という恐怖の思いがよぎったが、揺れはその一瞬だけで終わった。まさに南海トラフ巨大地震、日本海地震と津波対策などを審議してきた予算委員会だったので緊迫感があった。いつ来るか分からない地震。3.11の直後でもあり、あらためて地震への備えは確かかという警鐘になった。

65. 県政報告会（滝野地域）

2019年03月18日



17日（日）、午後2時から上滝野公民館で滝野地域の県政報告会を行った。会場には滝野地域を中心に約160名の方々が出席された。まず、私が「兵庫2030の展望」

など県政についての報告を行ったあと、森脇保仁自民県議団幹事長、大豊康臣副幹事長から激励の言葉をいただいた。また、加田裕之県議会議員・参議院自民第三支部長の奥様からもご挨拶をいただいた。

66. 本会議で31年度当初予算などを可決

2019年03月19日

18日（月）、8時30分過ぎに登庁。9時から自民党議員団執行部会議。9時30分から警察常任委員会が開かれ、31年度関係条例改正案1件の表決が行われ可決。10時から議会運営委員会が行われ、北口議員の自動失職の報告がなされた。また追加提出議案の説明、議事順序、危機発生時の議会の対応の申し合わせなどを協議した。10時30分から自民党議員団総会が行われ、議運の結果報告や諸連絡などが行われた。

11時、本会議が開かれた。31年度当初予算案、条例案などの議案が上程され、まず委員長報告。予算特別委員長として登壇し、15分間、予算委員会審査の結果を報告した。続いて、討論が行われ、自民党を代表して戸井田ゆうすけ副政調会長が登壇し賛成討論を行った。賛成、反対討論の後、表決が行われ、当初予算をはじめ条例案など49件が可決された。続いて、30年度関係の追加議案が上程され、井戸知事が趣旨説明を行い、委員会に付託された。



午後2時20分から自民党議員団の総務・幹事会、続いて議員

団総会が行われた。最後に今期をもって勇退される議員を送る会が開かれ、7名の議員を見送った。新しい舞台でのご健勝でのご活躍を祈って万歳三唱を行った。

2月議会も明日は常任委員会で付託議案審査、20日の本会議で最終日を迎えようとしている。

67. 2月定例議会が閉会

2019年03月21日

20日(水)、9時過ぎに登庁。10時から議会運営委員会が行われ、各党派政調会長会座長として意見書案について報告した。10時30分から自民党県議団の議員団総会が行われ、議運の結果などが報告された。

11時本会議。30年度関係補正予算案、損害賠償請求控訴事件に係る出訴など6件、追加上程された人事案件2件が可決。続いて請願の採決が行われ、7件が委員長報告通り不採択、1件が採択された。続いて意見書案8件が全会一致で可決された。議長、知事の挨拶が終わり定例県議会は閉会した。議場では、今期をもって勇退する議員を送る会が行われ、12人の議員に花束が贈られ、見送った。平成の時代もあと40日。平成時代最後の定例県議会となった。

午後1時30分から播磨臨海地域道路網促進期成議員連盟の会議に出席した。国会の動きや取り組み状況の報告が行われた。

68. 東播磨道北工区着工式が小野市で

2019年03月22日

21日(木)、10時、小野市交流館エクラで行われた東播磨

道北工区着工式に出席した。

東播磨道は加古川市と小野市を結ぶ高規格の南北道路で、すでに加古川中央から八幡までの南工区が完成し供用中である。国道175号につながる残り半分の北工区では美嚮



川に架かる橋脚部の工事などが進んでいる。井戸知事、蓬莱小野市長、渡海衆議院議員はじめ国会議員、釜谷県議、藤原県議、黒川近畿地整局長が挨拶を述べた。続いて鍬入れ式が行われ、私も鍬入れをさせていただいた。

東播磨南北道は小野以北の加東はじめ北播磨と播磨臨海部を南北に結ぶもので、加古川医療センターや加古川市中央部まで20分以上の時間短縮が実現される。私自身も加古川市の公立小学校に通勤していた経験から、この高規格道路の効果に大いに期待するところだ。また、現在改修中の小野藍本線の加東市部分の松沢工区が完成すれば、東条地域から175号を經由して加古川方面へのアクセスが抜群によくなる。期待はふくらむばかりだ。

69. 県政報告会（社地域）

2019年03月24日

23日（土）、冬に逆戻りのような冷たい日になった。

午後2時、加東市上三草のやしろ国際学習塾3階大会議室で県政報告会を行った。行革や兵庫2030の展望、北播磨。加東の可能性などについて報告させていただいた。会場には社地域を中心に多くの方が出席され、また、安田加東市長、内藤兵衛県議会

議員、かだ裕之県議・参議院
兵庫県第三支部長の奥さんから
励ましの言葉もいただいた。
これで、東条、滝野、社の3
地域での県政報告会を予定通
り行うことができた。



70. 安取雨水ポンプ場竣工式

2019年03月25日

24日（日）、9時30分
過ぎ、加東市河高地区の安取
へ。10時から念願の雨水ポン
プ場（内水排水機場）が完成
し、竣工式典が行われた。
これまで台風や大雨の度に加
古川が増水し、内水が排水で



きずに浸水被害が出ていた安取地区に念願の排水ポンプ場が完成した。地元住民、市、国、県の関係者等が出席し竣工を祝った。私も祝辞を申し上げた。テープカットに続きポンプを始動すると、内水が堤防の外、加古川に勢いよく排出された。内水が一定の水位に達すると自動的にポンプが動き排水するシステムになっている。水路の上流にあるため池の事前放流や田んぼダムなども活用し、水害を防ぐことになっている。

式後は場所を移して、県・市町の下水道事業に関する国への要望会が行われ、老朽化、耐震など、下水道施設の更新などの予算確保を国会議員、国交省などに要望した。

80. 告示日—出陣式から当選報告まで

2019年03月30日

29日（金）、今日は県議会議員選挙の告示日。7時過ぎには後援会事務所へ。スタッフと打合せをし、まだ白布を巻いた選挙カーに荷物を積み込み佐保神社へ向かった。8時から拜殿で必勝祈願を行い、境内で選挙道具を待った。9時前に選挙道具を受け取り、早速第一声を挙げ、市内遊説に出発。

10時には、大勢の人が待つ社の選挙事務所で出陣式を行った。決意と新時代のまほろばづくりを訴えたあと、安田加東市長、小紫市議会議長から激励の言葉をいただいた。会場には藤井商工会会長をはじめ、多くの支援者、市民の皆さんが駆けつけて下さり、応援をいただいた。また、事務所でボランティアに来られた皆さんが祈りと期待が込められた千羽鶴をいただいた。

11時には河高にぎわいプラザ前で滝野地域の出発式を行った。ここでも大勢の方が集まっていたき、井上市議会議員、急遽かけつけて下さった藤井衆議院議員からも激励の言葉をいただいた。がんばれの声を背にさらに市内遊説を続け、12時過ぎには加東市岡本のとどろき荘へ。

午後1時、天神のみよりJ A東条支店前で東条地域の出発式を行った。岸本区長会長さんから激励の言葉の中をいただいた。ガンバローコールに見送られ、さらに遊説に出発。好天の下、田圃に出て作業をしながら、あるいはスピーカーの声に気づいて外へ出て手を振って下さる方々に励まされながら市内各所を回った。

午後5時過ぎ、無投票当選確定の報せが入る。選挙事務所に戻ると、すでに当選を知った支援者の皆さんが待ち受け拍手で迎えて下さった。午後5時30分過ぎ、大勢の支援者の皆さんの前で

当選報告会を行った。安田市長、小紫議長から県市の連携で住みよい加東市をつくってこうと期待の言葉をいただいた。



4期目が決まり、これから3年10ヶ月の任期の間、初心に立ち戻り、「まほろばwith」の合言葉を一筋に新しい時代のまほろばづくりに全身全霊で立ち向かっていきたい。多くの支援者の皆さんからいただいた期待をしっかりと受け止め、また、地域の課題解決に向けて県民市民の皆さんの声をしっかりと県に届けていきたい。選挙は告示日一日で終わった。

81. 新元号発表—事務所に「令和」を掲げて祝う

2019年04月02日

4月1日（月）、11時40分頃、菅長官が新元号「令和」を発表した。その時、加東市民病院前の薬店で知人やお客さんと一緒にテレビで視ていた。

後でテレビのニュースで安倍総理の会見で「令和」の出典や意味を知った。万葉集の中から元号が決められたとは思いつかなかった。元号発表までの段取りも問題なく、国民の反応も好意的だったようだ。新年度の初日と相まって、新時代への期待や決意が日本国中にみなぎった一日だった。



書道の先生が事務所に「令和」を祝う書を届けて下さった。早

速、額に入れて掲げ、玄関ドアのガラスにも掲示して祝意を表した。

外国の反応もニュースで視た。元号という国独自の暦を持つ日本の古い歴史と文化、伝統を発信する機会になった

ようだ。日本は遣唐使の昔、中国の文化を取り入れた。また、明治維新で欧米文化を学んだ。外国文化を積極的に取り入れ自国化してきた伝統を持つ。平安時代の国風文化もそうだ。今回の万葉集を典拠とした元号「令和」にそうした思いを持った。



82. うれしの生涯大学入学式

2019年04月17日

16日(火)、9時30分過ぎに、県立嬉野台生涯教育センター(加東市下久米)へ。兵庫教育大学の留学生寮前の坂道の桜のトンネルはまだまぶしく輝いていた。

今日は、平成31年度4年制大学と大学院の入学式が行われた。大学院は25名、4年制度は36名が入学した。4年制定員60名に対して6割という近年にない少ない入学生だった。しかし、意欲に満ちた入学生の皆さんは、令和元年、センター創立40周年という記念すべき節目の年の入学生という稀な存在であり、生涯大学の新たな時代を創造



してってもらいたい。そういう願いを込めた祝辞を申し上げた。

朝、パリのノートルダム大聖堂炎上という衝撃的なニュースに驚いた。尖塔が猛火に包まれ崩れていく映像に思わず声をあげてしまった。

83. 三木警察署落成式

2019年04月18日

17日（水）午後、三木警察署（三木市平田）へ。2時30分から三木警察署新庁舎落成式が行われ出席した。式は加藤県警察本部長の式辞、井戸兵庫県知事、公安委員会、仲田三木市長の来賓挨拶、大木三木署長の謝辞が続いた。

新庁舎敷地は県下4番目の広さをもち、庁舎もゆったりしている

ということだった。旧庁舎は築後半世紀が経ち、老朽化とともに耐震基準も満たしておらず、また署員の増加で狭くなっていたため、新庁舎建設は念願だった。



83. 政調会長を退任—自民党県議団新執行部に引き継ぐ

2019年04月20日

19日（金）、登庁。森脇幹事長と最後の打合せを行ったり、執行部交代に伴う引越し準備をしたりした。そんな中、昼の時間に安田加東市長、岩根副市長をはじめ市役所幹部の皆さんが政調会長室を訪問された。知事はじめ、県幹部への挨拶のために県庁に来られたもの。市の取り組みなどについてしばし懇談。

午後1時50分、自民県議団総務・幹事会が開かれ、1名の入団が承認された。続いて開かれた議員団総会では、総務会の報告などのあと、幹事長、政調会長選挙の結果が報告され、新幹事長に内藤兵衛、新政調会長に春名哲夫の両議員が選出された。新旧幹事長、政調会長の挨拶と交代、続いて副幹事長の交代も行われ、新執行部が誕生した。その後、引き継ぎや議員との話し合いなど、夕方まで県庁で執務した。

夜は新旧執行部の引き継ぎ懇親会が行われた。一年前に政調会長に就任し、それから走り続けた一年。あっという間のようであり、濃密な時間の連続であった。こうからは一議員として、初心を忘れずに議員活動に邁進していきたい。

84. 酒米研究交流館竣工式、北播政経懇話会

2019年04月26日

25日（木）、加東市沢部にある県立農林水産技術総合センターの酒米試験地へ。今日は酒米研究交流館の竣工式が行われた。交流館は木造2階建の白壁、瓦屋根の酒蔵風造りになっており、県産木材、



淡路瓦が使用されている。式では、金澤和夫副知事が県を代表して挨拶し、世界でオンリーワンの酒米研究機関として、日本酒の兵庫県を国内外に強く発信していきたいと述べた。続いて、県議会を代表して藤原昭一議員、地元を代表し岩根正加東市副市長らが来賓挨拶に立った。来賓紹介のあと、テープカット、井戸知事

揮毫の交流館看板の披露が行われた（写真）。

式後、1階の研修室で施設の概要説明が行われ、見学も行われた。2階には資料室や研究室、事務室等があり、資料室には初代研究主任の藤川禎治さん（山田錦の産みの親、加東市出身）自筆の資料も展示されていた。藤川さんの娘さん（加東市在住）も感慨深げに見入っておられた。（※詳しくは、ブログ「ふるさと加東の歴史再発見」を覗いてください）7月には駐車場、作業棟なども完成する予定。

午後は、県立フラワーセンター（加西市）内の研修室で行われた北播政経懇話会例会に出席した。研修の講師は中川秀昭氏（姫路城を守る会理事長）で、「世界遺産姫路城へのまなざし」の題で、姫路城についてさまざまな角度からの見方を紹介された。何度も訪れ、よく知っていると思っていた姫路城だったが、知らないことが多くあったことが分かり、姫路城への関心が深まった。隣の古代鏡展示館の企画展「発掘された銅鏡－兵庫に伝わった鏡と文化－」を見学した。神戸市や三木市、朝来市など、県内各地の遺跡から発掘された銅鏡が展示されており、古代がぐっと身近に感じられた。

85. 91年の歴史を継ぎ「酒米研究交流館」竣工 「ふるさと加東の歴史再発見」より

2019年04月26日

25日（木）、加東市沢部にある兵庫県酒米試験地内に「酒米研究交流館」が竣工しました。今年の2月5日に建築中の同施設を訪れた時には、県産木材の梁や柱がむき出しの状態で、屋根瓦も葺き始められたばかりでしたが、完成した建物は白壁の酒蔵風

に仕上がっていました。

今日は「酒米交流館」と名付けられた新施設1階の作業場で、金澤和夫副知事はじめ県幹部、県会議員、加東市、地元沢部地区、農協や蔵元ら関係者が出席し、盛大に竣工式が行われました。式典のようすは「百聞百見」（私の議員活動ブログ）に報告しています。

この「酒米研究交流館」のある酒米試験地は、昭和3年（1928）に県が酒造米試験地として設置したもので、

91年が経っています。元の作業倉庫は当時建てられたままのもので、老朽化に加え、昨年の台風で傷みがひどくなっていました。そこで、県では建て替えを行い、これまでの研究に加え、新たに研修や交流の機能を加え、創立当初から現在までオンリーワンの酒米研究機関として積み上げてきた91年の歴史と業績を承継し、新たな拠点とすることになったものです。



この試験地の初代主任だったのが、加東郡（現加東市高岡）出身の藤川禎治さんで、昭和11年の山田錦の誕生の中心的な役割を果たしたことで知られています。今日の式典には藤川さんのご遺族（娘さん）も出席されました。2階



の資料室には、品種改良に心血を注いだ藤川さんの手書きのスケッチや「山田錦」命名の貴重な資料も保存、展示されていました。1階の研修室には、山田錦を愛し特A地区の土壌分析の研究に情熱を注いだ本田商会の故本田武義氏寄贈の土壌見本も展示されていました。まさに山田錦主産地ならではの貴重な資料です。

交流館は、木造2階建て。1階には広い作業倉庫や研修室、2階には研究室、資料室、事務室などが配置されています。7月には、駐車場も整備され、バス2台ぐらいは駐車できるようになるとのことでした。

新交流館が、酒造米の研究、栽培方法の研修、酒造メーカーとの共同研究、県民や小中高大学生などの見学、研修など、兵庫県が誇る酒米生産について多くの人々が訪れ、学ぶことができる、まさに酒米研究交流の館として、91年の歴史を承け継ぎ、新時代に国内外に向かって発信と交流の拠点となっていくことを期待します。

86. 天皇陛下ご即位をお祝い

2019年05月02日

1日（水）。令和元年の朝は雨だった。新聞一面は「ご即位」と「令和」の大見出しが躍る。

玄關に国旗を掲げる。神棚に向かって、令和元年の幕開けと第126代天皇のご即位をお祝いし、新しい令和の御代の弥栄を祈った。



10時から加東市上滝野の鬮龍スクウェアへ。鬮龍灘に面して建つ水神社で加古川の川開き神事が行われ参列した。全国で一番早い鮎漁の解禁で知られる鬮龍灘。豊漁と安全を祈願した。続いて、地元上滝野地区子供会が稚鮎を放流した。雨で川はふだんより増水しており、糸を垂れる太公望も苦戦のようだった。

87. 嬉野台生涯教育センター創立40周年記念春フェス

2019年05月05日

4日（土）、まさに快晴の一日だった。抜けるような青空、まぶしいばかりの新緑の野山。そんな中、県立嬉野台生涯教育センターでは恒例の春のフェスティバルが行われ、家族連れなど多くの人々が訪れ、演し物や体験などを楽しんだ。



今年と同センターの創立40周年にあたり、幟を立てられていた。うれしの学園生涯大学の学友会や友の会、地域の諸団体・グループ、県立人と自然の博物館や北播磨県民局など多くの団体・グループがブースを出して盛り上げた。

南欧風の建物に囲まれた中庭では、クスノキの緑陰でコーラスなどの発表や、棒パンづくり、ぜんざい、巻き寿司、おでんなどの販売が行われた。玄関前では、竹とんぼや風船、紙コップとストローのカエルづくり、珍しい昆虫体験、木育、環境体験などのコーナーが設けられ、親子で楽しむ光景が見られた。

89. 播磨臨海地域道路整備促進大会

2019年05月19日

18日(土)、今日は加東市内、加古川市で行われた大会や総会、体育祭などに出席した。

午後2時から加古川市民会館大ホールで行われた播磨臨海地域道路整備



促進大会に出席した。全国有数の工業地帯でありながら道路の渋滞が激しく、物流の改善が課題になっている播磨臨海部に道路を整備しようというもので、会場には関係地域の国会議員、国交省、県、各市町長、経済界、議員連盟など約1500名が参加した。今夏にはルート案が出るという国交省の池田道路局長のコメントがあった。

90. 青野原駐屯地創立43年記念行事

2019年05月20日

19日(日)、10時前に陸上自衛隊青野原駐屯地へ。国道372号から駐屯地への道路は渋滞していた。創立43周年の記念式典、訓練展示などが行われた。



会場には衆参国会議員、県会議員、各市町長、市町議会議員、防衛協会、自衛隊関係者らを

はじめ、地域住民や自衛隊員の家族や友人、自衛隊ファンら大勢の人が参観に詰めかけた。

小山司令が部隊を観閲、隊員、車輛行進に続き、格闘技演技、自衛隊音楽隊の演奏などが行われ、お待ちかねの訓練展示が始まった。パトリオットをはじめ、新中SAM、短SAM、近SAMなどが飛来する敵ミサイルを迎え撃ち、また、桜台に侵入した敵部隊を、ヘリコプター、装甲車、戦車などが見事に撃破、掃討した。

毎年楽しみにしている青野祭だが、今年はやや曇りで風もあり心地よかった。長距離砲や戦車の砲音は空砲といえど迫力だった。もう30歳を過ぎた息子が小さい頃、その衝撃波でごろんと一回転したことを懐かしく思い出した。

わが国を取り巻く国際情勢がますます不安定な中、また、頻発する自然災害への派遣など国防の第一線で、また、危険な災害現場で国民の生命を守る自衛隊に感謝と敬意を捧げるとともに、日夜厳しい訓練を重ねている自衛隊をこれからも応援していきたい。

第342回定例県議会 本会議で自民党を代表しての質問

平成30年12月7日

藤本百男議員



おはようございます。加東市選出の藤本百男でございます。

今年は、兵庫県設置150周年という歴史的な節目の年でありました。県下各地で県民協働の事業が行われ、我が兵庫を作り上げてきた先人の足跡に思いをはせる契機となりました。そして来年は、御代替り。まさに新たな時代を切り拓いていく第一歩の年にしていかなければなりません。平成の時代最後の12月定例県議会

で、自由民主党を代表し、今シーズン、大リーグを舞台に二刀流で胸のすくような活躍をした大谷翔平選手のようにはいきませんが、フルスイングで、8項目9問、一括方式にて質問をさせていただきます。

※編集上、質問と答弁をセットにしています。

〔1問目 31年度予算編成について〕

まずはじめに、平成31年度の予算編成についてお伺いします。

日本銀行神戸支店によりますと、本県の経済状況は、緩やかに拡大しています。輸出が増加基調にあることや設備投資が高水準で推移し、個人消費が緩やかに持ち直していることなどから、生産は増加基調にあり、こうした動向を受けて、雇用、所得環境の改善が緩やかに続いています。

一方、通商問題の動向が世界経済に与える影響や消費税率の引き上げに伴う個人消費の冷え込みなどが懸念されるため、景気下振れのリスクにも留意する必要があります。

今後の行財政運営においては、自然災害への備えや先般の風水害からの復旧、復興に努めつつ、本県に集積する最先端の科学技術基盤を生かした先端産業の育成などを通じて強靱な経済構造の構築に取り組み、経済の好循環の流れが中小企業や小規模企業をはじめ多くの県民、県下各地域にあまねく広がるよう、来年度に向けてしっかりと取り組むことが重要です。

他方、人口減少、超高齢化社会の中で、経済活動の一極集中を背景とした地方の疲弊は深刻な課題であります。都市部と地方部の経済格差はますます拡大し、地方自治体を取り巻く財政環境も厳しい状況にあります。

このため、地方分権を推進する観点からも、地方税の偏在是正に向け、抜本的な税制改革を国に強く求めていかなければなりません。

今年は、県政150周年とともに、奇しくも阪神・淡路大震災後長きにわたり取り組んできた行財政構造改革の仕上げの年度という、本県にとって大きな節目の年となりました。そして来年度は、新たに策定された行財政運営方針に基づき、安定的な行財政基盤を保持しながら、一つには、地域創生、二つには、強い兵庫経済、三つ目に、県民総活躍社会、これらを実現するための兵庫の未来を切り開く政策を一つひとつ着実になし遂げていくこと。そして、その成果を積み重ねていくことにより、「兵庫2030年の展望」で目指す「すこやか兵庫」の実現につなげる第一歩を踏み出す年となります。

このため、平成31年度当初予算編成に当たっては、これまで以上に施策の選択と集中を徹底する中で、県債残高の着実な削減を進めるとともに、国内外の動向や市町、県民の多様なニーズを的確に捉え、県民の視点に立った政策を県民とともに実行する県政の推進を前面に打ち出した思い切った予算編成が求められます。

ついては、行財政運営方針策定後初めての年度となる平成31年度の予算編成にどのような方針で臨まれるのか、知事のご所見をお伺いします。

答弁：井戸敏三知事

自由民主党議員団を代表しての藤本百男議員のご質問にお答えいたします。

まず、平成31年度の予算編成についてです。

平成31年度は、県政150周年の節目をもとに、新たな行財政運営の枠組みのもと、新しい兵庫づくりに向け、スタートを踏み出す年となります。平成20年度からの構造改革は一区切りを迎えたとはいえ、震災関連県債残高と行革期間中に発行した財源対策債残高、合わせて約6500億円の償還が今後も続いてまいります。

好転しつつある本県経済も米中通商摩擦等の世界経済への影響が懸念されます。国に対しては、消費税率引き上げに伴う景気対策の推進や地方税の偏在是正等の税制改革を強く求めています。

それだけに新たな行財政運営方針のもと、県民から信頼される適切な運営を行わなければなりません。このため平成31年度の予算編成は、新たな行財政運営方針に基づき、各分野における選択と集中の徹底のもと、収支均衡の維持と将来負担の軽減を図る財政運営の目標を堅持しながら、「兵庫2030年の展望」が示す「すこやか兵庫」の実現に向けた施策に積極的に取り組んでまいります。

その第1は、安全・安心で豊かな暮らしの実現です。頻発する自然災害への備えの強化、子育て環境や医療・介護体制の充実などに取り組みます。

その2は、未来へ続く地域活力の創出です。次世代産業の育成や農林水産業の基幹産業化、地域と世界で活躍できる人材の育成などに取り組みます。

その3は、国内外との交流、還流の拡大です。インバウンド対策による誘客促進や都市再生の促進、交通インフラの充実などに取り組みます。

平成31年度当初予算は、これから10年の出発点、兵庫の将来につないでいく予算になります。各会派から申し入れをいただきましたが、

これを十分参酌しながら、県民の参画と協働による県政の推進を基本として、新たな時代を開く予算として編成してまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

藤本百男議員〔2問目 憲法改正について〕

2点目は、憲法改正についてであります。

安部首相は、今臨時国会の所信表明演説において、憲法改正については、国会の憲法審査会において、政党が具体的な改正案を示すことで、国民の理解を深める努力を重ね、その中で、与野党の政治的立場を超え、幅広い合意が得られるものであるとの確信を述べました。その上で、憲法を改正すべきか、最終的に決めるのは国民の判断であり、国民とともに議論を深め、国会議員の責任を果たしていこうと呼び掛けました。しかし、衆議院憲法審査会はようやく開催されたものの、審議は進まず、今国会での自民党憲法改正案の国会提出の見通しは立っていません。

我が自民党は、憲法第9条への自衛隊明記、緊急事態条項、参院選の合区解消、教育の充実の4項目の改正案を自民党の案として国会に提出し、憲法審査会での審議を行い、憲法改正案をまとめ、発議を行うという道筋で進めようとしています。

日本国憲法は制定以来、70年以上一字一句も改正されておらず、その間の国際情勢や社会の大きな変化に対応できなくなっている現状を踏まえて、将来にわたって、国家、国民の平和と安全、繁栄、民主主義の発展を確保していくために憲法改正を実現していこうとするものであります。

また、世論調査などでも憲法を改正すべきとする国民が約半数おられることから、そうした国民の意思に国会として応えていく責任は重いものであります。中でも自衛隊明記、緊急事態条項の2項目は、国家の危急的事態、すなわち外国からの侵略や大規模な自然災害から国家、国民を守っていくための改正条項であります。近隣国による海空からの攻撃、侵入や年々頻発、激甚化する大規模災害に対して危険

をも省みず、身を呈して活動する自衛隊を憲法上に明記された存在にするという極めて利と心になかった改正案であります。

また、南海トラフ巨大地震や首都直下型地震などに対しても国家の存立を危うくすることのないよう、緊急に対応するための条項を設けることも世界各国の憲法に照らせば、至極当然のことです。したがって、私たち兵庫県民にとっても、県土、県民の安全を守るため、憲法改正は喫緊の課題であると考えます。

井戸知事は、憲法改正については、常々、地方自治の条項も含めて国会をはじめ、国民の間において十分な議論や検討がなされるべきであると期待を表明されています。また、全国知事会では、地方自治の本旨の明確化など、地方自治の条項について憲法改正への国民的関心と呼び起こし、地方分権を推し進める契機となるよう、憲法改正議論が進められています。

については、国会において、これら憲法改正の議論を速やかに、そして着実に進め、憲法改正発議を行い、国民の判断を問うよう、県民の安全を委ねられている地方自治体として、また、真の地方分権の実現を目指す立場から、今こそ国に改正を求めていかなければならないと考えますが、知事のご所見をお伺いいたします。

答弁：井戸敏三知事

続いて、憲法改正についてのお尋ねがありました。

日本国憲法の改正の必要性やその内容については、国会をはじめ国民の間でさまざまな意見があると承知しています。地方自治を預かる知事としての立場では、地方自治に関する規定は、92条をはじめ4条しかなく、内容が抽象的、理念的であることから、これらの地方自治条項を充実する必要があると考えています。

具体的には、法律に違反しない限り、地方自治体が独立に条例制定ができること、自主的な財政権を持つこと、自主的な課税権を有すること、これらの趣旨が明記されれば理想的と考えます。全国知事会と

しても地方自治会の本旨の明確化などの地方自治条項の充実について国に要請しています。

さきの政府主催の全国知事会議におきましても、全国知事会から、地方自治条項の充実を求めた際には、安部総理から、憲法改正は、国会の憲法審査会で議論いただくものでありますが、国の未来について幅広く国民的な議論が行われ、そうした議論が国会に届けられることが重要との発言がありました。

ご指摘の自衛隊については、外交、防衛は、国の専管事項ではありますが、国際平和貢献、大規模災害への派遣など重要な機能を自衛隊が果たしていることに加え、国の安全の根幹をなす存在であること、また、緊急事態条項については、大規模災害時の緊急事態に迅速に対応するための国会と内閣とのあり方に関する事項であることなどから、これらの項目についても国民的な議論が行われることが肝要だと考えます。今後とも、特に地方自治条項の充実については、知事会とも連携して、国に働きかけを行ってまいります。併せて、我が国のあり方の根本を規定する憲法の改正については、国会をはじめ国民の間において十分な議論がなされることを期待したいと思います。

藤本百男議員〔3問目 県庁再整備について〕

3点目は、県庁再整備についてであります。

J R 三宮駅直結の駅ビルが2020年度中の整備を目指して解体が始まりました。J R 三宮駅の一日の乗車人員は約12万人で、44万人の大阪駅や20万人の在来線の京都駅とは差はありますが、大阪駅、京都駅ともに駅ビルを中心に商業施設などの新設、改装が進み、にぎわっていることから、三宮駅も美しき港町神戸の玄関口として一新し、駅周辺を核とした再開発が進むことが期待されます。

これと時期を同じくして、県庁の耐震診断結果が判明したことを発端に、本年8月、有識者で構成された元町山手地区再整備基本構想・基本計画検討委員会が設置され、建替か、耐震補強か、2号館や議場

棟も建て替えるのか、また、建替場所やライフサイクルコストを含めた必要となる費用から目指すべきまちの将来像まで、さまざまな検討が進められています。

検討途中ではあるものの、建替を行うとなれば、概算で約650億円から700億円、耐震改修の場合でも500億円程度の工事費を要すると見込まれることから、一大プロジェクトとなります。

建て替える場合、JR三宮駅と元町駅、また、地下鉄県庁前駅との間が数百メートルと近接していることから、併せて三宮、元町駅南方面からの回遊性が高まるような沿道の再整備などを行うことで、JR三宮駅周辺の再開発と連動した周辺地域の再開発が進むことも期待されます。また、元町駅から県庁へのアクセス改善に向けた元町駅の整備検討も進むと期待されます。

これらのことから、県庁再整備は、単なる老朽化した建物の建替にとどまらない、人が集い、ふれあい、にぎわいの生まれる新たなまちづくりへの転換点ともなり得る県政における最重要課題であると考えます。

よって、我が自由民主党では、有識者委員会が出される検討結果が即結論となるのではなく、あくまでも有識者委員会は、これから議会や県民が議論していくための原案づくりの場であると認識しています。ついでには、兵庫県の50年先、100年先を展望した県民が夢を持てるものとなるよう、拙速に検討を進めるのではなく、県議会や県民も参画して、十分な協議調整を進めていく必要があると考えますが、基本構想の策定に向け、今後どのように取り組まれるのか、ご所見をお伺いいたします。

答弁：井戸敏三

続いて、県庁再整備についてのお尋ねがありました。

ご指摘のように、三宮周辺では、阪急駅ビルの建替、新バスターミナルビル再開発会社の事業協力者の選定、神戸市の駅・まち空間基本

計画の策定など、三宮再整備に向けた取組が進みつつあります。

一方、県庁周辺では、本庁舎の耐震強度の不足、県民会館や神戸総合庁舎などの県有施設の老朽化に加え、元町駅を挟んだ南北の分断などの課題があります。このため、県庁舎の再整備に伴い、新たなにぎわいを創出して、三宮や元町方面からの回遊性を高め、にぎわいと活力あるまちへ再生するため有識者委員会を設置して、課題や対応方策の整理を行っております。

県庁舎の再整備であります。県庁舎1号館のIS値が0.3弱となったこと。南海トラフ地震等を想定したシミュレーションでも倒壊はしないものの、大破する可能性があることなどから、建替と耐震改修のコスト比較等を行い、最適な手法の検討を行っています。

70年間のトータルコストでは、建替が耐震改修を約100億円下回ると算定されておりますことから、コスト面や執務環境への影響、例えば改修ですと、鉄骨ブレースを設置しなくてはなりません。執務面積が減少するという事など、執務環境への影響なども考慮すると、建替が望ましいのではないかと考えられます。

このような課題も一定整理できつつありますので、今後は、県民を代表する県議会に協議の場を設けていただき、県庁舎の再整備のあり方について、県議会と十分に協議を行ってまいります。そして、県民の意見も伺いながら、基本構想、基本計画の策定を進めてまいります。

藤本百男議員〔4問目 公文書管理について〕

4点目は、適正な公文書管理の推進についてであります。

公文書をめぐっては、国有地売却をめぐる記録の書き換えや獣医学部の新設をめぐる面談記録の存在の有無、存在しないとされていた南スーダンでのPKO日報が発見されるなど、一般的にはあり得ない事案が発生したことは今も私たちの記憶に鮮明に残っております。

これらの事案を受けて、国で公文書管理に関するルールの見直しが行なわれたり、東京都や愛媛県で、新たに公文書管理条例が制定される

など、公文書の適正な管理を確保するための取組が活発になっています。ただ、本県での公文書管理については特段の問題が生じていないこともあり、これまでの議会答弁では、まず条例制定ありきといった議論には慎重でありましたが、一方で、神戸市内での中学生の自殺事案に関する関係者の聴取メモの不適切な取扱に関連して、知事は、現在の公文書管理の見直しの必要性に言及されるなど、公文書の適正管理の重要性についての認識を示されています。

公文書管理法を制定して、公文書の適正管理についての理念を高らかに掲げている国においてさえ、先ほど申し上げたようなさまざまな問題が生じてしまっていることを踏まえたと、私も条例を制定しさえすれば、適正な公文書管理が確保できるとは考えませんし、実質的な制度の充実や改善が伴わない条例を制定しても意味がないと考えます。

一方、職員が職務上、日々大量の文書を作成し、分類、あるいは廃棄し、あるものは保存する中で、職員は一体どのような文書を作成すべきなのか。どのような文書を公文書として適正に管理していくべきなのかは職員一人ひとりが共通した理解、認識の上で、実務に携わらなければならないことでもあります。そういう意味で、職員にとっても分かりやすい公文書管理制度を構築することこそが適正な公文書管理に必要なことであると考えます。

そこで、本県において、今後も公文書の適正な管理を継続していくため、どのような取組が必要と考えているのか、知事のご所見をお伺いをします。

答弁：荒木一聡副知事

公文書管理の推進についてお答えをいたします。

適正な公文書管理は、県のさまざまな活動を県民に説明する責務を果たし、県民の参画と協働による県行政を推進するために不可欠です。そして、このことを全ての職員が認識することが必要であると考えて

います。

現在、本県では情報公開条例で、公文書の定義を定めた上、知事部局、教育委員会等の各実施機関の規則で、おおむね共通するルールを定め、適正に公文書の管理を行っています。県全体を通じて適正な公文書管理を確保するためには、制度の運用面でも、その文書の取扱において実施期間や所属によってばらつきが生じないように、実務的なマニュアル等を充実していく必要があります。

これまで国の動きも参考にしながら、制度改善について検討を進めてきましたけれども、今後将来にわたって適正な公文書管理を持続させ、更に徹底していくためには、県としての公文書管理に関する理念、目的と全庁の統一ルールを定めることが効果的であると考えます。このため、年度内を目途に専門家からなる委員会を立ち上げて、新たに公文書管理のあり方について、条例の制定を含め、検討し、適切な対応を図っていきたいと考えています。

また、この文書管理を実効性の伴ったものとするため、一つに、公文書性の判断についてのマニュアルづくり、二つに、職員研修の充実、文書管理システムの機能充実の検討など、制度改善に継続的に取り組んでまいります。今後も適正な公文書管理と情報公開の推進により、公正で透明な行財政運営に努めてまいりたいと考えてございますので、引き続きのご指導よろしくお願いいたします。

藤本百男議員〔5問目 再生可能エネルギーの影響〕

5点目は、再生可能エネルギーの生活環境への影響最小化についてであります。

2015年、COP21において、地球温暖化対策の新たな国際枠組み、パリ協定が採択され、開発途上国を含む全ての国が一丸となって温室効果ガスの削減に取り組むことで合意しました。その後、パリ協定の枠組みの中で、我が国が定めた温室効果ガスの排出削減目標を達成する上で、我が国の再生可能エネルギーの導入率が低く、石炭火

力を重視する姿勢に各国から批判が寄せられており、化石燃料以外でも発電割合の増加が求められていることから、地球環境への負荷が少ない再生可能エネルギーの導入拡大に対する期待が大きくなっています。

また、再生可能エネルギーの導入は、土地の有効活用にもつながるほか、発電設備の立地による地元自治体や地域経済への波及効果など、地域に多くの便益をもたらす側面もあり、本県でも再生可能エネルギーによる発電量を現在の約36億キロワットアワーから、2030年度に70億キロワットアワーとすることを目標に掲げています。

一方、県内では、7月豪雨により姫路市内の傾斜地で太陽光発電施設が約3,600平方メートルにわたって崩れ、雨が降るたびに心配で娘の家に避難する状況となるなど、近隣住民に不安を与えたにも関わらず、設置した企業による飛散パネルの撤去等が10月になったことや、神戸市内では太陽光パネルが崩落し、すぐ脇を通っていた新幹線が安全のため、一時運転を見合わせる事態となったこと、8月の台風では淡路市内の風力発電施設の倒壊事故が発生しました。

現在、新温泉町の山間部約2,000ヘクタールの区域に高さ150メートルの風力発電機が21基程度という、国内最大級の風力発電施設の建設計画が進められています。予定地周辺には、希少種のイヌワシやクマタカが生息していることなどから、自然環境への影響のほか、土砂崩壊をはじめとした自然災害、低周波音やシャドーフリッカーといった健康被害などが懸念されています。

このような地域住民の生活安全面への不安が高まっている状況を踏まえ、県では、9月定例県議会で風力発電施設を届け出制度等の対象に追加するなど、太陽光発電施設等と地域環境との調和に関する条例を一部改正したところであります。

環境影響評価や条例手続の中で、国や県は、設置者に対し、あらゆる面での十分な配慮を求めています。条例のほか、農振法、森林法、自然公園法など、さまざまな土地利用規制があっても、事業者が着々

と法令をクリアして整備を進める姿に、いまだ住民の不安は解消仕切れていません。

今後も、世界中からクラウドファンด์により調達した資金をもとにするなどして、外国資本による施設整備が今後増大することも懸念される中で、立地による影響の重大性が認識される前に土地所有者から土地が買い進められたり、建設後、想定外の自然災害による故障や事故の発生、固定価格買取制度の見直しや電力会社による再生可能エネルギーの買取期間終了で売電ビジネスが成立しなくなった場合、外資など、にわか設立された会社だと廃墟のまま放置されてしまうのではないかとといった不安材料は残っています。ついては、適切な立地コントロール等により、再生可能エネルギー導入の拡大と環境面、生活面への影響の最小化をバランスさせるよう、県が主体的に関わることが住民の安心につながると考えますが、ご所見をお伺いします。

答弁：井戸敏三知事

再生可能エネルギーの生活環境への影響、最小限化についてのお尋ねがありました。

再生可能エネルギーについては、地球温暖化対策の取組として導入が進められていますが、一方で、例えば台風による太陽光パネルの破損や風車の倒壊、無秩序な森林伐採による自然破壊の懸念などが生じてきております。地域環境との調和が不可欠です。太陽光発電施設等と地域環境との調和に関する条例では、地盤の安定など防災面、施設の安全面、緑化などの景観面等の施設基準を制定しています。併せて、災害危険区域、土砂災害特別警戒区域などを設置不適地としました。

加えて、風力発電施設を条例の対象に追加したことに伴い、騒音や野生動植物への配慮に関する基準も設けて立地コントロールを行っています。また、住民説明を義務付け、例えば太陽光パネルの位置や角度を変更して、反射光へ配慮するなど、地域の意見に対する適切な対応を事業者に求めています。

このほか、条例施行前に設置された施設に対しても、例えば豪雨災害で破損した施設について、その状況を報告させ、危険な部材の撤去など、応急対策を指導するなど、地域環境との調和を図っています。たとえ再生可能エネルギーの拡大に寄与する施設であっても、人の営みと自然との共生を著しく損なうような本末転倒なものについては、本条例はもちろん、ご質問にもあった農振法、森林法、自然公園法等の土地利用規制や大規模開発指導要綱、環境影響評価など、関係法令等に基づくあらゆる権限を行使し、厳しく指導してまいりますし、関係市町とも密に連携を図りながら、厳正に対応してまいりますこととしておりますので、これからもよろしくご指導いただきたいと存じます。

藤本百男議員〔6、7問目 県土強靱化について〕

6点目は、県土強靱化についてであります。

今年は、大阪北部地震や風水害など自然災害が相次ぎました。今後、発生が懸念される南海トラフ地震や激甚化する風水害への備えを強化する必要があることから、特に次の2点をお伺いします。

1つ目に、高潮対策の推進についてであります。

9月の台風21号によって、阪神沿岸地区では、観測史上最高の潮位を記録し、暴風による高波等の影響で、南芦屋浜や宮川、高橋川の川沿いの地域で700戸超の住宅が浸水したほか、港湾施設の被害、車両火災の発生など甚大な被害が発生しました。

現在、これら地域の被災原因の究明が進められており、今後対策を検討していくこととされています。高潮対策の実施に当たっては、護岸のかさ上げを基本として、時期や工法について、住民の意見をしっかりと聞いた上で、沈下対策や景観に配慮しつつ、必要な高さとすることなど、再度、災害防止に向けて取り組むことが求められます。

また、過日、芦屋地域での高潮推進予測区域図の作成において根拠となった測量の記録ミスが生じていたことが判明しました。このため、住民の不安を少しでも解消できるよう、現在公表している予測区域図

を見直し、できるだけ早く区域図を作成、公表することが必要です。つきましては、今後、これらの課題を一つひとつ乗り越え、再度、災害防止に向け、高潮対策の強化を進める必要があると考えますが、これまでの調査、検討の状況と、今後どのように対策を進めるのか、ご所見をお伺いします。

2つ目に、災害時のライフラインの確保についてであります。

台風21号の影響で、阪神間を中心に大規模な停電が発生しました。被害は県下全域延べ43万1,000戸にまで及び、一部地域では、復旧に1週間以上もの時間を要しました。停電原因は、電柱が折れたり、倒木による電線接触や飛来物による電線の断線等の被害が多かったのですが、平成以降の自然災害による停電では、関西電力供給エリアで、阪神・淡路大震災に次ぐ規模となりました。停電が県民の暮らしに与えた影響は大きく、エアコンをはじめ家電製品、エレベーターが使えないだけでなく、集合住宅の中には、屋上の給水タンクに水をくみ上げるポンプが動かないために水道も止まり、トイレも使えなくなった住宅もありました。

このほか、大阪府北部地震では、老朽化した医療施設での設備の破損等により医療提供に支障があったという報告もありました。災害の発生は、防ぎようがないだけに、被害を最小限に抑える減災、縮災に向け、可能な限りの取組を進めていかなければなりません。ついては、今回のような送電設備の被害を避けるため、例えば耐震強化や電線類の地中化といった取組を加速させるとともに、災害時でも医療体制が維持確保できるよう、民間機関を含めた医療機関における災害時のライフラインの確保に努める必要があると考えますが、今後の災害時のライフラインの確保に向けた県の取組をお伺いします。

答弁：井戸敏三知事

県土強靱化について2問お尋ねがありました。

まず、高潮対策の推進についてです。

台風21号により、尼崎、西宮、芦屋港を含む大阪湾岸で浸水被害が発生したことから、国等とともに検討委員会を設置しました。気象状況や浸水状況を把握し、潮位、波浪の再現シミュレーションにより浸水原因を究明しています。その結果を踏まえ、年度内に尼崎、西宮、芦屋港沿岸等で浸水した地区の高潮対策を取りまとめてまいります。

対策は、既設の防潮堤や河川堤防のかさ上げを基本に、堤防がない箇所は新設することとなります。施設の必要高さは、委員会の結果を踏まえて決定しますが、この場合、経年沈下や今後の沈下も加味していきます。工事は来年度から着手し、3年程度で終わります。先日、石井大臣にもこの旨お願いをいたしました。

このうち、南芦屋浜は住宅に近接しており、景観も考慮する必要がありますので、地元の意見を聞いていきます。また、高橋川、宮川では、橋梁の高さが不足しており、橋梁の架け替えやかさ上げを行うことが基本ですが、住家が密集し、生活に大きな影響を与えるおそれがありますので、高潮時に橋梁の両岸に仮設の遮へい板等を設置することなど、構造や管理方法について、神戸市、芦屋市と調整してまいります。

南芦屋浜南側の護岸かさ上げや高橋川、宮川の既設堤防のかさ上げ、橋梁の対策は、平成32年出水期までには完成させます。また来年度には、今回の教訓を踏まえ、全県下を対象に兵庫県高潮対策10ヵ年計画を策定し、高潮対策に全般的に取り組んでまいります。

一方、高潮浸水予想区域図については、現在の防潮堤の高さを測量し、平成27年の水防法改正に基づき、想定し得る最大規模の高潮により全県的に新たな浸水想定図を作成することとしております。尼崎、西宮、芦屋港は、今年度末には公表いたします。今後とも、高潮をはじめとする自然災害からの安全・安心の確保のため、県土強靱化に取り組みます。災害時のライフラインの確保についてです。

災害発生時にライフラインの被害を抑制するため、設備の強靱化や早期復旧などの対応は、関西電力などライフライン事業者が行うことが基本ですが、台風21号により大規模停電が発生したため、関西電

力では検証委員会を設置して、まず、停電の早期復旧、二つに、顧客への情報提供、三つに、自治体との連携などを視点に検証を進められました。

本県としても、病院など優先復旧施設の事前選定や、二つに、停電情報、復旧情報の県民への提供など、関西電力と連携して必要な対応を図ってまいります。

電線類の地中化については、関西電力等と計画的に取り組んでいますが、昭和61年度から、これまで約450キロの整備を行いました。今年度新たに無電柱化推進計画を策定し、国がモデル事業として始めている低コスト手法の導入を積極的に検討するなど、更なる地中化を計画的かつ総合的に推進します。

一方、民間を含む全ての病院において、災害時に診療を継続するために必要な医療機器などを動かすための電気や透析治療などを行うための水などのライフラインは、医療提供に必須でありますので、災害時の業務継続計画BCPの策定や自家発電燃料、水などの応援協定の締結について指導してまいります。

今後とも関西電力などライフライン事業者や病院をはじめ関係機関と連携し、災害に備えたライフライン確保策を進めてまいりますので、よろしくご理解いただきたいと存じます。

以上、私からの答弁とさせていただきます。

藤本百男議員〔8問目 幼児教育の推進体制について〕

7点目の質問は、幼児教育の推進体制の充実についてであります。

幼児期の教育は、次代を担う子供たちが人間として心豊かにたくましく生きる力を身に付けられるよう、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものであり、この時期に質の高い幼児教育が提供されることは極めて重要であります。

それは知識のみを獲得することを先取りするようないわゆる早期教育ではなく、幼稚園や保育所等における教育に加えて家庭や地域社会

における教育を含み、幼児の生活は、その三者で連続的に営まれていることから、これらが連携し、全体として豊かなものとなって、初めて健やかな成長が図られるものであります。

現在、幼児期の教育や保育、地域の子育て支援の量の拡充や質の向上を図るため、国では平成27年度に子ども・子育て支援新制度を導入し、来年10月からは、幼児教育の無償化を開始するなど、幼児教育の提供体制の充実が進められています。

現状を見ますと、幼稚園や保育所、認定こども園等の幼児教育施設の職員に対する研修体制が必ずしも十分でない上、教育時間の長時間化、事務の煩雑化の中で、職員の負担が激増していることから、幼児教育の質の低下が懸念されていると聞きます。

本年9月に開催された県の子ども・子育て会議でも、委員から同様の意見が出されたと聞きますが、待機児童解消のための保育の量の拡大だけでなく、保育の質の向上が求められています。

保育の質の向上のためには、研修においては、幼稚園、保育所等と分けて行うのではなく、同じ就学前の教育・保育を担う専門職として包括的に実施するという形が望ましく、また保育の質の向上のため、施設に向いて実際の指導状況を確認し、アドバイスする機能も必要ですが、現在、県には幼児教育行政を所掌する専門の独立組織が設置されていないため、推進体制が脆弱な状況にあります。

このため、都道府県単位で広域に幼稚園教諭、保育士、保育教諭、幼児教育アドバイザーに対する研修養成や現場での指導、相談業務、幼児教育の内容、指導方法等に関する調査研究やその成果の周知、市町や幼児教育施設に対する助言、情報提供を行う拠点として、県立幼児教育センターを設置するなど、幼児教育の推進体制の充実が必要です。ついては、全ての子どもに質の高い幼児教育が提供できるよう、そして小学校での生活、学習に円滑に移行できるよう、先進県として、幼児教育センターを県に設置するなど、幼児教育の推進体制の充実に取り組むべきと考えますが、ご所見をお伺いします。

答弁：西上三鶴教育長

私から、教育問題2点についてご答弁をいたします。

まず、幼児教育の推進に対するの充実についてであります。

幼児教育の指針となります幼稚園教育要領と保育所保育指針等が平成29年3月に同時に改訂されましたことから、幼稚園、認定こども園、保育所におけます3歳児以上の幼児教育の内容の整合性が図られております。この中では、遊びを通じて生きる力の基礎を育むことや幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を明確にした指導が求められております。県教育委員会といたしましては、この指針を基本といたしまして、教員の指導力、幼児の行動や心理を理解する能力を高めるため、指導方法の実践研究、また、公開保育を取り入れた研修会に取り組んでいるところでございます。

また、現在策定中の第3期教育創造プランにおきましては、小学校教育との円滑な接続のための取組の充実を重点施策に掲げております。

国におきましては、幼児教育の更なる資質の向上を目指しまして、研修や相談業務を行う担当部局の一元化とともに、ご質問にありました幼児教育センターの設置など、推進体制の整備を進めております。現在17府県で設置されているところでございます。

県教育委員会といたしましては、引き続き、小学校教育との円滑な接続に取り組むとともに、来年度におきまして、各担当部局との連絡会議、連絡協議会を新たに設置すること、併せまして、幼児教育センターが持っております研修、相談、情報などの機能を果たす試行的な取組が実施できるよう、現在検討を進めているところでございます。今後とも幼児教育の更なる質の向上に努めてまいりますので、引き続きご指導お願いいたしますと思います。

藤本百男議員〔9問目 県立高校の募集定員について〕

最後の質問は、少子化を見据えた県立高校のあり方についてであります。

兵庫県教育委員会が10月末に発表した来年度の公立高校の生徒募集計画によると、来春の国公立中学校の卒業見込み者数は、4万5,614人で、今春より1,492人減少することから、全日制高校の定員が1,000人、25学級分減ることとされました。全日制高校の定員減は5年連続で、来年度以降も国公立中学校の卒業見込み者数の減が続く見込みであり、少子化の影響は、高校の学級数の減少に大きな影響を及ぼしています。

その結果、学年単学級、あるいは2学級といった小規模校が増え、また現在は3学級規模であっても、数年内には学級数減を余儀なくされることが確実視される学校もあるのが現状であります。

これまでは、それぞれの県立高校が特色ある高校づくり等の改革に取り組み、生徒が学びたいことを学べる学校の選択肢を増やしてきましたが、小規模化が進む現状では、学習活動や部活動などの面で、生徒のニーズに十分に対応できない状況にも陥ることが予想されます。

こうした状況に対し、ICTを活用した遠隔授業の実施や複数校による合同チームでの部活動の実施などの対応が考えられていますが、そうした対応にも限界があることは言うまでもありません。

従来、少子化による中学校卒業生数の減少に対し、たとえ小規模化しても学級数を減らすことで、高校を存続させる方策がとられてきました。とりわけ生徒数の減少が著しい地方部では、通学事情を考慮する必要があることから、平成27年度の学区再編前の区域を範囲として、高校のある各市町別の中学校卒業生数の増減やこれまでの学級減の状況などをもとに翌年度の募集定員が決められています。

1市町に1校しかない市町にあっては、高校生が地域の課題研究などでさまざまな活動を行うことで、地域創生の原動力となっていることはもとより、そこに通うべき高校があり、自身が育った地元の高校へ通学することが卒業後の若者の地域外への人口流出防止策ともなっています。

人口減少に伴い、一律に学級減を行い、果ては廃校したり、市町外

の学校に統合されてしまうと地域の存続に関わる問題に発展してしまうことが懸念されます。

一方で、高度経済成長期等に開発された大規模住宅地のある市町では、開発時に複数の高校が設立されましたが、今やオールドニュータウン化して生徒数も減少し、統廃合が行われないうまま、学級数だけが減らされています。このため、小規模な高校が一つの市町内で複数残ってしまっている現状にあります。

こうした地域と1市町に1校しかない市町と、双方の人口動態や将来予測が考慮されていないために人口が逆転しているにもかかわらず、一律の学級数の減が行われているという矛盾が生じています。これまでの募集計画の決定方法を続けていたのでは、近い将来、学校の存立自体が危ぶまれる小規模校が林立し、高校教育の質を保持できなくなるのは誰の目にも明らかであります。

そこで、今後の少子化の進行を見据えて、募集計画、決定方法の見直し、検討などが必要と考えますが、今後の県立高校のあり方についてご所見をお伺いします。

以下は、質問席に移らせていただきます。

答弁：西上三鶴教育長

2点目は、少子化を見据えた県立高校のあり方についてであります。本県は、これまでから、高校教育を取り巻く制度や環境の変化、生徒ニーズの変化等を踏まえまして、新しいタイプの高校設置や発展的統合を進めます県立高等学校教育改革第1次計画、第1次実施計画、また、生徒の学校選択を拡大するため、特色化とともに通学区域の再編を行いました第2次実施計画などを策定するなど、有識者委員会の意見を聞きながら、高校改革を進めてまいりました。

平成27年度に行いました通学区域の導入で、新しい通学区域の導入でもって、学びたいことが学べる教育環境を整えることができたと考えております。しかしながら、平成30年度以降急激な生徒数の減

少が見込まれることから、学級数の一律削減を続けてまいりますと、多様な教育課程の編制や学校行事、そして部活動の活性化などに課題が生じる、教育活動全体の活力低下が危惧されているところでございます。このため、本年度策定いたします第3期兵庫教育創造プランにおきましても、人口減少等を踏まえた魅力と活力がある県立高校づくりを一層進めることとしております。

その中におきまして、今後の児童生徒数の推移、また、進路希望の動向、そして地域における高校への期待などの実情を十分踏まえながら、適切な時期に外部有識者の意見を聴取しつつ、新たな魅力づくりを含めて、県立高校の望ましい規模と配置のあり方について検討してまいりたいと思っております。併せまして、来年度以降の募集計画につきましても、このあり方の検討の視点を踏まえながら、適切に対応させていただきたいと思っております。引き続きご指導よろしくお願いいたします。

藤本百男議員〔コメント〕

知事、そして副知事から、非常に積極的な前向きなご答弁をいただいたと思っております。コメントをさせていただきます。

県庁整備については、私たちも報告は受けながら、いろいろ内側での議論はしておりましたが、県議会として、しっかりと議論を受け止めながら、これから県民の皆さんとともに進めていくことがいだろうというふうに思っております。非常に大きな事業でございますので、これが県民にとって、あるいは将来の兵庫県にとって、非常にすばらしいものになるように、私たちも取り組んでいきたいというふうに思っております。

それから自然災害ですが、これも本当に想定を超える自然災害が今年はたくさんございました。それに対して、いろいろ検証しながら、不備な点はしっかりとこれから備えていくということが大事でありまして、それについては、私たち議員としても県民の皆さんの声を聞き

ながら、そして県におかれてもしっかりと県民の声を聞きながら、着実にスピーディーに対策を進めていく。これが一番大事なことだと思っておりますので、よろしくお願ひしたい。

それから幼児教育センターであります。幼児教育センター、質問の中でも言いましたが、非常に大事な機能を持っているものだと思います。兵庫県が我々幼児教育関係者と話すときには、いつもそうですが、兵庫県は、全国的にも幼児教育については先進県である。その先進県がその力を発揮するようなセンターが欲しいというのは大きな声でありまして、また私たちも、単に幼児教育関係者のみならず、家庭教育、子育て中の親御さんたちにとっても大事なものであるというふうに思います。今日、あそこの親子傍聴席に親子（藤本議員の娘夫婦と2ヶ月余りの孫）がおります。あの子供が50年先、やっぱりこの兵庫で幼児教育をしっかり受けて、そして兵庫が好きになって、また兵庫のために働くように、頑張るように、そんな幼児教育、幼児期の教育しっかりとさせていただきたいと思ひます。よろしくお願ひしたいと思ひます。

高校のあり方についても、そういう検討をしていただくということで、ぜひ地域の声、それから現状、しっかりと捉えて、従来のやり方、本当に社会は変わっているわけですから、それに対応するように英知と勇気を持って取り組んでいっていただきたいというふうに思ひます。兵庫県150年の次、本当に底力を発揮できるような来年度予算、そして来年度になるように頑張りたいと思ひます。私たちもちろん責任政党として、しっかりと責任を果たしていきたいということを決意を表明して、質問を終わりたいと思ひます。ありがとうございました。

平成30年度後半(30年9月～令和元年5月)活動

月 日	曜	活 動 内 容
9月1日	土	自民党兵庫県第九区淡路支部と県会有志で安倍首相懇談
9月2日	日	上福田地区ふれあい敬老会 初日会(東条)
9月3日	月	警察常任委員会管内調査(東播淡路地区)①
9月4日	火	台風21号通過のため調査中止 加東
9月5日	水	井戸知事に重要政策提言 行革特別委団内打合せ
9月6日	木	北海道で地震 県庁執務 加東土木・加古川流域土地改良説明(加東事務所)
9月7日	金	行財政改革特別委員会 自民党加東市支部役員会
9月8日	土	
9月9日	日	全国ジュニア空手新人育成選手権大会(加東)
9月10日	月	県庁執務(執行部会議等) はばタンメッセージボード
9月11日	火	「東条川疏水の魅力」講演(嬉野台生涯教育センター)
9月12日	水	県立社高校体育大会 日本会議北播磨支部例会 県庁執務
9月13日	木	県庁執務
9月14日	金	和心書道展 加東事務所
9月15日	土	兵庫教育大学附属中体育祭 社におわ邸(社商店街)
9月16日	日	加東市立3中学校体育大会(社、滝野、東条) 加東事務所
9月17日	月	「敬老の日」
9月18日	火	議会運営委員会 自民県議団総会 教育を考える会
9月19日	水	警察常任委員会 政調会長室執務
9月20日	木	自民党各種友好団体との意見交換会① 北播政経懇話会(加西)
9月21日	金	自民党各種友好団体との意見交換会② 県生涯スポーツ連合20周年記念式典
9月22日	土	第51回日本女子ソフトボールリーグ尼崎支部懇親会
9月23日	日	加東市内4小学校運動会(米田、鴨川、滝野東、滝野南)
9月24日	月	山田錦で乾杯まつり・山田錦の里探訪ウォーク(加東市)
9月25日	火	第341回定例県議会開会 行革特別委 文化振興議連
9月26日	水	県庁執務
9月27日	木	県庁執務
9月28日	金	県議会本会議(代表質問) 議会運営委員会 団総会
9月29日	土	美しい日本の憲法をつくる兵庫県民の会総会・講演会(神戸) ・加東市内こども園運動会(河高・加茂・高岡・たきの愛児)
9月30日	日	台風24号接近 加東事務所

10月1日	月	本会議（一般質問） 議会運営委 自民県議団総会
10月2日	火	本会議（一般質問） 看護を支援する議員の会
10月3日	水	本会議（一般質問） 議会運営委 自民議員団総会 決算特別委
10月4日	木	警察常任委員会 行革特別委 決算特別委 各会派政調会
10月5日	金	議会運営委員会 団総会 本会議 再犯防止勉強会 佐保神社秋祭上組屋台保存会前夜祭
10月6日	土	加東市小学生陸上競技大会 市内保育園運動会 佐保神社秋祭宵宮 屋台巡行 宵宮芸能大会
10月7日	日	佐保神社秋祭本宮 屋台巡行
10月8日	月	加東事務所
10月9日	火	執行部会議 政調会室執務
10月10日	水	決算特別委員会（財政状況）
10月11日	木	決算特別委員会（企画県民部）
10月12日	金	決算特別委員会（健康福祉部）
10月13日	土	社地区敬老会 附属幼稚園運動会 はたらくくるま大集合 やしろ歴史研学習会
10月14日	日	社幼稚園運動会 上滝野地区敬老会 兵教大40周年記念式典（神戸市）
10月15日	月	決算特別委員会（産業労働部・公安委員会） 各会派政調会長会
10月16日	火	決算特別委員会（農政環境部）
10月17日	水	決算特別委員会（県土整備部）
10月18日	木	決算特別委員会（教育委員会）
10月19日	金	決算特別委員会（病院局・企業庁）
10月20日	土	北野地区・新町地区敬老会 わかあゆ園運動会 大豊議員県政報告会
10月21日	日	加東市議会議員選挙投票 社小授業参観 東条コスモス杯ゲートボール大会 河高コスモスまつり 秋津住吉神社秋祭 播州音頭研究大会
10月22日	月	自民県議団執行部会 政調会長室執務
10月23日	火	決算特別委員会（総括審査） 各会派政調会長会
10月24日	水	政務調査会長室執務
10月25日	木	北播磨農業改良普及事業推進懇談会（加西市） 加東土木事務所来所
10月26日	金	本会議（閉会） 議会運営委 議会改革検証委員会 自民党県議団健康福祉部会（ナミねえの講演）
10月27日	土	加東市秋のフェスティバル 上組帳破り
10月28日	日	加東市秋のフェス菊花展表彰 米田地区長寿を祝う会
10月29日	月	県議会政策法務研修会 自民県議団文教部会
10月30日	火	警察常任委員会 自民県議団健康福祉部会
10月31日	水	警察常任委員会管内調査（西播磨地区①）

Ⅱ 平成30年9月～令和元年5月の議員活動記録

11月1日	木	警察常任委員会管内調査（西播地区②） 初日会
11月2日	金	運転免許更新（明石） 加東事務所
11月3日	土	兵庫県釣針協同組合80周年記念式典 下滝野地区敬老会
11月4日	日	加東市文化連盟祭 加東市ふれあい球技大会 河高地区敬老会
11月5日	月	議会運営委員会 関西広域連合議会連携協議会 団総会 執行部会議
11月6日	火	加東事務所執務
11月7日	水	兵庫県連合自治会創立50周年記念式典 政調会長室執務
11月8日	木	自衛消防競技大会（加東消防署）
11月9日	金	ふじもと百男後援会ゴルフコンペ（加東市内）
11月10日	土	兵庫県警白バイ安全運転競技大会 加東市金婚を祝う会 福田地域敬老会 いけばな展（末廣流）
11月11日	日	県庁加東クラブ総会（加東市内） 加東市柔道大会 加東市ふれあい球技大会
11月12日	月	自民党県議団執行部会 自民党兵庫県連女性局りぶるの集い
11月13日	火	加東事務所
11月14日	水	警察常任委員会管外調査①（茨城県）
11月15日	木	警察常任委員会管外調査②（東京都）
11月16日	金	警察常任委員会管外調査③（東京都、千葉県）
11月17日	土	北播磨の食と農の祭典 加東市民安全大会 社小学校ごりょうが丘フェスティバル
11月18日	日	加東市子ども秋まつり 県立やしらの森収穫祭 穂積地区敬老会
11月19日	月	県庁執務 自民県議団執行部会議
11月20日	火	警察常任委員会 県庁執務
11月21日	水	自民党加東市支部移動研修会（楠公ゆかりの地探訪）
11月22日	木	県庁執務
11月23日	金	加東事務所
11月24日	土	東条地域ミニ文化祭 北はりまふるさとフェスタ（小野市） 尼崎ソフトボール協会60周年記念式典
11月25日	日	東条川疏水の日シンポジウム 県ソフトボール協会常任理事会
11月26日	月	執行部会議 県議会サテライトゼミ
11月27日	火	議会運営委 議会改革検証委 自民県議団総会 自民県議団政調理事会 薬剤師を支援する議員の会
11月28日	水	知事への予算申し入れ 県庁執務
11月29日	木	全国ため池フォーラム（神戸市） 県庁執務
11月30日	金	学ぶ高齢者中央大会 加東事務所

12月1日	土	小西副議長就任祝賀会
12月2日	日	加東市童謡唱歌まつり 子ども会親善サッカー大会
12月3日	月	自民党県議団執行部会
12月4日	火	第342回定例県議会（開会） 議運、団総会、
12月5日	水	政調会長室執務
12月6日	木	各会派政調会長会① 看護を支援する議員連盟知事要望
12月7日	金	本会議（代表質問に登壇） 文化振興議員連盟
12月8日	土	加東市長杯中学軟式野球大会 加東市ふれあいパラリンピック 社子ども園クリスマス 道の駅とうじょう感謝祭 うれしの生涯大学作品展
12月9日	日	加東軟式野球協会・中体連懇話会 諸行事委員会懇話会
12月10日	月	本会議（一般質問） 自民執行部会
12月11日	火	本会議（一般質問） 議運、団総会、県水産振興議連
12月12日	水	警察常任委員会 告別式（長谷川市議） 加東事務所
12月13日	木	各会派政調会長会③ 与党連絡会（知事と自民執行部） わくわくオーケストラ
12月14日	金	第342回定例県議会（閉会） 議運、団総会、自民県議団懇談会
12月15日	土	社3区町内会長会
12月16日	日	加東事務所
12月17日	月	自民党議員団執行部会議 自民県議団文教部会
12月18日	火	警察常任委員会 ひょうご水土里ふるさとフォーラム
12月19日	水	加東警察署要望 兵庫私学との意見交換
12月20日	木	政調会長室執務 兵庫県測量設計業協会との意見交換会
12月21日	金	拉致問題舞台公演（神戸市） 政調会長室執務
12月22日	土	牧野地区ふれあい喫茶 加東事務所
12月23日	日	加東市ロードレース大会
12月24日	月	加東事務所
12月25日	火	政調会長室執務
12月26日	水	政調会長室執務
12月27日	木	政調会長室執務
12月28日	金	仕事納め 加東事務所 消防年末警戒発団式・激励回り
12月29日	土	消防年末警戒発団式・激励回り
12月30日	日	加東事務所
12月31日	月	加東事務所 持寶院除夜の鐘
1月1日	火	元朝式 地区初総会挨拶回り
1月2日	水	年賀（持寶院） 初詣（佐保神社、出雲大社分院）、附属中同窓会
1月3日	木	地区初総会、社農会挨拶回り

Ⅱ 平成30年9月～令和元年5月の議員活動記録

1月4日	金	仕事始め（加東事務所） 初日会 社高校24回生同窓会
1月5日	土	伝の助かるた大会 新春書初大会
1月6日	日	地区初総会挨拶回り
1月7日	月	自民県議団執行部会 新年保育の集い B i o 専門店街新年会
1月8日	火	兵庫県警本部視閲式 県庁執務 加東LC新春例会
1月9日	水	自民党政務調査会① 県社労士会新年互礼会
1月10日	木	自民党政務調査会② 県医師会新年互礼会
1月11日	金	自民党政務調査会③
1月12日	土	加東市新春交歓会
1月13日	日	加東市新成人の集い 地区初総会挨拶回り
1月14日	月	各地区初総会・挨拶回り 後援会打ち合わせ
1月15日	火	県庁（執行部会議、来客等）
1月16日	水	議会運営委員会 自民党県議団総会 防衛議員連盟総会
1月17日	木	ひょうご安全の日（神戸にて） 県庁執務
1月18日	金	警察常任委員会 鴻池家告別式
1月19日	土	加東市連合婦人会新春の集い 青野原駐屯地新春互礼会
1月20日	日	加東伝の助マラソン 各地区初総会挨拶回り 社二十日会新年会
1月21日	月	県庁（執行部会議）
1月22日	火	加東事務所 後援会役員会
1月23日	水	東消協ひろば展（多可町） 自民党加東市支部幹事会
1月24日	木	県庁執務 天皇陛下ご在位30周年実行委員会
1月25日	金	東条西小4年生県庁見学 北播政経懇新春例会（西脇）
1月26日	土	環境を考えるかとう市民の集い 大河の会講演会（小野市）
1月27日	日	加東軟式野球協会総会 各地区初総会挨拶回り
1月28日	月	加東警察署術科始め式 県看護連盟新年互礼会
1月29日	火	県立社高校生活科学科課題研究発表会 県庁執務
1月30日	水	加東事務所 後援会役員会
1月31日	木	県庁執務
2月1日	金	加東事務所
2月2日	土	加東ライオンズクラブ献血広報活動 加東事務所
2月3日	日	地区初総会 加東市公募美術展 県ソフトボール協会常任理事会
2月4日	月	自民議員団執行部会議 政調会長室執務
2月5日	火	加東ライオンズクラブ献血奉仕活動 県酒米試験地見学
2月6日	水	政調会長室執務 県地域安全まちづくりセミナー（公館）
2月7日	木	加東事務所 政調会長室執務

2月8日	金	井戸知事に3党派合同申し入れ 議会運営委員会 自民議員団総会・政調理事会 観光振興議連
2月9日	土	自民党加東市支部総会・講演会 河高こども園発表会
2月10日	日	榎倉香邨書展(小野市) 神結酒造蔵まつり Bioフリマ 加東市連合PTA「PTCA活動実践発表会」
2月11日	月	天皇陛下御在位30年を祝う県民の集い(神戸市) 河高八幡厄神祭り 東光寺大日如来祭り
2月12日	火	自民議員団執行部会議 政調会長室執務 後援会役員打合せ
2月13日	水	警察常任委員会 政調会長室執務
2月14日	木	北播磨県民局説明(加東事務所) 後援会本部役員会
2月15日	金	第343回定例県議会開会 北播磨日本酒元町バル 県庁稲門会総会(神戸)
2月16日	土	加東市高齢者大学閉講式 社のおにわ亭見学 北播磨地域夢会議(加西市) 社3区役員会
2月17日	日	加東事務所
2月18日	月	自民議員団執行部会議 政調会長室執務
2月19日	火	議会運営委員会 本会議 関西広域連合連携協議会
2月20日	水	本会議代表質問 後援会本部役員会
2月21日	木	本会議一般質問① 自民議員団総務部会
2月22日	金	本会議一般質問② 文化振興議員連盟役員会
2月23日	土	宮崎良平氏黄綬褒章受章祝賀会 内藤議員県政報告会(多可)
2月24日	日	内藤議員県政報告会(西脇) 加東事務所
2月25日	月	本会議一般質問③ 「憲法改正を進める講演会」(神戸)
2月26日	火	本会議一般質問④ 予算特別委員会設置 委員長に選出される
2月27日	水	警察常任委員会 予算特別委員会(説明聴取) 後援会本部役員会
2月28日	木	議会運営委員会 本会議 自民議員団総会
3月1日	金	予算特別委員会 東条初日会
3月2日	土	後援会事務所開き(社3番地) 加東市酒米生産者大会
3月3日	日	加東市長杯ジュニア空手選手権大会 兵庫県ソフトボール協会理事総会
3月4日	月	予算特別委員会
3月5日	火	予算特別委員会 各党派政務調査会長会
3月6日	水	予算特別委員会
3月7日	木	予算特別委員会 まほろばWith20号発刊
3月8日	金	予算特別委員会 加東市経済懇話会交流会
3月9日	土	県政報告会(東条地域) おもちゃ王国の休日 童謡唱歌を楽しむ会
3月10日	日	岡つよし県議県政報告会(加古郡)

Ⅱ 平成30年9月～令和元年5月の議員活動記録

3月11日	月	予算特別委員会（教育委員会）
3月12日	火	県庁執務
3月13日	水	予算特別委員会（総括審査） 各会派政務調査会長会
3月14日	木	自民県議団と各種友好団体との意見交換会①
3月15日	金	自民県議団と各種友好団体との意見交換会②
3月16日	土	予算特別委員会議事会
3月17日	日	県政報告会（滝野地域）
3月18日	月	本会議 議運 警察常任委 自民県議団総会
3月19日	火	警察常任委員会
3月20日	水	本会議（閉会） 播磨臨海地域道路促進議連 社二十日会
3月21日	木	東播磨南北道北工区着工式（小野市エクラ交流館）
3月22日	金	兵庫県東播土地改良区総会
3月23日	土	東古瀬こども園卒園式 鹿島学園高校卒業式 県政報告会（社地域）
3月24日	日	河高安取雨水ポンプ竣工式 新定地区老人会総会 コスモス加東少年少女合唱団30周年演奏会
3月25日	月	まほろばWith21号発刊 社こども園閉園式
3月26日	火	後援会事務所
3月27日	水	加古川西部土地改良区総会
3月28日	木	県庁執務
3月29日	金	県議選告示 4回目当選
3月30日	土	自民党県連本部 後援会本部 神戸市内候補者応援
3月31日	日	神戸市内候補者応援 事務整理（加東事務所）
4月1日	月	新元号「令和」発表 加東市民病院受診
4月2日	火	自主運行バス「とうじょうあいあい号」発信式 選挙応援（宝塚市）
4月3日	水	県庁執務 青野原駐屯地観桜会
4月4日	木	加東事務所
4月5日	金	加東市立加東みらいこども園入園式 県庁 選挙応援（神戸市灘区）
4月6日	土	加東事務所 佐保神社宮総代会主催「令和」発表観桜会
4月7日	日	社一区老人会「ゆらの会」総会 事務所執務
4月8日	月	当選証書付与（加東市役所） 社高校入学式 兵教大学長来所
4月9日	火	社小学校、社中学校入学式
4月10日	水	県庁執務 自民議員団執行部会議、入団式
4月11日	木	県庁執務 志士の会会議
4月12日	金	東播磨グラウンド・ゴルフ協会総会 県庁 総務幹事会・議員団総会 加東市商工会女性部通常総会

4月13日	土	北播磨自衛隊家族会総会 上滝野地区老人会総会 加東市商工会青年部総会
4月14日	日	加東市消防出初式 社分団出初式・交流会
4月15日	月	自民党県議団執行部会議
4月16日	火	うれしの学園生涯大学入学式 県体協団体会長・理事長会
4月17日	水	三木警察署新庁舎落成式 加東事務所
4月18日	木	人間ドック（加東市民病院）
4月19日	金	加東市グラウンドゴルフ協会総会 県庁執務（安田市長等来室） 自民党議員団総務・幹事会 議員団総会 新旧執行部引き継ぎ
4月20日	土	社三区役員会 加東事務所執務
4月21日	日	上滝野・光明寺地区合同運動会 河高地区運動会 鴨川桜まつり みのりJ A女性会総会
4月22日	月	加東市異業種交流会総会 小山教育研修所長来所
4月23日	火	加東事務所
4月24日	水	加東事務所
4月25日	木	県酒米試験地竣工式 北播政経懇話会（フラワーセンター）
4月26日	金	コスモス会総会 加東市老連総会
4月27日	土	加東市連合婦人会総会（社公民館） 日本会議北播磨西脇支部役員会
4月28日	日	加東事務所
4月29日	月	秋津百石踊り 高岡地区運動会 朝起会
4月30日	火	加東事務所
5月1日	水	第126代天皇ご即位 令和改元 加古川川開神事 青峰会総会 初日会例会
5月2日	木	
5月3日	金	加東市花まつり・鮎まつり 花火をめぐる会
5月4日	土	うれしの春のフェスティバル（生涯教育センター）
5月5日	日	朝光寺鬼まつり（鬼追踊）
5月6日	月	
5月7日	火	ひょうごの農業の未来を考える会（小野市エクラ）
5月8日	水	加東市いずみ会総会
5月9日	木	加東事務所
5月10日	金	加東事務所
5月11日	土	兵庫県小学生男女ソフトボール大会（丹波篠山市）加東市文化連盟総会
5月12日	日	加東市地区親善ソフトボール大会 県ソ協審判員認定講習会 加東市更生保護女性会総会 朝光寺小松英典コンサート
5月13日	月	東条湖水天宮祭 加東土木事務所説明（事務所）
5月14日	火	県庁執務

Ⅱ 平成30年9月～令和元年5月の議員活動記録

5月15日	水	自民党議員団総会 志士の会
5月16日	木	加東L C 記念家族例会
5月17日	金	加東事務所
5月18日	土	播磨臨海地域道路促進大会（加古川市） 兵教大附中体育祭 社高校P T A 総会 加東市子連協総会
5月19日	日	青野原駐屯地創設記念式典・訓練展示 加東市家庭バレーボール連盟会長杯争奪大会
5月20日	月	社二十日会例会 加東事務所
5月21日	火	加東市人権同和研究会総会 加東L C 例会
5月22日	水	加東市商工会総代会 日本会議北播磨支部役員会
5月23日	木	加東土木事務所説明（事務所）
5月24日	金	自民党県議団議員団総会
5月25日	土	加東市花と緑のまつり 加東市陸上競技大会（社高）
5月26日	日	加東市花と緑のまつり かだ裕之政経パーティー
5月27日	月	内外情勢調査会神戸支部例会 兵庫県宅建協会総会
5月28日	火	加東市シルバー人材協会総会 兵庫県釣針協同組合総会
5月29日	水	北播磨建設業協会総会 自民党加東市支部役員会
5月30日	木	
5月31日	金	社高校尚友会職員歓送迎会



◆著者紹介

藤本百男 ふじもと ひやくお

- 昭和28年10月31日 兵庫県加東郡社町社生（現加東市社）
- 兵庫県立社高等学校、早稲田大学法学部卒業
- 国公立学校教員（兵庫教育大学附属小学校、同附属中学校教諭、
兵庫県加古川市立小学校、滝野町立滝野東小学校教諭）
- 兵庫教育大学大学院修士課程修了（教育学修士）
- 神戸商科大学・兵庫県立大学非常勤講師（兼職）
- 社町史編纂委員
- 平成19年4月 兵庫県議会議員初当選
農政環境常任副委員長、総務常任副委員長
- 平成23年4月 兵庫県議会議員2回目当選
自民党県議団副政調会長、副幹事長、文教部会長
健康福祉常任委員長
- 平成27年4月 兵庫県議会議員3回目当選
文教常任委員長 自民党県議団文教部会長
第124代兵庫県議会副議長（平成28年6月11日～29年6月9日）
議員定数等調査特別委員 自民党県議団農政環境部会長
自民党県議団政務調査会長（30年4月～31年4月）
行財政構造改革特別委員 決算特別委員 予算特別委員長
- 平成31年4月 兵庫県議会議員4回目当選
関西広域連合議会議員 自民党県議団総務部会長
自由民主党兵庫県連政務調査会長（令和元年6月～）
- 自民党加東市支部支部長、日本会議兵庫北播磨支部支部長、
加東軟式野球協会会長、兵庫県ソフトボール協会会長、
県立社高等学校尚友会会長、兵庫県釣針協同組合顧問等
- 県政シリーズI「東条川疏水」
県政シリーズII「終戦70年 慰霊を考える 加東市内の忠魂碑・慰霊塔」
県政シリーズIII「ふるさと加東の道標・道路元標」
県政シリーズIV「加東四国八十八ヶ所霊場・議会改革一年の歩み」
県政シリーズV「加東の近代史を彩る人物像・29年度議会活動報告」
県政シリーズVI「神と仏と人の出会う里加東・30年度後半議会活動報告」

県政資料 ふるさと加東の歴史再発見シリーズ VI

—令和新時代の幕開け—

～神と仏と人の出会う里 加東～

—平成30年9月～令和元年5月議会活動報告—

発行日 令和元年7月吉日

著者 兵庫県議会議員 藤本百男

発行所 藤本百男事務所

〒673-1431 兵庫県加東市社1491-1

TEL(0795)43-8270 FAX(0795)20-6675

印刷所 株式会社吉本宝文堂

〒675-1343 兵庫県小野市来住町883-2

TEL(0794)63-4011 FAX(0794)62-5252

非売品



大日ったん護摩焚き



河高八幡厄神祭り



稲尾の虫送り